仙台市文化財調査報告書第395集

仙台城跡 11

ー 平成22年度　調査報告書 ー

2011年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第395集

仙台城跡 11

― 平成22年度　調査報告書 ―

2011年3月

仙台市教育委員会

仙台城跡鳥瞰写真（東から・2007年10月撮影）

仙台市内鳥瞰写真（西から・2007年10月撮影）

第26次調査区　1区全景（北東から）

1号建物跡付近全景（東から）

１区西部　２号建物跡付近（南東から）

水利遺構全景（北から）

カマド跡全景（東から）

カマド跡本体部全景（南から）

炉跡検出状況（東から）

炉跡全景（北から）

第26次調査区　２区全景（北から）

２区　KS1004溝跡断面（西から）

肥前染付碗

肥前京焼風陶器碗

肥前染付皿

京・信楽色絵香炉

肥前染付長皿

備前大甕

肥前青磁中皿

小柄と柄鏡

序　　文

慶長５年、初代仙台藩主伊達政宗が仙台城の縄張り始めを行い、城下のまちづくりを行ってから、四百年余りが過ぎ、仙台市は人口100万人を超える東北地方の中心都市となりました。市の中心部が、近代的なビルの林立する都市化の波にさらされていく中にあって、仙台城跡は市街地から最も近い緑豊かな場所として、青葉城や天守台といった愛称で、市民から親しまれてきました。

遺跡としての仙台城跡は、平成９年度から15年度まで行われた本丸石垣修復工事に伴う発掘調査や、平成13年度から始められた国庫補助による学術調査によって、中世の山城であった千代城期や、伊達氏の居城期の内容が徐々に明らかとなってきました。

これらの発掘で新たに判明した石垣の変遷や、ヨーロッパ産のガラス器・金銅金具等の貴重な出土品などから、仙台城跡は我が国の近世を代表する城郭遺跡であることが評価され、平成15年８月、国の史跡に指定されました。これを契機として、仙台城跡の保存管理及び整備に向けた、「仙台城跡整備基本計画」が策定される等、仙台城跡の様々な魅力を引き出すための取り組みが始まっております。

こうした中で、平成22年度は清水門南側の造酒屋敷跡の発掘調査が行われました。調査では、造酒屋敷の一部と考えられる礎石建物跡が三棟見つかりました。また、酒造りの原料米を蒸す際に利用していたと考えられるカマド跡などの遺構が発見され、屋敷の構造が徐々に明らかになってきました。

今回の調査事業及び調査報告書の刊行にあたり、多くの方々からご指導、ご協力を賜りましたことを深く感謝申し上げますとともに、本報告書が研究者のみならず市民の皆様に広く活用され、文化財保護の一助となれば幸いです。

平成23年３月

仙台市教育委員会
教育長　青　沼　一　民

例　　言

1．本書は、仙台城跡の平成22年度遺構確認調査及び遺構測量調査、広瀬川護岸石垣測量図化業務の報告書である。
　本書の内容は既に刊行している遺跡見学会資料や各種の発表会資料に優先する。
2．本調査は、国庫補助事業である。
3．本報告書の作成にあたり、次のとおり分担した。
　本文執筆　　村上　芳成（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ-1・Ⅴ）
　　　　　　　佐藤　　洋（Ⅳ-2～6）
　陶磁器ほかの観察については佐藤が行った。
　編集は、佐藤・村上がこれにあたった。
4．広瀬川護岸石垣測量図化業務は、㈱センソクコンサルタントに委託した。
5．発掘調査及び遺物整理にあたり、次の方々と機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝申し上げます。
　（敬称略・順不同）
　天野順陽（宮城県教育庁文化財保護課）
　鵜飼幸子、菅野正道、（仙台市博物館）
　仙台市博物館
6．本調査に係わる出土遺物、実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．本書中の地形図は、国土地理院発行の1：50,000『仙台』と1：10,000地形図『青葉山』の一部を使用している。
2．遺構図の平面位置図は平面直角座標系X（日本測地系）を用いており、文中で記した方位角は真北線を基準とし、高さは標高値で記した。
3．遺構略号は、全遺構に通し番号（国庫補助調査による検出遺構番号：KS-　）を付した。
4．本報告書の土色については、『新版標準土色帖』（古山・佐藤：1970）を使用した。
5．本書に使用した遺物図版縮尺は、陶磁器類・土器類は1：3、瓦は1：6、金属製品は1：2、木製品は1：4、石製品は1：2を原則としている。
6．第21次・23次調査で報告した遺物でも、今回新たに接合したものは改めて図化し掲載した。
7．遺構の法量で（　）で示した数値は、検出範囲内での計測値を示している。
8．遺物の法量で（　）で示した数値は残存部値、「－」は計測不能を示している。

目　　次

巻頭写真図版
序　文
例　言
凡　例
目　次

Ⅰ．はじめに……………………………………………………1
Ⅱ．仙台城跡の概要
　1．仙台城跡の地理的環境……………………………………3
　2．仙台城跡の歴史的環境……………………………………3
　3．仙台城跡の発掘調査………………………………………5
Ⅲ．調査計画と実績……………………………………………6
Ⅳ．第26次調査
　1．調査目的及び調査経過……………………………………8
　2．旧地形及び基本層序………………………………………9
　3．検出遺構……………………………………………………10
　4．出土遺物……………………………………………………52
　5．絵図の検討…………………………………………………84
　6．まとめ………………………………………………………88
Ⅴ．広瀬川護岸石垣測量図化…………………………………93

引用・参考文献

挿図目次

第１図　仙台城跡と周辺の遺跡……2
第２図　焼失以前の大手門と脇櫓……3
第３図　仙台城跡の遺跡範囲……4
第４図　仙台城本丸現存石垣解体修復工事前……4
第５図　仙台城本丸現存石垣解体修復工事後……4
第６図　本丸北壁石垣北東角部旧石垣検出状況……5
第７図　本丸北壁石垣背面階段状石列検出状況……5
第８図　仙台城跡遺構確認調査・調査区位置図……7
第９図　第26次調査区配置図……8
第10図　調査前の状況……9
第11図　第26次調査遺構平面図……11・12
第12～14図　第26次調査１区断面図……13～18
第15図　第26次調査２・３区断面図……16
第16～17図　第26次調査１区断面図……17～18
第18図　１区KS-917カマド跡平・断面図……32
第19図　１区KS-985炉跡平・断面図……37
第20図　近・現代遺構平面図（第23次・第26次調査）…39
第21図　第26次調査出土磁器１……56
第22図　第26次調査出土磁器２……57
第23図　第26次調査出土磁器３……58
第24図　第26次調査出土陶器１……59
第25図　第26次調査出土陶器２……60
第26図　第26次調査出土陶器３……61
第27図　第26次調査出土陶器４……62
第28図　第26次調査出土土師質土器・瓦質土器……63
第29図　第26次調査出土瓦１……64
第30図　第26次調査出土瓦２……65
第31図　第26次調査出土瓦３……66
第32図　第26次調査出土石製品・レンガ……67
第33図　第26次調査出土金属製品１・べっ甲製品……68
第34図　第23次調査出土金属製品２……69
第35図　第26次調査出土木製品・皮革製品……70
第36図　仙台城内欅森御酒屋之図……86
第37図　欅森御酒屋模式図……87
第38図　造酒屋敷跡第3次調査１区建物跡位置図…91・92
第39図　広瀬川護岸石垣（大橋南側）全景……93
第40図　広瀬川護岸石垣測量図化位置図……93
第41図　広瀬川護岸石垣立面写真……94
第42図　広瀬川護岸石垣立面図・縦横断図１……95・96
第43図　広瀬川護岸石垣立面図・縦横断図２……97・98
第44図　広瀬川護岸石垣写真……99

挿表目次

第１表　これまでの調査実績……6
第２表　調査計画表……6
第３表　調査実績表……7
第４～８表　第26次調査土層注記表……19～23
第９表　第26次調査出土陶磁器他数量表……52
第10表　第26次調査出土瓦数量表……54
第11表　第26次調査出土金属製品数量表……55
第12表　第26次調査出土石製品数量表……55
第13表　第26次調査出土木製品他数量表……55
第14表　第26次調査出土磁器１観察表……56
第15表　第26次調査出土磁器２観察表……57
第16表　第26次調査出土磁器３観察表……58
第17表　第26次調査出土陶器１観察表……59
第18表　第26次調査出土陶器２観察表……60
第19表　第26次調査出土陶器３観察表……61
第20表　第26次調査出土陶器４観察表……62
第21表　第26次調査出土土師質土器・瓦質土器観察表…63
第22表　第26次調査出土瓦１観察表……64
第23表　第26次調査出土瓦２観察表……66
第24表　第26次調査出土石製品観察表……67
第25表　第26次調査出土レンガ観察表……67
第26表　第26次調査出土金属製品１観察表……68
第27表　第26次調査出土べっ甲製品観察表……68
第28表　第26次調査出土金属製品２観察表……69
第29表　第26次調査出土木製品観察表……70
第30表　第26次調査出土皮革製品観察表……70
第31表　第26次調査出土磁器観察表……73
第32表　第26次調査出土陶器観察表……76
第33表　第26次調査出土瓦観察表……80
第34表　第26次調査出土漆器観察表……83

写真図版目次

写真図版１　第26次調査　１区全景・土層断面・１区遺構１…40
写真図版２～11　第26次調査　１区遺構２～11…41～50
写真図版12　第26次調査　１区遺構12・２区・３区…51
写真図版13～15　第26次調査出土磁器１～３……71～73
写真図版16～18　第26次調査出土陶器１～３……74～76
写真図版19　第26次調査出土土師質土器・瓦質土器…77
写真図版20～22　第26次調査出土瓦１～３……78～80
写真図版23　第26次調査出土金属製品・べっ甲製品…81
写真図版24　第26次調査出土石製品・レンガ……82
写真図版25　第26次調査出土木製品・漆器・皮革製品…83

Ⅰ．はじめに

平成22年度は、仙台城跡遺構確認調査第２次５カ年計画の５年次にあたり、下記の体制で臨んだ。（敬称略、順不同）

調査主体	仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課仙台城史跡調査室）		
調査担当	文化財課	課長	吉岡　恭平
		仙台城史跡調査室長	工藤　哲司
		主査	佐藤　　洋
		主任	熊谷　俊朗
		主任	佐藤　　淳
		文化財教諭	村上　芳成

発掘調査、整理を適正に実施するために調査指導委員会を設置し、指導・助言を受けた。

委員長	岡田　清一	（東北福祉大学教授　中世史）
副委員長	平川　　新	（東北大学東北アジア研究センター教授　近世史）
委　員	岡崎　修子	（㈶仙台ひと・まち交流財団　仙台市柏木市民センター館長）
	北野　博司	（東北芸術工科大学准教授　考古学）
	西　　和夫	（神奈川大学客員教授　建築史）
	藤沢　　敦	（東北大学埋蔵文化財調査室特任准教授　考古学）

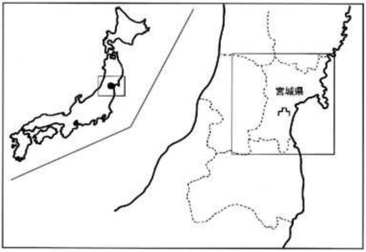
（委員は五十音順）

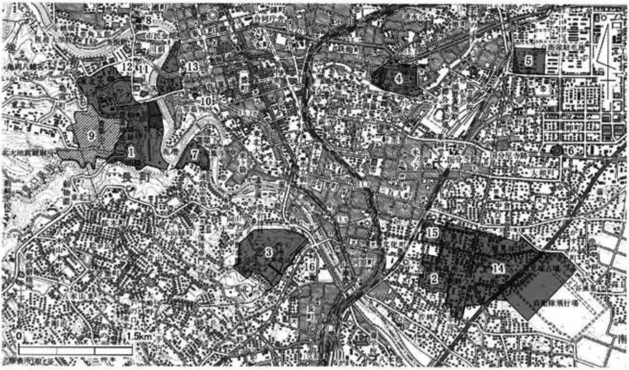
仙台城跡調査指導委員会開催日

第25回：平成22年９月28日　第26次調査中間報告・若林城跡第11次調査中間報告・仙台城跡の整備計画

第26回：平成23年３月11日　第26次調査報告・若林城跡第11次調査報告・平成23年度調査計画

調査および整理参加者　安部文子、天野美津枝、内山陽子、太田裕子、小佐野直子、小野寺美智子、菅家婦美子、木幡真喜子、竹内美江子、対馬悦子、菱沼みのり、堀内泰子、増田瑞枝、三嶋典子、結城龍子、吉田妃紹子、渡邉　優





城館跡		5	南目城跡	9	川内古碑群	14	南小泉遺跡
1	仙台城跡	6	谷地館跡	10	片平仙台大神宮の板碑	15	養種園遺跡
	天然記念物青葉山（斜線部分）	墓所		その他の中・近世の主な遺跡		16	杉土手（鹿除土手）
2	若林城跡	7	経ヶ峯伊達家墓所	11	川内A遺跡		
3	茂ヶ崎城（大年寺跡）	板碑・石碑		12	川内B遺跡		
4	国分聰館跡	8	瀬不動尊文永十年板碑	13	桜ヶ岡公園遺跡		

第1図　仙台城跡と周辺の遺跡（中・近世）

Ⅱ．仙台城跡の概要

１．仙台城跡の地理的環境

仙台城跡は仙台市街地の西方に位置し、青葉山丘陵及びその麓の河岸段丘部分を中心に城域が形成されている。青葉山丘陵は東を流れる広瀬川に向かい迫り出し、広瀬川とその支流の竜ノ口渓谷の浸食により高さ70mほどの断崖を形成しており、その丘陵上の平場（標高115～117m）に仙台城の本丸は位置する。本丸の規模は、東西245m、南北267mを計り、南側は落差約40mの竜ノ口渓谷、東側は広瀬川に落ちる高さ約70mの断崖に守られた天然の要害となっており、比較的傾斜の緩やかな本丸北側には約17mの高さを有する石垣が築かれている。尾根続きとなっている本丸西側には「御裏林」と呼ばれた森林が広がり、貴重な自然が残るために国指定天然記念物「青葉山」となっている。御裏林では、３条の大規模な堀切などが確認されている。本丸跡の麓部の河岸段丘には二の丸跡と三の丸跡が位置しており、二の丸跡は仙台上町段丘面、三の丸跡は仙台下町段丘面と高度を下げている。蛇行する広瀬川に西から二本の大きな沢が走り、この沢に挟まれ御裏林を背にした場所に二の丸跡が位置する。二の丸跡の東側に位置する大手門跡付近には、約９mの高さの石垣が残り、その南側には大手門脇櫓が昭和42年（1967）に復元されている。さらに低位に位置する三の丸跡は、外郭を水堀と土塁に囲まれ、門跡付近には石垣が残存している。三の丸跡の東側、河岸段丘の最も低位に位置する追廻地区の広瀬川の岸部分には、260mに及ぶ石垣が残存している。

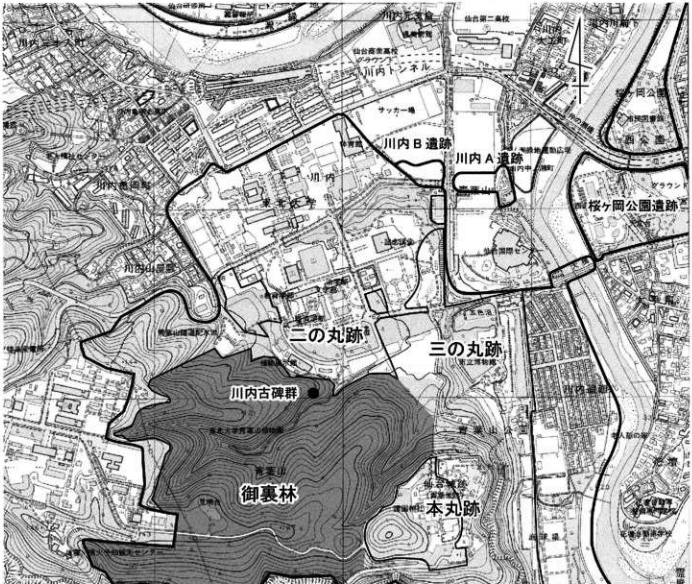
２．仙台城跡の歴史的環境

仙台城は、初代仙台藩主伊達政宗によって造営された城である。関ヶ原の戦い直後の慶長５年（1600）12月24日、城の縄張りが開始され、翌年１月から普請に着手、工事は慶長７年（1602）５月には一応の完成をみたとされている。築城当初は「山城」である本丸を中心とする城郭であったが、政宗の死後、二代藩主忠宗が山麓部に二の丸の造営を開始する。寛永年間以降はこの二の丸が藩政の中心となり、三の丸・勘定所・重臣武家屋敷などが一体となって城域を形成していた。残された絵図などからみると、本丸への登城路は、大手門を通って中門を経て本丸詰門に至るものと、巽門、清水門、沢門を通るものがある。

絵図や文献などによれば(註１)、本丸には詰門を入った東側に天皇家や将軍家を迎えるための御成門があり、華麗な障壁画や欄間彫刻に彩られた大広間を中心とする御殿建物群が存在していた。東側の城下を見下ろす崖面に造られた懸造、さらには能舞台・書院など、上方から招いた当代一流の大工棟梁・工匠・画工等によって造られた桃山文化の集大成といえる建物群が威容を誇っていたと考えられている。西脇櫓・東脇櫓・艮櫓・巽櫓は三重の櫓であったが、正保３年（1646）４月の地震によって倒壊したとする記事がみられ(註２)、以後復興されずに明治を迎えたものとされている。

本丸の建物群は江戸時代の度重なる災害に加え、明治維新後の取り壊しなどにより失われ、二の丸の御殿群も明治15年（1882）の大火によって焼失した。唯一仙台城の面影を伝えていた国宝の大手門及び脇櫓も昭和20年（1945）７月、太平洋戦争の際の米軍による空襲によって焼失した。現在では、本丸北壁や随所に点在する石垣、本丸西側の堀切、三の丸の周囲を囲む堀と土塁などが往時の仙台城を偲ぶ貴重な遺構となっている。また、伊達氏による仙台城築城以前にこの地域をおさめていた国分氏の居城「千代城」に関する16世紀代の文献記録も残っており(註3)、中世山城が存在していた可能性も指摘されている。

第2図　焼失以前の大手門と脇櫓（1935年頃）



第３図　仙台城跡の遺跡範囲（1/10,000）太線：埋蔵文化財包蔵地範囲　細線：史跡指定範囲　　天然記念物「青葉山」

第４図　仙台城本丸現存（Ⅲ期）石垣
解体修復工事前（北西から）

第５図　仙台城本丸現存（Ⅲ期）石垣
解体修復工事後（北東から）

3．仙台城跡の発掘調査

仙台城のこれまでの調査には、昭和58年（1983）から継続的に実施されている東北大学構内の施設整備に伴う二の丸跡の発掘調査と、仙台市博物館の新築工事に伴って昭和58·59年（1983·1984）に実施された三の丸跡の発掘調査があり、本丸跡では石垣修復工事に伴う発掘調査が第1次発掘調査である。

本丸北壁の石垣は昭和30年代から変形が目立ち始め、防災上の観点から石垣修復工事が平成９年(1997)度から実施されている。この石垣修復工事に伴う本丸1次発掘調査は、平成９年(1997)7月から石垣解体に先行する事前調査と、翌年10月から開始した解体工事と並行する発掘調査からなっている。解体工事は平成12年(2000) 9月に石材9,106石と、Ⅱ期石垣124石の解体をもって終了し、石積工事を同年12月から開始し、平成16年(2004)3月に工事が終了した。

石垣解体修復に伴う発掘調査により、現存石垣（Ⅲ期石垣）背面より二時期にわたる旧石垣（Ⅰ期・Ⅱ期石垣）が検出され、石垣基部の調査や石垣断面構造の記録化により、Ⅰ期からⅢ期までの石垣の変遷や構造が明らかになった。石材調査では各種の刻印や朱書、墨書などを多数発見し、矢穴や石材加工の変化も確認されている。石垣は、表面の「石積み」様式の変化とともに、背面の土木工法の変容も顕著であり、石垣背面の土木工事痕跡の考古学的な手法による層位的調査と、盛土の重複関係や遺物の分析からみた石垣変遷を、文献調査との照合により時期区分されている。築城期には、旧地形や中世山城「千代城」の縄張りを利用して斜面を切り土しながら石垣を構築（Ⅰ期）し、元和２年（1616）の地震によりこの石垣が倒壊した後、築城期の石垣形状を一新する修復工事が行われて石垣が再構築（Ⅱ期）され、その後、寛文８年（1668）の地震によりこのⅡ期石垣も倒壊し、現存石垣に全面改築（Ⅲ期）されたと考えられている。

平成13年（2001）からは国の補助を受け、発掘調査のほかに遺構現況調査や石垣測量などの総合調査を実施しており、平成22年（2010）３月現在で25次にわたる調査を実施している。特に本丸大広間跡の発掘調査は９次にわたり実施しており、その位置や内部構造について解明された。

平成15年（2003）５月に三陸沖を震源とする地震が起き、中門跡と清水門跡の石垣の一部が被災し、その後、平成15～17年（2003～05）に災害復旧工事を行った。

平成15年（2003）年８月には約66haが国史跡に部分指定され、その後、仙台市は「仙台城跡整備基本構想」「仙台城跡整備基本計画」を策定した。平成17～19年（2005～07）には巽門東側にあったとされる堀跡、平成20年（2008）からは清水門南側の造酒屋敷跡の学術調査を実施し、その調査成果に基づく史跡整備を事業目標としている。

註１　『仙台城下絵図』寛文４年（1664）宮城県図書館蔵・『肯山公造制城郭木写之略図』17世紀後半（推定）宮城県図書館蔵・『貞山公治家記録』など

註２　義山公治家記録、正保3年（1646）４月28日条

註３　貞山公治家記録、慶長5年（1600）12月24日条

第６図　本丸北壁石垣北東角部
旧石垣（Ⅰ・Ⅱ期）検出状況（北東から）

第７図　本丸北壁石垣背面
階段状石列検出状況（北西から）

Ⅲ．調査計画と実績

平成22年度は、仙台城跡遺構確認調査の第２次５カ年計画５年次にあたる。平成17年度までの第１次５ヵ年計画では、国指定史跡仙台城跡の全体像を把握することを目標として、遺構の遺存状況、種類、規模、配置等の確認を目的とする遺構確認調査と、石垣の破損状況や石積みの特徴を確認することを目的とする石垣現況調査、測量調査などを実施してきた。また、本丸大広間跡や巽櫓跡などの発掘調査、本丸での遺構現況調査などを行ってきた。

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間
第１次	大広間跡（1次）	185㎡	平成13年９月17日～12月27日
第２次	清水門跡付近石垣測量	210㎡（立面）	平成13年11月30日～平成14年２月13日
第３次	大番士土手跡・御守殿跡・懸造跡	1,400㎡	平成14年５月20日～平成15年１月31日
第４次	巽櫓跡	110㎡	平成14年５月20日～８月31日
第５次	大広間跡（2次）	470㎡	平成14年８月５日～12月20日
第６次	仙台城跡（全域）	約145ha	平成15年５月７日～８月８日
第７次	大広間跡（3次）	258㎡	平成15年８月４日～12月25日
第８次	登城路跡	58㎡	平成15年11月12日～12月25日
第９次	広瀬川護岸石垣測量(1次)	50㎡（立面）	平成15年12月９日～平成16年２月５日
第10次	大広間跡（4次）	397㎡	平成16年７月20日～12月24日
第11次	登城路跡・広瀬川護岸石垣測量（2次）	349㎡（立面）	平成16年12月18日～平成17年３月31日
第12次	大広間跡（5次）	446㎡	平成17年５月26日～10月19日
第13次	三の丸堀跡（1次）	86㎡	平成17年11月１日～12月22日
第14次	中門北側・広瀬川護岸石垣測量（3次）	627㎡	平成18年１月16日～１月20日
第15次	大広間跡（6次）	311㎡	平成18年６月１日～８月４日
第16次	三の丸堀跡（2次）	522㎡	平成18年９月１日～11月30日
第17次	大広間跡（7次）	263㎡	平成19年５月28日～８月３日
第18次	三の丸堀跡（3次）	468㎡	平成19年９月１日～11月26日
第19次	本丸北西壁石垣測量（1次）	425㎡（立面）	平成20年１月16日～１月18日
第20次	大広間跡（8次）	248㎡	平成20年５月８日～７月31日
第21次	造酒屋敷跡（1次）	160㎡	平成20年８月26日～10月29日
第22次	本丸北西壁石垣測量（2次）	448㎡（立面）	平成20年12月24日～平成21年１月21日
第23次	造酒屋敷跡（2次）	420㎡	平成21年７月１日～11月12日
第24次	大広間跡（9次）	2.25㎡	平成21年12月14日～12月15日
第25次	広瀬川護岸石垣測量（4次）	250㎡（立面）	平成21年12月16日～平成22年１月７日

第１表　これまでの調査実績

第２次５カ年計画では、引き続き、国指定史跡仙台城跡における全体像の把握を目的として、遺構確認調査と石垣現況調査、測量調査、絵図等の資料調査などを実施した。

調査次数	調査地区	調査予定面積	調査予定期間
第26次	造酒屋敷跡（3次）	420㎡	平成22年６月１日～10月31日

第２表　調査計画表

今年度は、造酒屋敷跡周辺における遺構確認調査を実施した。

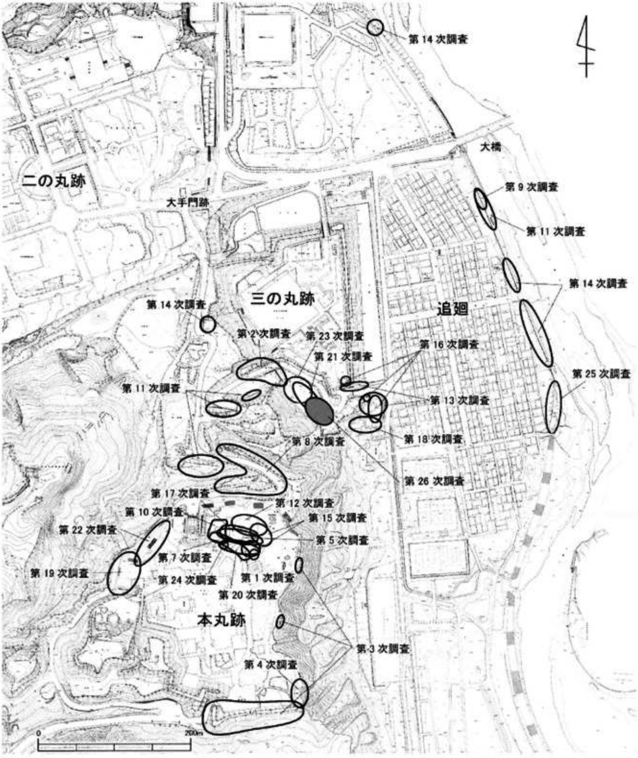
これまで、本丸跡では９次にわたる調査により、仙台城本丸御殿の中心的建物である大広間跡の礎石跡や雨落ち溝跡などを検出し、大広間建物跡の位置及び規模（第７次調査時の計測、東西33.5m、南北26.3m）を確認した。また、大広間跡の西側に位置する御成門跡の礎石や、そこから大広間跡に延びる通路跡と考えられる石敷き遺構を検出した。大広間建物跡の内部については、建物に関わる礎石跡を検出し、各部屋の間取りや位置など、大広間の全容を解明する上で大きな成果が得られた。

また昨年度実施した第23次調査は、清水門付近にあったとされる造酒屋敷跡の遺構確認を目的として実施した。屋敷跡の調査（１～４区）では、屋敷や酒造に関わると考えられる礎石跡や石列、カマド跡、井戸跡、溝跡などを検出した。また、造酒屋敷廃絶後に使われていたと考えられる鍛冶工房跡も検出した。遺物は、木簡をはじめとする多数の木製品、瓦、磁器、陶器、金属製品などが出土した。

今年度実施した第26次調査は、第23次調査のすぐ南側に調査区を設定し、昨年度に引き続き造酒屋敷跡の遺構を確認する目的で行った。屋敷跡の調査では１区から造酒屋敷の一部と考えられる礎石建物跡が３棟見つかった。そのうちの一つはカマドを配した土間形式の建物跡で、この施設を利用して、酒造りの原料米を蒸していたと考えられる。また、遺物は、瓦、磁器、陶器、金属製品などが出土した。

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間
第26次	造酒屋敷跡（3次）	369㎡	平成22年６月１日～10月31日

第３表　調査実績表



第８図　仙台城跡遺構確認調査・調査区位置図（1/5000）

Ⅳ. 第26次調査

1. 調査目的及び調査経過

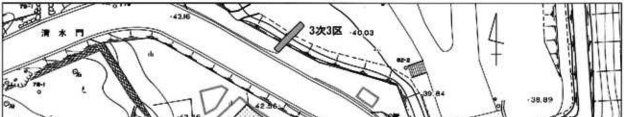
第26次調査は、清水門付近の造酒屋敷跡を対象として、平成22年（2010）6月1日から同年10月31日まで遺構確認の発掘調査を実施した。調査面積は369㎡である。

調査目的は、清水門の南側に位置し、仙台藩の御用酒屋であった榧森家の屋敷跡や酒蔵跡など、造酒屋敷跡の位置および規模の確認である。榧森家は、初代仙台藩主伊達政宗が、親しい幕臣である柳生宗矩の紹介で、慶長13年（1608）に大和国（現在の奈良県）から招かれ、城内に酒蔵と屋敷を与えられて酒造にあたった。その後、明治9年（1876）に廃業するまでの約270年にわたり酒造業を営んだ。

調査区の設定や調査前の現況写真撮影後、5月30日にフェンスを設置し、重機による表土の除去作業を開始した。6月1日から人力による表土除去及び遺構の検出作業を開始した。

造酒屋敷跡の調査では、屋敷に伴うと考えられる礎石跡、建物跡3棟、石列、カマド跡、炉跡、石組溝などを検出した。調査は遺構の確認を主とし、遺構の掘り込みは最小限にとどめた。遺物は、近世の整地層と考えられるⅣ層上面から18世紀代を中心とする磁器、陶器のほか、土師質土器、瓦質土器、瓦、古銭などが出土した。

調査中は、平成22年9月28日に実施した第25回仙台城跡調査指導委員会において、調査の進め方についての現地指導を受けた。調査成果については、10月6日に記者発表、10月9日に遺跡見学会（160名参加）を実施し公表した。調査終了後、各調査区の埋め戻しの作業を順次行い、10月31日に原状に復して終了した。



第9図　第26次調査区配置図（1/800）

2．旧地形及び基本層序

第10図　調査前の状況

造酒屋敷跡は、巽門から本丸へ至る登城路の南側、青葉山丘陵の裾部にあたる標高約43mの平場に位置する。北側の三の丸跡がある下町段丘面との間には約３m、東側の巽門跡との間には約５mの比高差がある。平場の南側には青葉山丘陵の斜面が長沼（三の丸堀跡）方向まで伸びていることから、仙台城の築城時に斜面を造成して造られた平場であったと推定される。以下、各区の基本層の概要について述べる。

(1) 1区

１区の基本層は３層に大別した(第４～６表)。Ⅰ層は主に現代の盛土層で13層に細分にした。Ⅱ層は近代の黒色土層で、８層に細分した。Ⅱ層は、今年の調査に入るまで確認されなかった土層である。遺跡内は近代以降に削平を受けているが、削平を免れた西側に分布している。Ⅲ層は、近世の盛土層で、場所によって12層に細分した地点もある。Ⅲ層は各地点で層相に差があり、統一した記述ができないが、上面で近世の遺構が検出されるものを条件としてⅢ層として扱った。なお、第21次調査時に「Ⅲa層」とした砂層は、分布が限られ、しかも人為的に敷かれたものと判断されたため、今次調査では「砂敷」と表現し、平面図（第11図）に示した。主に、建物跡の周辺に分布した状況で検出されている。第23次調査の「Ⅲ層」は今回１区北西部の段切遺構西側の低位面のⅢ層に対応する。このⅢ層上面で、昨年検出されていたKS-661溝跡の続きを検出している。第23次の「Ⅳ層」は、今年度の調査区には分布せず、昨年の１区南端部で途切れる。

(2) 2区

２区は小規模の調査区で、基本層は４層に大別した（第６表)。Ⅰ層は現代の盛土層や自然堆積層で、９層に細分した。このうち、東壁のⅠh層上面で溝跡（a・b層）が検出された。内部の埋土中には亜炭片が多量に含まれている。Ⅱ層は、遺物が出土していないが、現代の土層（Ⅰ層）と近世面の間に位置する土層である。今後もこの層の時期についての検討が必要であるが、今次調査では、近代と想定した。Ⅲ層は、主に調査区の南側で確認できる。この層の上面でKS-1003土坑を検出し、近世の遺物が出土した。したがって、Ⅲ層は近世以前の盛土層と考えられる。Ⅳ層は凝灰岩の岩盤である。近世のKS-1004溝跡までは、Ⅲ層上面と上端レベルが一致し、連続する一つの近世面を作り出している。調査区の南側では、深さ70～80cmの近世の溝跡を挟んで、Ⅳ層の岩盤が約60cm高くなっている。岩盤を削り、屋敷跡南端で溝を伴うことから区画としての段差と考えられる。２区では、岩盤を削り段差を作り出し、平坦面を形成して、その境にさらに溝を掘っている。このような特徴は屋敷跡南端の屋敷区画を示す遺構と考えられる。

(3) 3区

３区の基本層は３層に大別した（第６表)。Ⅰ層は現代の盛土層で、７層に細分した。段の下にあるⅠd層～Ⅰg層は盛土及び整地層で、昭和20年の空襲で焼失するまでこの地点にあった建物と関連する層と考えられる。Ⅰe層とⅠg層の境より湧水が認められた。Ⅱ層はほぼ均質な土層で、大小の円礫を多く含み、上段部分では花崗岩片が含まれていた。昨年の調査結果から、花崗岩片を含む層は近代の層と考えられる。Ⅲ層は、Ⅲa層・Ⅲb層の２層に細分した。Ⅲ層は花崗岩を含まず、Ⅲa層で近世の瓦・備前大甕片が出土したことから、近世の層と考えられる。土層断面観察では、Ⅲa層とⅢb層は階段状の形状を示している（第15図TT)。この段差の性格及び形成時期は不明である。

3．検出遺構

【１区】

(1)第２遺構面

１区北西部の段切遺構の西側では、平成22年度に実施した第23次調査と同様に、近世と近代の遺構面を区別することができ、Ⅱd層中からⅢ層上面にかけて検出された遺構を第１遺構面の検出遺構とした。一方、段切遺構の東側では、近世・近代の遺構とも同一面で検出されていることから、遺構面を区別できず、第２遺構面扱いとし説明する。

・**KS-597礎石**　１区中央部から検出した。礎石の形状は隅丸方形である。礎石の規模は長軸44cm、短軸41cmである。掘り方の平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸145cm、短軸60cmである。１号建物跡に関わる礎石跡である。KS-924より新しい。平成20年度に実施した第21次調査（遺構確認調査）で確認した遺構を、今回の調査で再検出したものである。

・**KS-598礎石**　１区南西部から検出した。礎石の形状は不整円形である。礎石の規模は長軸44cm、短軸40cmである。掘り方の平面形は不整形である。掘り方の規模は、長軸87cm、短軸73cmである。１号建物に関わる礎石跡である。KS-602、939より新しい。

・**KS-602焼土遺構**　１区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸75cm、短軸64cmである。KS-598、609より古い。焼土は炉床の残存なのか硬化面が認められた。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。

・**KS-603焼土遺構**　１区南東部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸72cm、短軸（50cm）である。KS-619、937より古く、KS-938より新しい。焼土は、炉床の残存なのか硬化面が認められた。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。

・**KS-604水利遺構**　１区南東部から検出した。平面形は中央部が方形を基調としたプランとこれに接続する溝跡から成る。北側には張り出し部分がある。規模は長軸（幅）約4.3m、短軸（南北）約3.8mである。東へ延びる溝（長さ約3.9m、幅約0.6m、方向N－66°－E）が取り付き、方形プランとの接続部分は石組となっている。また、方形プランは、南側で接続する21次調査で検出した木樋跡（KS-606）を再検出した。方形プラン内には多量の円礫が検出されたが、北東部分や北東張り出し部分では、比較的大型の円礫が出土している。KS-948、973、974溝跡は、この遺構と重複しているが、元々は水利遺構に接続していた溝の可能性がある。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。KS-638、942、943、968より古く、KS-938、974より新しい。遺物は礫間の埋土中より肥前染付碗（第21図１・２）、肥前染付皿（第21図10）、肥前刷毛目文碗（第24図１）、瀬戸美濃碗、大堀相馬灰釉碗、在地の鉛釉豆甕（第24図12）、土師質土器皿（第28図１）、かんざし（第33図19）、鉄釘、瓦片多数など、17世紀後半から19世紀前半までの遺物が出土している。

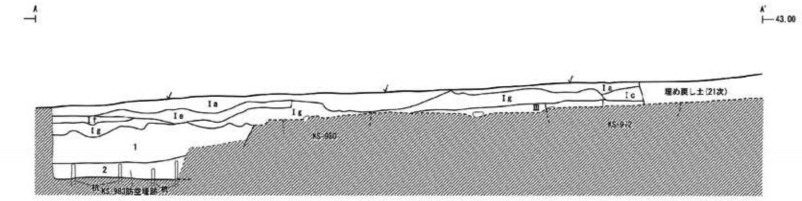
・**KS-609集石**　１区南西部から検出した。平面形は楕円形である。規模は、長軸109cm、短軸105cmである。KS-602より新しい。周囲には、掘り方が確認できない。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。

・**KS-619土坑**　１区南西部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸68cm、短軸48cmである。木炭片が多数出土した。KS-937より古く、KS-603、925より新しい。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。

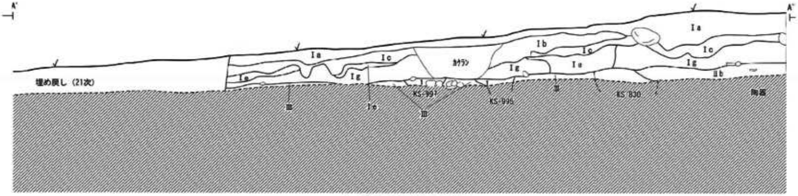
・**KS-620土坑**　１区中央部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸70cm、短軸30cmである。調査区外へ続く。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。KS-920より古い。

・**KS-625土坑**　１区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸40cm、短軸36cmである。木炭片が多数出土した。KS-925より新しい。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。

第11図　第26次調査　遺構平面図（1/100）

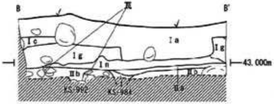


A〜A'・1区南壁断面図a(左)

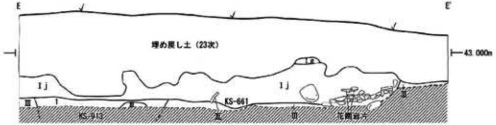


A'〜A''・1区南壁断面図b(右)

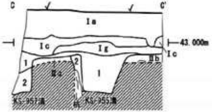
第12図　第26次調査　1区断面図（1/50）



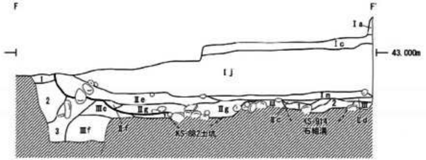
B・1区西壁断面図



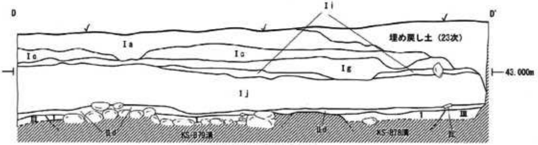
E・1区北西部段切遺構－北壁断面図



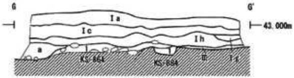
C・1区KS-955溝西・KS-957溝壁断面図



F・1区北西部段切遺構－南壁断面図

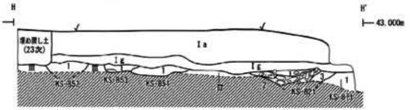


D・1区北西部－西壁断面図

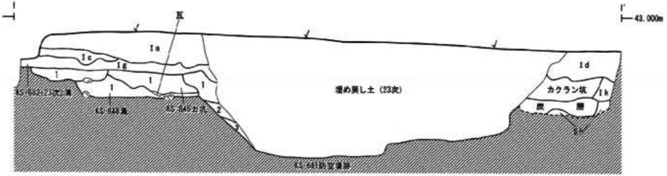


G・KS-884遺構・864石列断面図

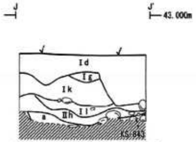
第13図　第26次調査　1区断面図（1/50）



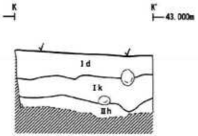
H・1区北壁断面図



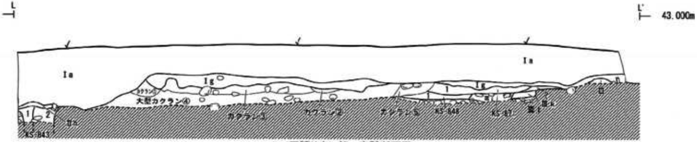
I・1区張り出し部－ 西壁断面図



J・1区張り出し部－ 北東壁断面図

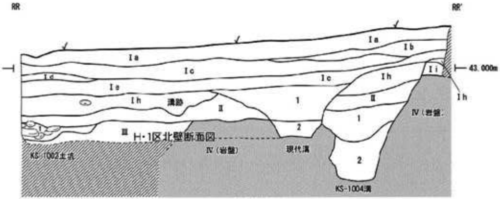


K・1区張り出し部－ 北壁断面図

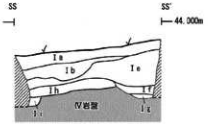


L・1区張り出し部－ 東壁断面図

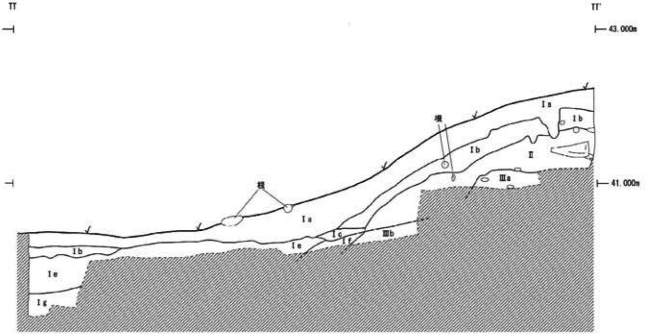
第14図　第26次調査　1区断面図（1/50）



RR・2区東壁断面図

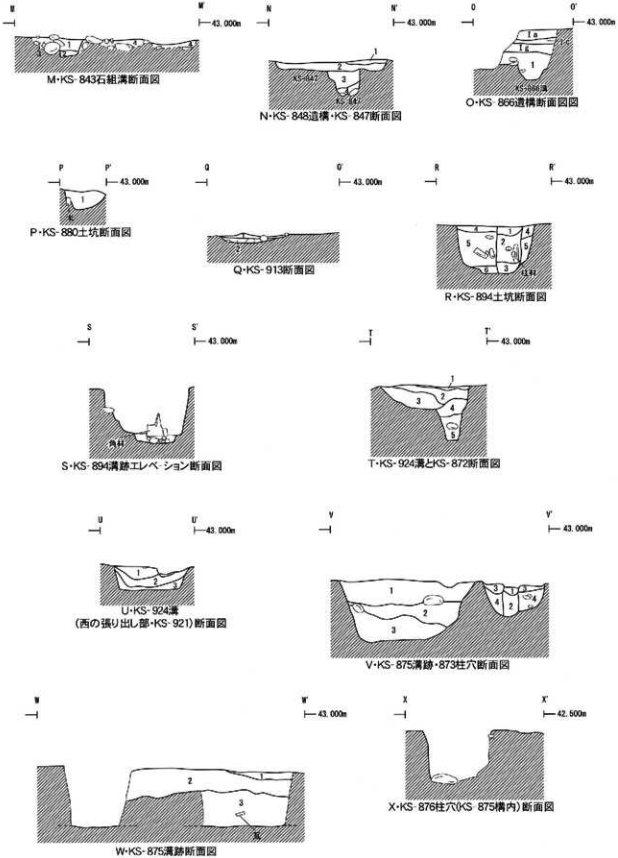


SS・2区南壁断面図

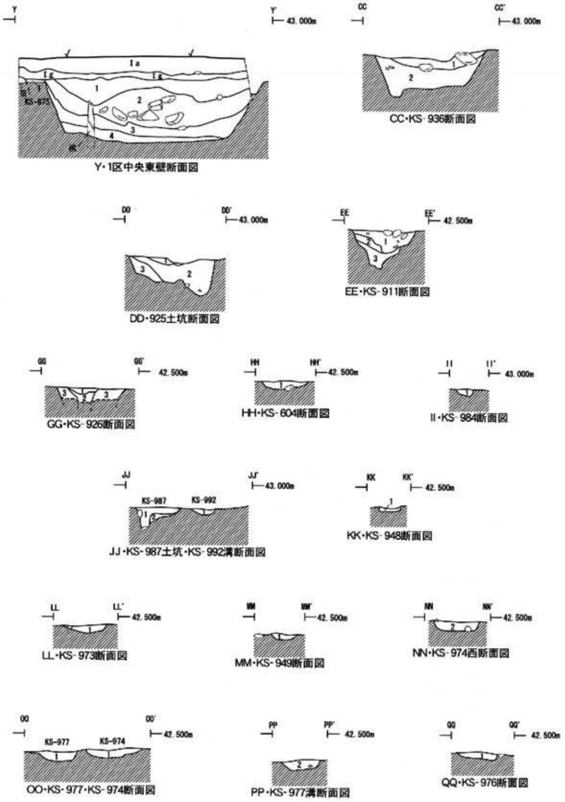


TT・3区南壁断面図

第15図　第26次調査　2・3区断面図（1／50）



第16図　第26次調査　1区断面図（1／50）



第17図　第26次調査　1区断面図（1／50）

調査区	遺構番号	遺構・層位	土色		土質	土性		備考
			土色No	土色		粘質	しまり	
A-A'								
1	基本層	Ⅰa	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	無	やや有	木の根・礫（2～5cm）少量。
		Ⅰb	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	やや有	やや有	黄褐色粘土質シルト・腐植土ブロック・礫（2～10cm）少量含む。全体がブロック状を呈する。
		Ⅰc	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	有	有	オリーブ黒色粘土質シルトブロック・鉄分多量・炭化物・風化礫を含む。
		Ⅰe	7.5YR2/2	黒褐色	腐植質シルト	無	無	瓦片多量・礫・ビニール含む。
		Ⅰf	10YR	暗褐色	シルト	やや有	有	風化礫（1～3cm）炭化物少量含む。
		Ⅰg	10YR3/3	暗褐色	シルト	やや有	無	にぶい黄色粘土質シルトブロック・腐植土ブロック多量に含む。炭化物・ガラス片を含む。
		Ⅲb	7.5Y2/1	黒色	シルト	やや有	やや有	砂多量・礫（5～20cm）・礫は西端に多い。炭化物・鉄分・陶磁器・瓦を含む。銅版転写染付碗片出土。
		Ⅲ(a)	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	やや有	有	礫・風化礫・瓦片・炭化物を含む。地点により特徴に差があるが、細分していない所はこの層で代表とする。
		カクラン	10YR3/3	暗褐色	シルト	無	無	砕石充填・東壁付近では砂が多量に見られる。現代の暗渠。
	KS-983	埋土1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	やや有	やや有	礫（1～2cm）炭化物・にぶい黄色ブロック少量含む。磁器を含む。
		埋土2	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	やや有	鉄分・炭化物少量含む。
	KS-995	埋土1	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	有	無	礫（3～5cm）少量。炭化物を含む。KS-997の1層と類似。
	KS-997	埋土1	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	やや有	無	礫（5～15cm）上面に見られる。
B-B'								
1	基本層	Ⅰa	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	やや有	礫（5～10cm）少量。鉄分少量含む。
		Ⅱa	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	有	無	砂多量・鉄分・炭化物・礫（3～5cm）少量含む。
	KS-984	埋土1	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	やや有	鉄分多量・礫（3～20cm）少量含む。木炭・瓦を含む。近代の溝。
	KS-992	埋土1（Ⅱb）	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	有	無	砂多量・炭化物・礫（3～5cm）少量含む。埋土は基本層Ⅱb層に相当。
C-C'								
1	基本層	Ⅱc	10YR3/1	黒褐色	シルト	有	無	礫（3～5cm）少量含む。鉄分少量含む。
	KS-955	埋土2	10YR1.7/1	黒色	シルト	やや有	やや有	礫（2～8cm）少量含む。鉄分少量含む。
	KS-955・957	埋土1	10YR4/1	褐灰色	シルト	有	やや有	にぶい黄色シルトブロック多量・風化礫（20cm 以下)多量。底部付近に礫（7～14cm）少量含む。南壁に打ち込み杭あり。
	KS-957	埋土2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	有	やや有	鉄分多量。礫（3～12cm）少量含む。刻印レンガ・瓦片を含む。
D-D'								
1	基本層	Ⅰa	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	無	やや有	A-A'のⅠa層と同じ。
		Ⅰc	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	有	有	昭和12年礫をおおっている。礫はⅠg層の下より築かれている。A-A'のⅠc層と同じ。
		Ⅰg	10YR3/3	暗褐色	シルト	やや有	無	A-A'のⅠg層と同じ。
		Ⅰi	10YR2/1	黒褐色	シルト	有	やや有	礫（1～3cm）・鉄分・炭化物含む。昨年の調査では近代のお金が出土。
		Ⅰj	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	有	有	礫（3～25cm）鉄分・黄褐色粘土質シルトブロック多量。瓦・炭化物・陶磁器含む。
		Ⅲd	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	粘土質シルト	有	無	礫（2～12cm）含む。鉄分・炭化物少量含む。
		Ⅲb	2.5GY5/1	オリーブ灰色	砂質シルト	やや有	やや有	礫（2～10cm）・風化礫（1～3cm）含む。
	KS-878	埋土1	5GY4/1	暗オリーブ灰色	細砂	無	やや有	鉄分・炭水化物を含む。
	KS-879	埋土1	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	細砂	無	やや有	鉄分・炭化物・風化礫（1～3cm）少量含む。
	KS-914	埋土3	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	やや有	やや有	炭化物・鉄分・礫（2～8cm）を少量含む。
E-E'								
1	基本層	Ⅰa	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	無	やや有	A-A'のⅠa層と同じ。
		Ⅰb	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	やや有	やや有	A-A'のⅠb層と同じ。
		Ⅰg	7.5YR	黒褐色	腐植シルト	やや有	有	鉄分・炭化物を少量含む。
	KS-913	埋土1	7.5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	やや有	やや有	礫（2～5cm）・炭化物・砂のブロックを少量含む。
F-F'								
1	基本層	Ⅰm	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土	有	やや有	礫（2～10cm）・風化礫（1～3cm）・鉄分少量含む。
		Ⅱe（段切遺構）	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	有	やや有	鉄分多量・礫（2～25cm）少量含む。割石・炭化物を含む。
		Ⅱf（段切遺構）	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土	有	無	鉄分・砂・多量。
		Ⅱg（段切遺構）	10Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	有	有	礫（1～12cm）少量含む。砂多量含む。瓦を含む。
		Ⅲb	2.5Y5/1	オリーブ灰色	砂質シルト	やや有	やや有	礫（2～10cm）少量・風化礫（1～3cm）含む。
		Ⅲc	5GY5/1	オリーブ灰色	シルト	有	やや有	砂多量・礫（3～15cm）多量に含む。
		Ⅲd	10GY6/1	緑灰色	粘土	有	やや有	礫（2～10cm）少量含む。鉄分少量含む。（地山？）
	KS-882	埋土1	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	粘土質シルト	有	有	砂多量・礫（2～10cm）少量含む。
	KS-914	埋土1	2.5Y5/3	黄褐色	砂	無	有	礫（1～5cm）少量・鉄分多量含む。
		埋土2	10Y4/1	灰色	シルト	やや有	やや有	砂多量・鉄分・炭化物少量含む。
	KS-1001	埋土1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト質粘土	有	有	礫（2～8cm）少量含む。黄褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。
		埋土2	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	有	礫（2～12cm）少量・風化礫（1～4cm）多量含む。炭化物・鉄分少量含む。
		埋土3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	やや有	鉄分多量。礫（2～4cm）少量・風化礫（1～5cm）少量含む。瓦片を含む。

第４表　第26次調査土層注記表

調査次	遺構番号	遺構層位	土色No	土色	土質	粘質	しまり	備考
G-G'								
1	基本層	Ⅰa	10YR3/3	黒褐色	シルト	無	有	砂多量・礫（3～10cm）少量。
		Ⅰc	10YR3/3	暗褐色	シルト	やや有	有	褐灰色（10YR4/1）ブロック多量・炭化物少量。
		Ⅰg	7.5YR2/2	黒褐色	腐植質シルト	やや有	無	
		Ⅰh	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	やや有	有	砂多量・ブロック状。（腐植土ブロックを含む）
	KS-864	埋土1	10YR3/2	黒褐色	シルト質砂	無	有	礫（3～40cm）多量。（詰込めのような感じ）
	KS-884	埋土1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	やや有	有	砂多量。炭化物と風化礫少量。
	遺構か？	a	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	無	有	鉄分多量・礫（4～7cm）少量。
H-H'								
1	基本層	Ⅰa	10YR2/3	黒褐色	シルト	無	有	G-G'のⅠa層と同じ。
		Ⅰg	7.5YR2/2	黒褐色	腐植質シルト	やや有	無	G-G'のⅠg層と同じ。
	KS-821	埋土1	5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	無	有	礫（3～5cm）少量含む。
		埋土2	2.5Y4/1	黒褐色	シルト	やや有	有	礫（5～6cm）少量。鉄分・炭化物を含む。
		埋土3	2.5Y4/2	黒褐色	シルト	やや有	有	礫（5～15cm）多量。（裏込め石）
		埋土4	2.5Y6/2	黒褐色	砂	無	有	鉄分を少量含む。
	KS-851	埋土1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	無	有	砂多量。鉄分・風化礫（1～2cm）を少量含む。礫と瓦片を含む。
	KS-852	埋土1	2.5Y6/3	黒褐色	シルト	やや有	有	鉄分多量。礫（2～4cm）少量含む。瓦を含む。
	KS-853	埋土1	2.5Y4/1	黒褐色	砂質シルト	無	有	礫（2～8cm）・炭化物・鉄分少量含む。
	KS-871	埋土1	2.5Y6/4	黒褐色	砂	無	有	礫（3～10cm）少量含む。鉄分・炭化物・瓦片を含む。
I-I'								
1	基本層	Ⅰa	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	やや有	有	ブロック状を呈する。風化礫（1～3cm）・礫（2～5cm）・炭化物を少量含む。上半部には砂石層・砂の層あり。
		Ⅰc	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	やや有	有	礫（2～10cm）多量に含む。黄褐色粘土質シルトブロック多量。鉄分・木材片を含む。
		Ⅰd	10YR4/4	黒褐色	シルト	無	無	礫（2～5cm）少量。木の根多数。上部に砂の層あり。（南側の砂層と同じ：Ⅰa層上部）
		Ⅰg	2.5Y4/2	黒褐色	シルト	やや有	有	腐植質シルトブロック多量。砂・礫（1～6cm）・風化礫（1～4cm）・炭化物・ビニール・瓦片を含む。
		Ⅰk	2.5Y4/2	黒褐色	シルト	やや有	無	礫（1～15cm）・風化礫（1～3cm）少量含む。
		Ⅱh	2.5Y4/1	黒褐色	シルト	やや有	有	礫（1～2cm）少量。瓦片少量含む。（近代か。爽壁では花崗岩片を含む）
		炭層	－	黒褐色		無	無	混入物なし。
	カクラン	埋土	10YR2/3	黒褐色	シルト	やや有	やや有	腐植土まじり。礫（2～10cm）・風化礫（1～2cm）少量含む。底部付近にビニール（カクランの穴）・防空壕より新しい。
	KS-681 防空壕	埋土1	2.5Y4/2	黒褐色	シルト	やや有	有	礫（1～2cm）・鉄分・炭化物少量を含む。
		埋土2	10Y3/4/2	黒褐色	粘土質シルト	無	有	礫（3～5cm）少量。鉄分少量含む。
		埋土3	10YR4/2	黒褐色	粘土	有	やや有	砂・鉄分含む。
	KS-682	埋土1	5Y4/1	黒褐色	粘土質シルト	有	有	礫（2～12cm）少量。鉄分・炭化物を含む。（第21次調査）
	KS-445	埋土1	10YR5/3	黒褐色	砂	無	やや有	鉄分多量。黄褐色シルトブロック・灰色粘土質ブロック・風化礫（1～5cm）・礫（2～6cm）少量含む。瓦片を含む。
	KS-848	埋土1	5Y4/1	黒褐色	シルト	やや有	有	砂多量。礫（3～6cm）を含む。鉄分・炭化物を含む。
J-J'								
1	基本層	Ⅰd	10YR4/4	黒褐色	シルト	無	無	礫（2～5cm）少量。木の根多数。上部に砂層あり。
		Ⅰg	2.5Y4/2	黒褐色	シルト	やや有	有	I-I'のⅠg層と同じ。
		Ⅰk	2.5Y4/2	黒褐色	シルト	やや有	無	I-I'のⅠk層と同じ。
		Ⅰ[illegible]	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	やや有	無	礫（2～4cm）少量・瓦片を含む。
		Ⅱh	2.5Y4/1	黒褐色	シルト	やや有	有	I-I'のⅡh層と同じ。花崗岩片を含む。
	遺構？	b	2.5Y4/2	黒褐色	シルト	やや有	やや有	焼土多量。炭化物含む。近世か？
K-K'								
1	基本層	Ⅰd	10YR4/4	黒褐色	シルト	無	無	I-I'のⅠd層と同じ。
		Ⅰk	2.5Y4/2	黒褐色	シルト	やや有	無	I-I'のⅠk層と同じ。
		Ⅱh	2.5Y4/1	黒褐色	シルト	やや有	有	I-I'のⅡh層と同じ。北東側に焼土ブロック（5YR5/6・明赤褐色）含む。

第5表　第26次調査土層注記表

調査区	遺構番号	層順・層位	土色 土色No	土色	土質	土性 粘質	土性 しまり	備考
I-I'								
1	基本層	Ⅰa	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	やや有	無	I-I'のⅠa層と同じ。
		Ⅰg	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	やや有	有	I-I'のⅠg層と同じ。
		Ⅲj	2.5Y4/2	黒褐色	シルト	有	やや有	礫（3～6cm）下層のしいている様に見える。瓦を含む。
		Ⅲk	2.5Y6/2	黒褐色	シルト	有	有	風化礫（1～2cm）・鉄分少量を含む。
		Ⅲl	2.5Y4/	黒褐色	シルト	やや有	有	風化礫（2～15cm）少量含む。瓦片・炭化物を含む。上部に鉄分の層あり。
	カクラン1	埋土	10YR4/3	黒褐色	シルト	やや有	やや有	鉄分・礫（1～30cm）・風化礫（0.5～2cm）少量含む。
	カクラン2	埋土	5Y5/2	黒褐色	シルト	やや有	有	砂多量。鉄分・礫（2cm前後）少量含む。
	カクラン3	埋土	10YR4/2	黒褐色	シルト	やや有	有	礫（5～15cm）・風化礫（1～5cm）を少量含む。炭化物・鉄分を含む。
	カクラン4	埋土	10YR5/2	黒褐色	シルト	やや有	有	礫（2～20cm）少量含む。鉄分・炭化物を含む。大型で方形を呈する。陶磁器・瓦出土。
	カクラン5	埋土	10YR3/2	黒褐色	シルト	やや有	有	礫（3～15cm）少量含む。鉄分多量。
	KS-843	埋土1	10YR5/4	黒褐色	シルト	やや有	やや有	礫（3～10cm）少量・瓦・風化礫（2～5cm）炭化物を含む。（埋土）
		埋土2	10YR4/3	黒褐色	シルト	やや有	無	砂多量。礫（2～10cm）少量含む。瓦片・炭化物を含む。（掘り方）
	KS-846	埋土1	2.5Y5/2	黒褐色	シルト	やや有	有	砂多量。礫（2～4cm）少量・鉄分・炭化物・瓦片を含む。（KS-848溝 埋土）
	KS-871	埋土1	2.5Y4/1	黒褐色	シルト	やや有	有	砂多量。鉄分・礫（2～5cm）少量含む。
		埋土2	2.5YR6/2	黒褐色	砂	やや有	有	粘土を含む。（KS-871の一部か？）
RR-RR'・SS-SS'								
2	基本層	Ⅰa	5YR2/1	黒褐色	シルト	無	やや有	腐植土多量に含む。ガラス・びん等含む。
		Ⅰb	7.5Y2/3	黒褐色	粘土質シルト	無	有	風化礫・亜炭少量含む。（南壁では落ち込みあり。）
		Ⅰc	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂礫	無	無	礫（1～10cm）多量に含む。特に亜炭・瓦片を含む。
		Ⅰd	2.5Y3/1	黒褐色	粘土	やや有	有	風化礫・炭化物少量含む。
		Ⅰe	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	無	やや有	亜炭・砂多量に含む。1～2cm前後の縞しま状に呈する。
		Ⅰh	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	無	やや有	砂・礫を含む。下層は亜炭・鉄分を多量に含む。
		Ⅰi	10YR4/4	褐色	粘土	無	有	特になし。
		Ⅱ	2.5Y3/2	黒褐色	シルト質粘土	無	有	礫・炭化物少量。上層には砂礫層をのせる（近世～近代）上面に小さな溝が認められた。（近代～現代）
		Ⅲ	5GY5/1	緑灰色	シルト	有	有	砂を多量に含む。礫（1～3cm）含む。グライ層。
		Ⅳ	7.5Y	灰白色	岩			凝灰岩の岩盤。
	基本層（南壁）	Ⅰf	7.5YR2/1	黒色	シルト	無	無	腐植土・亜炭片・炭化物含む。
		Ⅰg	7.5YR4/6	褐色	粘土質シルト	無	やや有	礫（1～3cm）少量。鉄分多量含む。
	現代溝	埋土1	10YR2/2	黒褐色	シルト	無	無	腐植土・亜炭片を多量に含む。部分的に粘土層がある。帯状に呈している。
		埋土2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂礫	無	無	溝底付近に河石（5～30cm）・木の葉・枝を含む。
	KS-1003	埋土1	2.5Y5/3	黄褐色	砂	無	無	下半は粗砂層・中間に粘土質シルト層（10YR3/2）を3枚程度はさむ。炭化物少量含む。
		埋土2	7.5Y5/2	暗灰黄色	砂	無	無	竹・瓦片・炭化物を少量含む。
	KS-1004	埋土1	10Y3/1	オリーブ黒色	シルト	無	やや有	砂・礫（3～10cm）・風化礫（5～30cm）を含む。
TT-TT'								
3	基本層	Ⅰa	10YR3/2	黒褐色	シルト	無	無	上段～斜面では礫（3～5cm）コンクリート。下段では砂を多く含む。
		Ⅰb	10YR4/4	褐色	シルト	無	無	砂を含む。礫（3～8cm）少量。瓦。
		Ⅰc	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	やや有	無	粘土を含む。
		Ⅰd	10YR2/1	黒色	砂質シルト	無	有	上部に黄褐色粘土質シルトの薄層（2～4cm）。鉄分を含む。近代の陶磁器出土。
		Ⅰe	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂	無	有	炭化物・鉄分・礫（1～5cm）少量。瓦 近現代の盛土層。
		Ⅰf	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土	有	無	瓦（軒瓦）含む。近代か？
		Ⅰg	2.5Y5/2	暗灰色	粘土	有	無	砂・亜炭片を含む。
		Ⅱ	10YR3/3	暗褐色	シルト	無	有	風化礫（2～5cm）多量。大型岩片・花崗岩片を含む。瓦出土 近代。
		Ⅲa	10YR4/4	褐色	シルト	やや有	有	風化礫（3～5cm）・円礫（3～8cm）多く含む。瓦・磁片出土。炭化物少。（ここより近世か）
		Ⅲb	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	有	やや有	鉄分・風化礫・円礫（3～8cm）少量。

第6表　第26次調査土層注記表

調査区	遺構番号	遺構層位	土色 十色No	土色	土質	土性 粘質	土性 しまり	備考
M-M'								
1	KS-843	埋土1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	無	有	砂多量。礫（1~10cm）炭化物少量含む。北側では（掘り方）焼けた瓦・焼土ブロックを含む。
		埋土2	2.5YR4/2	暗灰黄色粘土質	シルト	有	無	礫（1~10cm）少量。瓦・炭化物を含む。石組2段積まで確認できる。
N-N'								
1	KS-848	埋土1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	無	やや有	礫（3~8cm）を少量。鉄分・炭化物を含む。
		埋土2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	やや有	やや有	砂多量。礫（3~5cm）・鉄分・炭化物少量含む。
	KS-847	埋土3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	やや有	有	砂多量・風化礫（1~14cm）少量・礫（1~3cm）を含む。
		埋土4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	有	やや有	礫（6~12cm）を含む。根石か？
O-O'								
1	基本層	I a	10YR4/4	褐色	シルト	無	やや有	木の根多数。ビニールを含む。
		I c	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	無	有	黒褐色シルトブロック（2.5T3/1）多量。
		I g	7.5YR3/2	黒褐色	腐植質シルト	無	やや有	礫（1~3cm）・風化礫（1~5cm）少量含む。
	KS-866	埋土1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	無	有	礫（2~10cm）鉄分・炭化物含む。埋土は砂を多く含み、50~60cm程の大礫を含む。瓦片出土。
P-P'								
1	KS-880 土坑	埋土1	5GY	暗オリーブ灰	粘土質シルト	有	やや有	礫（1~3cm）少量含む。鉄分、炭化物・木片を含む。グライ化。
Q-Q'								
1	KS-913溝	埋土1	7.5GY2/1	緑黒色	シルト	有	無	風化礫（3~15cm）を含む。炭化物・木片を少量含む。グライ化。
		埋土2	10G3/1	暗緑灰色	粘土質シルト	有	無	砂多量。風化礫（1~3cm）少量含む。木片と植物遺体わずかに含む。グライ化。
R-R'								
1	KS-894	埋土1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	有	やや有	炭化物・鉄分・風化礫（1~3cm）少量。
		埋土2	10YR4/2	灰黄色褐色	粘土質シルト	有	無	鉄分多量。柱材の一部出土。
		埋土3	10Y3/1	オリーブ黒色	シルト質粘土	有	やや有	砂多量・礫（3~5cm）少量。
		埋土4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	やや有	有	砂多量。風化礫・炭含む。（掘り方）
		埋土5	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	やや有	礫（5~20cm）多い。鉄分・風化礫・炭化物含む。（掘り方）
		埋土6	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質粘土	有	やや有	風化礫（1~3cm）少量含む。（掘り方）
T-T'								
1	KS-924	埋土1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	無	有	炭含む。
		埋土2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	有	やや有	風化礫（1~4cm）・鉄分・炭含む。
		埋土3	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	やや有	有	礫（2~4cm）・炭・鉄分少量。
	KS-872	埋土4	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	やや有	やや有	風化礫（2~5cm）・鉄分少量。
		埋土5	2.5Y4/1	黄灰色	粘土	有	無	鉄分・炭・礫含む。
U-U'								
1	KS-924	埋土1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	有	有	砂多量。鉄分・礫（3~5cm）少量。
		埋土2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	有	有	砂多量。黒色シルトブロック・風化礫（1~3cm）少量。
		埋土3	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	有	やや有	風化礫（1~5cm）・鉄分少量。
V-V'								
1	KS-837	埋土1	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト	有	無	礫（1~5cm）少量。
		埋土2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	有	無	礫（1cm）少量。
		埋土3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	無	有	礫（2~3cm）・風化礫（1~3cm）多量。
		埋土4	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	有	やや有	礫（3~6cm）・風化礫（1~7cm）多量。
W-W'								
1	KS-875	埋土1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	やや有	有	黒色シルトブロック・風化礫・礫・瓦含む。
		埋土2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	やや有	有	礫・風化礫多量。炭・鉄分少量。瓦含む。
		埋土3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	有	有	礫・風化礫多量。鉄分多量。炭・瓦を含む。
Y-Y'								
1	基本層	I a	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	やや有	有	I-I'の I a層と同じ。上部に砂層あり。
		I g	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	やや有	有	I-I'の I g層と同じ。
	KS-877	埋土1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	無	有	下半部に礫（2~20cm）多量に含む。鉄分・瓦片を含む。黄褐色シルトブロックを北側で多く含む。
		埋土2	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	やや有	やや有	礫（8~40cm）の大型を含む。
		埋土3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	有	やや有	鉄分多量。礫（2~15cm）少量。瓦片・炭化物を含む。
		埋土4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	やや有	有	砂多量。礫（1~3cm）少量含む。底面付近に鉄分の層が見られる。（厚さ5mm程度）

第７表　第26次調査土層注記表

調査区	遺構番号	遺構層位	土色 土色No	土色	土質	土性 粘質	土性 しまり	備考
CC-CC'								
1	KS-936	埋土1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	有	やや有	大型礫（5～40cm）含む。鉄分・炭化物少量含む。木箱・堤焼擂鉢出土。
		埋土2	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	有	やや有	礫（2～10cm）・風化礫（2～10cm）・鉄分少量含む。炭化物・瓦片を含む。
DD-DD'								
1	KS-935	埋土1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	やや有	有	黄褐色粘土質シルトブロック多量。鉄分・炭化物少量含む。
		埋土2	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	やや有	やや有	細かな黄褐色シルトブロック多量。礫（3～5cm）炭化物・鉄分・陶器を含む。
		埋土3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	有	黄褐色シルトブロック・鉄分・炭化物少量含む。
EE-EE'								
1	KS-911	埋土1	10YR3/1	黒褐色	シルト	無	有	礫（2～20cm）多く含む。瓦・陶器・炭化物・鉄製品を含む。検出面に花崗岩あり。
		埋土2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	やや有	有	砂多量。礫（3～5cm）・炭化物少量。
		埋土3	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	やや有	有	砂多量。礫（2～4cm）少量含む。
GG-GG'								
1	KS-926	埋土1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	やや有	有	礫（1～5cm）・炭化物・風化礫（1～3cm）少量含む。
		埋土2	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	やや有	やや有	風化礫（1cm以下）・鉄分少量含む。
		埋土3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	やや有	有	風化礫（0.5～2cm）・鉄分・炭化物を少量含む。（掘り方）
HH-HH'								
1	KS-604 東溝	埋土1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト質砂	無	有	円礫（2～10cm）・風化礫（1～3cm）・炭化物・鉄分堅穴部との接合部分は石組溝となっている。
II-II'								
1	KS-984	埋土1	10YR4/2	白灰色	シルト	有	やや有	鉄分多量・礫（5～20cm）少量。炭化物・木炭少量含む。（近代か？）
JJ-JJ'								
1	KS-987	埋土1	2.5Y2/1	黒色	粘土質シルト	有	やや有	炭化物・礫（5～30cm）含む。
		埋土2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	有	有	礫（3～10cm）・風化礫（1～3cm）炭化物少量　この層は掘りすぎ。埋土は1層のみ。
	KS-992	埋土1	2.5Y	黒褐色	砂	無	無	炭化物・木炭片（多い）・鉄分含む。東部では円礫（10～30cm）を含む。
KK-KK'								
1	KS-948	埋土1	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂	無	やや有	炭化物・風化礫（1～3cm）。北部では多くの円礫（5～15cm）を上部に含む。
LL-LL'								
1	KS-973	埋土1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	やや有	やや有	礫（10～15cm：大きさが揃っている。石の表面に鉄分付着。一部敷いていないようにみえる）・木炭を含む。
MM-MM'								
1	KS-949	埋土1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	無	やや有	砂多量。炭化物微量。円礫（5～10cm）少量上面で検出。
NN-NN'								
1	KS-974	埋土2	10YR6/2	灰黄褐色	シルト	有	有	炭化物・鉄分・石（3～5cm）少量含む。
OO-OO'								
1	KS-974	埋土1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	無	やや有	炭化物・鉄分・円礫（1～5cm）少量。
	KS-977	埋土1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	無	やや有	鉄分・炭化物・風化礫（3～10cm）・円礫（3～10cm）少量。
PP-PP'								
1	KS-977	埋土2	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト	やや有	有	礫・鉄分・炭化物少量。
QQ-QQ'								
1	KS-976	埋土1	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	やや有	礫（5～15cm：検出面にあり）・炭化物・風化礫（0.5～2cm）含む。

第8表　第26次調査土層注記表

・KS-626ピット　１区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸28cm、短軸27cmである。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。

・KS-628ピット　１区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸38cm、短軸25cmである。KS-936より古い。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。

・KS-630柱穴　１区南西部から検出した。平面形は円形である。掘り方の規模は、径32cmである。２号建物跡の柱穴である。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。

・KS-632柱穴　１区南西部から検出した。平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸39cm、短軸35cmである。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。

・KS-633土坑　１区南西部から検出した。平面形は隅丸方形である。規模は、長軸46cm、短軸42cmである。平成20年度に実施した第21次調査（遺構確認調査）で確認した遺構である。

・KS-638ピット　１区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸40cm、短軸34cmである。KS-604より新しい。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。埋土中より、小野相馬皿（18世紀）が出土した。

・KS-640ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸24cm、短軸（12cm）である。一部は石の下にある。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。

・KS-641ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸35cm、短軸34cmである。KS-999より新しい。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。埋土中より、肥前青磁染付蓋付碗（第21図３、18世紀後半）が出土した。

・KS-642ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸27cm、短軸19cmである。平成20年度に実施した第21次調査で確認した遺構である。埋土中より、肥前磁器碗（18世紀か）が出土した。

・KS-681防空壕跡　１区北東張り出し部で検出した。平成21年度に実施した第23次調査では、池状遺構として報告したが、今回の調査では、方形竪穴部とそれに取り付く通路部分を検出したことにより、この遺構が防空壕である可能性が高いことが判明した。平成21年度の第23次調査で検出した部分と、今回の調査で検出した部分を合わせると、竪穴部の規模は、長軸約350cm、短軸約300cm、深さ108cm、通路部の規模は、長さ約240cm、幅約100cmで、屈曲しながら東側へ向かって調査区の外まで伸びている。KS-843、844、845より新しい。埋土中より、陶磁器（第21図12、第24図21）、瓦多数、ガラス瓶など多くの遺物が出土した。

・KS-802礎石跡　１区北東部から検出した。平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸（75cm）、短軸70cmである。上部は削平され、根固め石・礎石は失われている。１号建物跡に関わる礎石跡である。

・KS-803礎石跡　１区北東部から検出した。平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸64cm、短軸62cmである。礎石は失われており、根固め石が検出された。１号建物跡に関わる礎石跡である。

・KS-804礎石跡　１区北東部から検出した。平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸78cm、短軸72cmである。礎石は失われ、根固め石が検出された。１号建物跡に関わる礎石である。KS-859より新しい。

・KS-805礎石跡　１区北東部から検出した。平面形は隅丸方形である。掘り方の規模は、長軸94cm、短軸84cmである。KS-871より新しい。礎石は失われ、根固め石が検出された。１号建物跡に関わる礎石跡である。

・KS-806礎石　１区北東部から検出した。礎石の形状は楕円形である。礎石の規模は長軸53cm、短軸36cmである。掘り方の平面形は不整円形である。掘り方の規模は、径75cmである。１号建物跡に関わる礎石である。KS-924より新しい。

・KS-807礎石跡　１区北東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸92cm、短軸（52cm）である。KS-894土坑より新しい。礎石・根固め石は検出されなかった。１号建物跡に関わる礎石跡である。

・KS-808礎石　１区中央部から検出した。礎石の形状は不整形である。礎石の規模は長軸45cm、短軸40cmである。

掘り方の平面形は不整形である。掘り方の規模は、長軸69cm、短軸45cm、1号建物跡に関わる礎石である。

・**KS-809礎石**　1区南東部から検出した。礎石の形状は円形である。礎石の規模は長軸33cm、短軸28cmである。掘り方の平面形は円形である。掘り方の規模は、長軸45cm、短軸43cmである。1号建物跡に関わる礎石である。KS-924より新しい。

・**KS-810礎石**　1区南東部から検出した。礎石の形状は、隅丸方形である。礎石の規模は、長軸40cm、短軸34cmである。掘り方の平面形は楕円形である。掘り方の規模は、長軸113cm、短軸96cmである。1号建物跡に関わる礎石である。根固め石は東側で多く検出された。

・**KS-811柱穴**　1区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸24cm、短軸22cmである。1号建物に関わる柱穴で、半間間隔の柱跡と考えられる。

・**KS-812礎石跡**　1区南東部から検出した。平面形は楕円形である。掘り方の規模は、長軸123cm、短軸122cmである。礎石は失われ、根固め石が検出された。1号建物跡に関わる礎石跡である。KS-813より新しい。埋土中より、肥前染付鉢？（17～18世紀）、瀬戸美濃鉄釉小坏（19世紀）が出土した。

・**KS-813柱穴**　1区南東部から検出した。掘り方の平面形は円形である。掘り方の規模は、長軸62cm、短軸（44cm）である。KS-812より古い。1号建物跡に関わる柱跡と考えられる。埋土中に円礫が検出された。

・**KS-814礎石跡**　1区南東部から検出した。掘り方の平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸80cm、短軸75cmである。礎石は失われ、根固め石が検出された。1号建物跡に関わる礎石跡である。

・**KS-815礎石跡**　1区南東部から検出した。掘り方の平面形は円形である。掘り方の規模は、長軸86cm、短軸（52cm）である。KS-928より古い。礎石は失われ、根固め石もわずかに検出されただけである。1号建物跡に関わる礎石跡である。

・**KS-816礎石跡**　1区北東部から検出した。掘り方の平面形は不整形である。掘り方の規模は、長軸94cm、短軸72cm、KS-875の溝より新しい。礎石は失われ、根固め石が検出された。1号建物跡に関わる礎石跡である。

・**KS-817礎石跡**　1区中央部から検出した。掘り方の平面形は隅丸方形である。掘り方の規模は、長軸87cm、短軸84cmである。礎石は失われ、根固め石が検出された。1号建物跡に関わる礎石跡である。KS-875より新しい。

・**KS-818礎石**　1区中央部から検出した。礎石の形状は隅丸方形である。礎石の規模は、長軸29cm、短軸23cmか。掘り方の平面形は円形である。掘り方の規模は、長軸31cm、短軸36cmである。KS-911より新しい。1号建物跡に関わる礎石跡である。礎石跡の中間に位置し、柱跡と考えられる。

・**KS-819礎石跡**　1区中央部から検出した。掘り方の平面形は円形である。掘り方の規模は、長軸80cm、短軸76cmである。礎石は失われ、根固め石が検出された。1号建物跡に関わる礎石跡である。

・**KS-820柱穴**　1区中央部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸35cm、短軸27cm、1号建物に関わる柱穴である。礎石跡の中間に位置し、柱跡と考えられる。

・**KS-821礎石跡**　1区北東部から検出した。平面形は円形である。掘り方の規模は、長軸78cm、短軸（26cm）である。大部分は調査区外であることから、礎石は検出できなかったが、根固め石は検出できた。1号建物跡に関わる礎石跡である。KS-871より新しい。この遺構は21次調査でKS-608としたものの一部である。

・**KS-822礎石跡**　1区北東部から検出した。掘り方の平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸96cm、短軸（70cm）である。礎石は失われ、根固め石が検出された。1号建物跡に関わる礎石跡である。KS-852より新しい。埋土中より、瀬戸美濃染付端反碗（19世紀前葉～中葉）、肥前青磁染付碗（18世紀）、土師質皿、平瓦（第29図5）、丸瓦が出土した。

・**KS-823礎石**　1区北東部から検出した。礎石の形状は隅丸方形である。礎石の規模は、長軸48cm、短軸43cmである。礎石に柄穴があり、形状は方形、規模は、一辺7cm、深さ5cmである。掘り方の平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸107cm、短軸80cmである。KS-867より新しい。1号建物跡に関わる礎石跡である。埋土中よ

り、線刻のある平瓦（第31図21）が出土した

・**KS-824礎石跡**　１区中央部から検出した。平面形は円形である。掘り方の規模は、長軸60cm、短軸59cmである。根固め石は小型円礫を利用している。２号建物跡に関わる礎石跡である。埋土中より京焼の色絵金彩皿（18世紀中葉）が出土した（第24図14）。

・**KS-825柱穴**　１区中央部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸26cm、短軸22cmである。２号建物跡に関わる柱跡である。

・**KS-826礎石跡**　１区南西部から検出した。平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸76cm、短軸63cmである。KS-936より古い。礎石は失われており、小型円礫を利用した根固め石が検出された。２号建物跡に関わる礎石跡である。埋土中より、肥前染付碗が出土した。

・**KS-827礎石跡**　１区南西部から検出した。平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸87cm、短軸78cmである。礎石は失われており、小型円礫を利用した根固め石が検出された。２号建物跡に関わる礎石跡である。埋土中より、産地不明の鉄釉擂鉢（第25図１）が出土した。

・**KS-828柱穴**　１区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸28cm、短軸23cmである。礎石跡との間隔は狭いが、２号建物跡に関わる柱穴と考えている。

・**KS-829礎石跡**　１区南西部から検出した。平面形は不整形である。掘り方の規模は、長軸63cm、短軸（29cm）である。礎石は検出されず、小型円礫を利用した根固め石が検出された。２号建物跡に関わる建物内部の礎石跡である。KS-956、957より古い。

・**KS-830礎石跡**　１区南西部から検出した。平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸90cm、短軸（52cm）である。根固め石は小型円礫を利用している。２号建物跡に関わる建物内部の礎石跡である。KS-992より古い。

・**KS-831礎石跡**　１区北東部から検出した。平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸74cm、短軸68cmである。礎石は失われており、根固め石が検出された。３号建物跡に関わる礎石跡である。

・**KS-832礎石跡**　１区南東部から検出した。平面形は円形である。掘り方の規模は、長軸95 cm、短軸（62cm）である。KS-928より古く、KS-927より新しい。礎石は失われ、根固め石もわずかに検出されただけである。３号建物跡に関わる礎石跡である。

・**KS-833礎石跡**　１区南東部から検出した。平面形は楕円形である。掘り方の規模は、長軸94cm、短軸86cmである。KS-974溝跡より新しい。礎石は失われ、根固め石が検出された。３号建物跡に関わる礎石跡である。

・**KS-834礎石跡**　１区南東部から検出した。平面形は楕円形である。掘り方の規模は、長軸90cm、短軸78cm、深さ（12cm）である。 礎石は失われ、根固め石が検出された。３号建物跡に関わる礎石跡である。KS-977、978より新しい。

・**KS-835柱穴列跡**　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、径13cmである。柱穴は打ち込みによるものである。KS-954より新しい。

・**KS-836柱穴列跡**　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、径16cmである。柱穴は打ち込みによるものである。

・**KS-837柱穴列跡**　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸13cm、短軸12cmである。柱穴は打ち込みによるものである。

・**KS-838柱穴列跡**　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、径14cm、深さ16cm以上である。柱穴は打ち込みによるものである。穴の先端は細くなっていき、掘り方は検出されなかった。

・**KS-839柱穴列跡**　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸16cm、短軸15cmである。柱穴は打ち込みによるものである。

・**KS-840柱穴列跡**　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸20cm、短軸16cmである。柱穴

は打ち込みによるものである。

・KS-841柱穴列跡　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸18cm、短軸（17cm）である。柱穴は打ち込みによるものである。KS-972より新しい。

・KS-842柱穴列跡　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸28cm、短軸27cmである。柱穴は打ち込みによるものである。KS-972より新しい。

・KS-843石組溝　１区北東張り出し部から検出した。規模は、長さ（254cm）、幅97cm深さ31cmである。方向は、N−60°−Eである。KS-681防空壕より古い。埋土中より、肥前染付碗（くらわんか手、18世紀）、肥前染付皿、志戸呂瓶、土師質土器皿、刻印のある瓦（第31図22・23）、桟瓦、釘（第33図４）などが出土した。また、北側の掘り方からも、焼けた瓦片が出土している。

・KS-844ピット　１区北東張り出し部から検出した。平面形は楕円形である。規模は、長軸36cm、短軸26cmである。KS-848、845より新しく、KS-681より古い。

・KS-845土坑　１区北東張り出し部から検出した。平面形は不整方形である。規模は、長軸120cm、短軸110cmである。KS-681、844より古く、KS-848より新しい。

・KS-846ピット　１区北東張り出し部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸36cm、短軸26cmである。KS-848より新しい。KS-871との新旧関係は不明である。

・KS-847柱穴　１区北東張り出し部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸45cm、短軸（38cm）、深さ30cmである。KS-848より古い。埋土からは円礫が数点検出された。埋土中より、肥前磁器皿が出土した。

・KS-848溝跡　１区北東張り出し部から検出した。平面形はである。規模は、長軸385cm以上、短軸151cm、深さ20cmである。方向は、N−約73°−Eである。溝底下で集石を検出した。KS-847、849より新しく、KS-844、845、846、871より古い。埋土中より、京・信楽の色絵香炉（18世紀、第24図６）、肥前陶器、瓦が出土した。

・KS-849ピット　１区北東張り出し部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸39cm、短軸33cmである。KS-848より古い。

・KS-850土坑　１区北東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸59cm、短軸36cmである。KS-871より古い。

・KS-851ピット　１区北東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸57cm、短軸（23cm）、深さ６cmである。KS-853、854より新しい。埋土中より、小野相馬碗（18世紀、第24図２）、肥前染付碗、瓦多数が出土した。

・KS-852溝跡　１区北東部から検出した。規模は、長軸345cm以上、短軸49cmである。方向は、N−69°−Eである。KS-822、853、865、866より古い。

・KS-853ピット　１区北東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸31cm、短軸（16cm）である。KS-852より新しく。KS-851より古い。

・KS-854土坑　１区北東部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸（53cm）、短軸46cmである。KS-851より古い。

・KS-855礎石　１区北東部から検出した。平面形は長方形である。規模は、長軸34cm、短軸20cm、厚さ10cmである。

・KS-856礎石　１区北東部から検出した。礎石の形状は不整形である。礎石の規模は、長軸33cm、短軸28cmである。掘り方の平面形は円形である。掘り方の規模は長軸57cm、短軸51cmである。KS-871、924より新しい。

・KS-857ピット　１区北東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸27cm、短軸22cmである。KS-871より古い。

・KS-858ピット　１区北東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸19cm、短軸18cmである。

・KS-859ピット　1区北東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸27cm、短軸21cmである。KS-804より古い。

・KS-860柱穴　1区北東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸48cm、短軸47cmである。柱痕跡があり、径19cmである。

・KS-861礎石　1区北東部から検出した。礎石の形状は楕円形である。礎石の規模は長軸24cm、短軸18cmである。掘り方の平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸38cm、短軸30cmである。この付近は上部が削平されており、礎石としたものは、礎盤石の可能性も考えられる。

・KS-862ピット　1区北東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸26cm、短軸20cmである。

・KS-863土坑　1区北西部から検出した。平面形は不整長楕円形である。規模は、長軸（222cm）、短軸78cmである。段切遺構壁際に位置し、遺構の中央より大型の自然石が検出された。段切遺構より古いと考えられる。埋土中より、堤焼鉢（19世紀前半）が出土した。

・KS-864石列　1区北西部から検出した。規模は、長軸（245cm）、短軸120cmである。方向は、N－70°－Eである。南北120～130cm幅の掘り方（あるいは裏込め）を伴う。石列は南辺を揃えており、南側を意識したものと考えられるが、カマド跡との関わりは明らかではない。KS-883、884、段切遺構より古い。遺物は、掘り方より大堀相馬白濁釉碗、軒平瓦（第29図３）が出土した。

・KS-865土坑　1区北東部から検出した。平面形は円形と予想される。規模は、長軸80 cm、短軸（22cm）である。KS-852より新しい。KS-866との新旧関係は不明である。

・KS-866溝跡　1区北東部から検出した。規模は、長軸107cm以上、短軸37cm、深さ24cmである。方向は、N－78°－Eである。KS-852より新しい。KS-865との新旧関係は不明である。底部より肥前染付碗が出土した。

・KS-867土坑　1区北東部から検出した。平面形は方形である。規模は、長軸70cm、短軸（44cm）である。埋土中に被熱し赤変した平石（30cm×（23cm））、（30cm×32cm）の２石を検出した。KS-823、KS-869より古い。

・KS-868土坑　1区北東部から検出した。平面形は隅丸方形である。規模は、長軸52cm、短軸（31cm）である。KS-894より新しい。

・KS-869礎石　1区北東部から検出した。礎石の形状は、楕円形である。礎石の規模は、長軸45cm、短軸35cmである。掘り方の平面形は不整円形である。掘り方の規模は、長軸97cm、短軸90cmである。礎石として扱っているが、現状では組むものは不明である。KS-867、894より新しい。

・KS-870土坑　1区中央部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸66cm、短軸（66cm）である。KS-894、895、924より古い。

・KS-871溝跡　1区北東部から検出した。規模は、長軸595cm以上、短軸（266cm）である。方向はN－41°－Eである。KS-805、821、856より古く、KS-846、848、850、857より新しい。埋土中より、肥前染付皿（17世紀後半～18世紀前半、第22図４）、大堀相馬碗、備前甕片、瓦質鉢、瓦、古銭などが出土した。

・KS-872柱穴　1区中央部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸70cm、短軸60cmである。KS-924より古い。

・KS-873柱穴　1区北東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸98cm、短軸81cm、深さ43cmである。柱痕跡があり、規模は径約20cmである。埋土中より、熨斗瓦、軒平瓦などが出土した。

・KS-874土坑　1区北東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸67cm、短軸60cmである。

・KS-875溝跡　1区北東部から検出した。規模は、長軸554cm以上、短軸172cm、深さ82cmである。方向はN－90°－Eである。KS-816、817、877、909、910より古い。KS-876は断割掘り下げ中に検出され、新旧関係は不明である。埋土中より、鬼瓦（第29図７）、輪ちがい（第29図10）、土師質土器皿、碁石（第32図１）、砥石（第32図３）などが出土した。

・KS-876柱穴　1区北東部から検出した。平面形は円形と予想される。規模は、長軸80cm、短軸70cmである。内部では、扁平な石が出土し、礎盤石の可能性が考えられる。KS-875と重複するのか一連の遺構とみるか明らかではない。

・KS-877防空壕跡　1区北東部から検出した。形状は、方形の竪穴部に溝状に伸びる通路が取り付く。規模は、長軸（285cm）、短軸（113cm）、深さ82cmである。KS-875より新しい。埋土中より、肥前青緑釉皿（17世紀後半）、大堀相馬小坏（18世紀後半、第24図7）、瓦多数、煙管などが出土した。

・KS-878石組溝　1区北西部から検出した。規模は、長軸262cm以上、短軸111cmである。方向はN－76°　Eである。KS-913に接続する。

・KS-879石組溝　1区北西部から検出した。規模は、長軸137cm以上、短軸（290cm）である。方向はN－29°－Wである。L字形に屈曲し、南へ伸びる。KS-913に接続する。

・KS-880土坑　1区北西部から検出した。平面形は楕円形である。規模は、長軸64cm、短軸53cm、深さ23cmである。KS-661より古い。底面より、大堀相馬鉄絵皿（19世紀前半）が出土した。

・KS-881土坑　1区北西部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸51cm、短軸（22cm）である。KS-913より古い。

・KS-882土坑　1区北西部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸180cm以上、短軸95cmである。KS-661、913より古い。土坑として扱ったが、性格不明の遺構である。

・KS-883ピット　1区北西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸20cm、短軸18cmである。KS-864より新しい。

・KS-884溝跡　1区北西部から検出した。規模は、長軸238cm以上、短軸32cmである。方向はN－77°－Eである。KS-885、888、段切遺構より古く、KS-864より新しい。

・KS-885柱穴　1区北西部から検出した。平面形は円形である。規模は、径27cmである。KS-884より新しい。

・KS-886ピット　1区北西部から検出した。平面形は円形である。規模は、径31cmである。柱穴の可能性も考えられる。

・KS-887ピット　1区北西部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、径34cmである。柱穴の可能性も考えられる。

・KS-888溝跡　1区北西部から検出した。規模は、長軸（314cm）、短軸36cmである。方向はN－65°－Wである。KS-917カマド跡、段切遺構より古く、KS-884、889より新しい。

・KS-889溝跡　1区北西部から検出した。規模は、長軸137cm以上、短軸57cmである。方向はN－8°－Eである。KS-888、917より古い。

・KS-890溝跡　1区中央部から検出した。規模は、長軸450cm以上、短軸70cm、深さ12cmである。方向はN－19°－Wである。KS-892より古く、KS-917、920より新しい。埋土中より、大堀相馬灰釉碗（朝顔形）（18世紀、第24図5）、大堀相馬豆甕、瀬戸美濃染付碗（19世紀前半）、瓦などが出土した。

・KS-891ピット　1区中央部から検出した。平面形は楕円形である。規模は、長軸25cm、短軸21cmである。

・KS-892土坑　1区中央部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸63cm、短軸40cm、深さ7cmである。木炭片を多量に含む。KS-890より新しい。重複関係から近代の遺構と考えられる。

・KS-893ピット　1区中央部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸（22cm）、短軸12cmである。KS-894より古い。

・KS-894土坑　1区中央部から検出した。平面形は、北側のプランが不明で全体の形状は明確ではないが、長方形を基調としている。規模は、長軸120cm、短軸111cm、深さ72cmである。内部には、柱材が3点検出された。この柱材が、酒造りの酒を搾る施設に特有の男柱（支柱）の可能性もあるが結論を出せなかった。KS-807、868、869より古く、KS-870、893、895、898より新しい。埋土中より、肥前染付碗、大堀相馬鉄釉鍋？、瓦、漆器椀（写真25-

212)、角材（全体を確認できたものは28cm×15cm、残存高29cmである）などが出土した。

・**KS-895土坑**　1区中央部から検出した。平面形は方形と予想される。規模は、長軸60cm、短軸（22cm）である。KS-894より古く、KS-870より新しい。

・**KS-896礎石跡**　1区中央部から検出した。掘り方の形状は円形である。掘り方の規模は、長軸127cm、短軸(96cm)である。根固め石が検出され、中央が窪んでおり、深さ22cmを測る。この窪みは、礎石の抜き取り穴の可能性がある。KS-897より新しい。

・**KS-897ピット**　1区中央部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸23cm、短軸（19cm）である。KS-896より古い。

・**KS-898ピット**　1区中央部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸（14cm）、短軸17cmである。KS-894より古い。

・**KS-899ピット**　1区中央部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸20cm、短軸19cmである。

・**KS-900土坑**　1区中央部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸38cm、短軸29cmである。

・**KS-901土坑**　1区中央部から検出した。平面形は不整長方形である。規模は、長軸（106cm）、短軸76cmである。埋土中に炭・焼土が多量に含まれている。KS-902より古い。

・**KS-902土坑**　1区中央部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸（63cm）、短軸26cmである。KS-903より古く、KS-901より新しい。

・**KS-903土坑**　1区中央部から検出した。平面形は不整方形である。規模は、長軸50cm、短軸40cmである。KS-902より新しい。

・**KS-904ピット**　1区中央部から検出した。平面形は円形である。規模は、径10cmである。

・**KS-905ピット**　1区北東部から検出した。平面形は楕円形である。規模は、長軸39cm、短軸16cmである。

・**KS-906礎石**　1区中央部から検出した。礎石の形状は不整円形である。礎石の規模は、長軸47cm、短軸45cmである。厚さは9cmで扁平である。KS-924より新しい。掘り方の有無は明確ではない。

・**KS-907ピット**　1区中央部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸18cm、短軸15cmである。KS-924より新しい。

・**KS-908礎石**　1区中央部から検出した。礎石の形状は不整円形である。礎石の規模は、長軸52cm、短軸40cm、厚さ（12cm）で扁平である。KS-924より新しい。掘り方の有無は明確ではない。

・**KS-909礎石**　1区北東部から検出した。礎石の形状は、不整円形である。礎石の規模は長軸34cm、短軸27cmである。掘り方の平面形は方形である。掘り方の規模は、長軸67cm、短軸55cmである。KS-875より新しい。

・**KS-910ピット**　1区北東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸25cm、短軸24cmである。KS-875より新しい。

・**KS-911土坑**　1区中央部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸90cm、短軸87cm、深さ50cmである。KS-818より古い。埋土中より、大堀相馬徳利（19世紀前半、第24図13）、肥前陶器皿、瓦などが出土した。

・**KS-912ピット**　1区中央部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸18cm、短軸16cmである。

・**KS-913溝跡**　1区北西部から検出した。規模は、長さ550cm以上、幅102cm、深さ16cmである。方向はN−23°−Wである。埋土中より、肥前染付皿（第21図11）、瓦多数、底面より、大堀相馬灰釉碗（第24図3）、堤焼焙烙などが出土した。KS-881、882より新しい。

・**KS-914石組溝**　1区北西部から検出した。規模は、長軸（283cm）、短軸（30cm）である。方向はN−約5°−Eである。KS-913に接続する。

・**KS-915ピット**　1区北西部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸26cm、短軸19cmである。KS-917カマド跡より新しい。

・KS-916ピット　1区北西部から検出した。平面形は楕円形である。規模は、長軸22cm、短軸20cmである。段切遺構との新旧関係は不明である。

・KS-917カマド跡（第18図）　1区北西部から検出した。半地下式でカマド本体と横長形の焚口部から成り、周囲には掘り方を伴う。平面形は方形を基調とし北側に掘り方の張り出し部がある。規模は、長軸373cm、短軸360cmである。カマド本体は加工した岩を巡らし、規模は径約70cm、深さ16cmで円形に近い馬蹄形を呈している。この岩は内外二重に巡らし、その中間や周囲には粘土を貼り付けている。北東側では一部岩が三重に巡っている所があり、修復等が行われた可能性がある。本体の内底面には溝状の掘り方を持つ加工した岩が6点焚口部へ向かって並んだ状態で敷かれている。灰を掻き出すための施設であると考えられる。焚口部は作業空間と考えられ、横長形を呈し、規模は長軸230cm、短軸170cm、深さ20cmである。焚口部のカマド本体前の床面には、形状は不明だが、杭を伴う深さ19cm前後の穴が検出された。南側の床面は砂敷となっている。焚口部の北辺と東辺には、切石や円礫がL字形に配置されている。カマド本体・焚口部ともに、埋土はどの層も木炭片が多量に含まれている。カマド跡は東側と北側に幅の広い掘り方、焚口部床下の掘り方をそれぞれ伴っている。KS-890、915、段切遺構より古く、KS-888、889、929、931より新しい。遺物は、埋土中より、肥前小型瓶、肥前染付碗（蓋）（第21図8）、大堀相馬小坏（18世紀後半）、瓦質浅鉢（第28図15）、軒丸瓦、平瓦、丸瓦、鉄釘、古銭などが出土した。また、検出面では、地方窯の銅版刷染付皿（19世紀後半、第21図13）、大堀相馬小坏（18世紀後半）、堤焼秉燭（19世紀前葉～中葉、第24図17）、軒平瓦、平瓦、丸瓦、塀瓦が出土した。

・KS-918ピット　1区中央部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸28cm、短軸21cmである。

・KS-919ピット　1区中央部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸30cm、短軸27cmである。

・KS-920土坑　1区中央部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸140cm、短軸40cmで、北側張り出しがある。KS-890より古く、KS-620より新しい。

・KS-921溝跡　1区中央部から検出した。規模は、長さ74cm、幅（38cm）深さ36cmである。方向はN－72°－Eである。KS-924の溝の中の一部で西へ張り出した部分を便宜的に区別してKS-921とした。

・KS-922礎石　1区中央部から検出した。礎石の形状は不整楕円形である。礎石の規模は、長軸33cm、短軸26cmである。掘り方の平面形は不整楕円形である。掘り方の規模は、長軸55cm、短軸37cmである。KS-924より新しい。

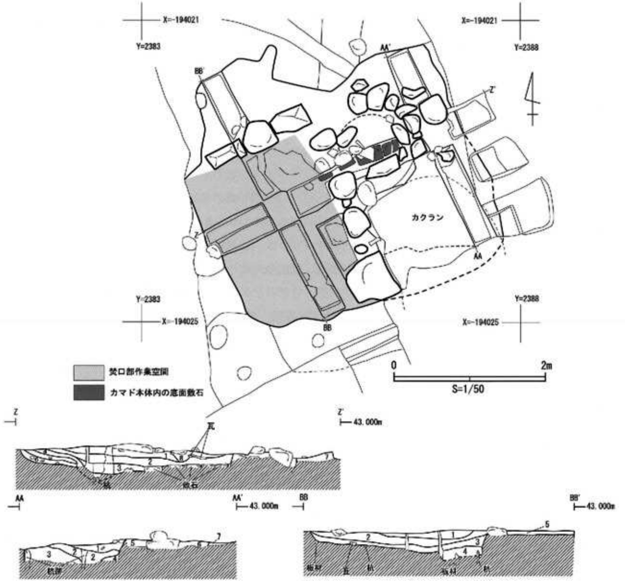
・KS-923ピット　1区中央部から検出した。平面形は方形である。規模は、径41cmである。KS-924より新しい。

・KS-924溝跡　1区中央部から検出した。規模は、長さ1140cm以上、幅121cm～500cm、深さ73cmである。方向は、東西方向の溝がN－72°－E、南北方向の溝がN－21°－Wである。重複があるが元はKS-604水利遺構に接続していた溝と考えられる。KS-597、806、809、856、906、907、908、922、923、941より古く、KS-870、872、938より新しい。KS-925、937との新旧関係は不明である。一部石組となっている。埋土中より、肥前染付小坏（17世紀後半～、第21図5）、肥前染付蓋付鉢（蓋）（18世紀、第22図6）、大堀相馬灰釉碗、瀬戸美濃腰錆碗、備前甕、土師質皿（第28図2・3）、焼塩壷、谷瓦（第29図15）、熨斗瓦（第29図11）、鉄釘、毛抜き（第33図11）、古銭（第34図2・5）などが出土した。

・KS-925土坑　1区中央部から検出した。平面形は不整長方形と予想される。規模は、長軸111cm、短軸98cm、深さ48cmである。KS-619、625、936より古く、KS-937、939より新しい。KS-924との新旧関係は明確ではない。埋土中より、大堀相馬灰釉腰折碗（18世紀、第24図4）、肥前染付皿（18世紀）、堤焼鉢、瓦、古銭（第34図6）、砥石などが出土した。

・KS-926柱穴　1区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸102cm、短軸97cmである。径約20cmの柱痕跡あり。

・KS-927ピット　1区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸25cm、短軸（21cm）である。KS-832より古い。



調査区	遺構番号	遺構・層位	土色 土色No	土色	土質	土性 粘質	土性 しまり	備考
Z-Z'								
1	KS-917（中央トレ）	埋土1	7.5YR3/1	黒褐色	シルト	やや有	やや有	木炭片多量。風化礫（1~3cm）岩片・礫（1~6cm）少量。瓦を含む。
		埋土2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	有	やや有	礫（3~15cm）少量。風化礫（1~3cm）多量。炭化物・瓦を含む。
		埋土3	10YR3/2	黒褐色	シルト	やや有	有	風化礫（0.5~3cm）多量。礫（3~15cm）。岩片・木炭を少量。瓦・鉄分を含む。焼土ブロック（細かい）を少量含む。
		埋土4	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	やや有	礫（1~6cm）を少量・鉄分少量含む。炭化物・木片を含む。両側は層の上面がかたい。
		埋土5	10YR1.7/1	黒色	シルト	やや有	やや有	木炭片多量。
		埋土6	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	やや有	有	礫（3~5cm）少量。木片・瓦片・鉄製品を含む。
		埋土7	7.5YR3/1	黒褐色	シルト	やや有	無	岩片・瓦・鉄分を含む。木炭片を含む。
		埋土8	10YR1.7/1	黒色	シルト	有	無	木炭・鉄分少量含む。落ち込み？
AA-AA'								
-	KS-917	埋土1~3						Z-Z'の埋土1~3と同じ
1	KS-917（東トレ）	埋土4	10YR6/2	灰黄褐色	粘土	有	やや有	礫（2~3cm）・鉄分少量含む。（カマドの補強用か？）
		埋土5	10YR3/1	黒褐色	シルト	やや有	有	埋土1層とほぼ同じだが、わずかに焼土を含む。
		埋土6	5YR3/1	黒褐色	シルト	やや有	有	木炭片を少量含む。
		埋土7	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	やや有	やや有	砂多量。礫（2~3cm）岩片を少量含む。炭化物・鉄分を含む。
BB-BB'								
1	KS-917（西トレ）	埋土1	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	有	やや有	鉄分・細かい風化礫（黄褐色）多量。礫（2~5cm）・炭・岩片を少量含む。陶器片を含む。
		埋土2	10YR1.7/1	黒色	シルト	やや有	やや有	木炭片多量。鉄分少量を含む。
		埋土3	10YR2/1	黒色	シルト	やや有	やや有	木炭片多量。鉄分少量。瓦を含む。
		埋土4	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	やや有	礫（1~6cm）を少量。鉄分少量を含む。炭化物・木片を含む。

第18図　１区KS-917カマド跡　平・断面図

・KS-928防空壕跡　1区南東部から検出した。形状は方形を呈するものと予想される。規模は、長軸（325cm）、短軸（190cm）、深さ75cmである。KS-815、832、948、974より新しい。埋土中に円礫が多数検出された。埋土中より、堤焼鉛釉器台（19世紀前葉～中葉、第24図18）、肥前青磁中皿（17世紀、第22図２）、中国青花皿、小柄欄（第33図９）、瓦などが出土した。

・KS-929土坑　１区北西部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸（57cm）、短軸51cmである。KS-917、段切遺構より古い。

・KS-930ピット　１区北西部から検出した。平面形は楕円形である。規模は、長軸34cm、短軸22cmである。

・KS-931土坑　１区北西部から検出した。平面形は方形と予想される。規模は、長軸（157cm）、短軸74cmである。KS-932、917より古い。

・KS-932ピット　１区北西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸18cm、短軸14cmである。KS-931より新しい。

・KS-933ピット　１区北西部から検出した。平面形は円形である。規模は、径16cmである。

・KS-934ピット　１区南西部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸32cm、短軸30cmである。

・KS-935ピット　１区南西部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸40cm、短軸34cmである。

・KS-936土坑　１区南西部から検出した。平面形は隅丸方形である。規模は、長軸213cm、短軸152cm、深さ54cmである。KS-628、826、925より新しい。埋土上部には、人型の礫や木箱となどが検出された。この遺構は第21次調査（平成20年度実施）でKS-608としたものの一部である。埋土中より、堤焼鉄釉播鉢（19世紀前葉～中葉）、鉄製木鉄、桟瓦が出土した。

・KS-937土坑　１区南東部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸90cm、短軸（30cm）である。KS-925より古く、KS-603、619、938より新しい。KS-924との新旧関係は不明である。

・KS-938土坑　１区南東部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸（74cm）、短軸69cmである。KS-603、604、924、937、942より古い。

・KS-939土坑　１区南西部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸69cm、短軸45cmである。KS-598、925より古い。

・KS-940礎石　１区南東部から検出した。礎石の形状は円形である。礎石の規模は、長軸25cm、短軸20cm、厚さ11cmである。掘り方は検出されなかった。１号建物跡に関わる礎石の可能性も考えられる。

・KS-941礎石　１区南東部から検出した。礎石の形状は不整円形である。礎石の規模は、長軸28cm、短軸24cmである。掘り方の形状は不整円形である。掘り方の規模は、長軸40cm、短軸35cmである。KS-924より新しい。

・KS-942土坑　１区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸55cm、短軸47cmである。KS-943より古く、KS-604、938より新しい。

・KS-943土坑　１区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸90cm、短軸73cmである。KS-604、942より新しい。

・KS-944ピット　１区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸29cm、短軸28cmである。KS-604の溝跡部分より新しい。

・KS-945ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸27cm、短軸25cmである。

・KS-946ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸35cm、短軸34cmである。

・KS-947土坑　１区南東部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸107cm、短軸（69cm）である。KS-948より古い。

・KS-948溝跡　１区南東部から検出した。規模は、長さ640cm以上、幅36cm、深さ７cmである。方向はN－67°－Eである。KS-604水利遺構と関連する。KS-928より古く、KS-947より新しい。埋土中より、肥前染付皿（18世紀後半

〜19世紀前半、第22図３)、土師質土器皿片が出土した。

・KS-949土坑　１区南東部から検出した。平面形は不整楕円形である。規模は、長軸119cm、短軸42cm〜58cmである。KS-973、974より新しい。埋土中から円礫が検出された。

・KS-950ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸18cm、短軸13cmである。KS-951より新しい。

・KS-951土坑　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸（68cm)、短軸68cmである。KS-950より古く、KS-974より新しい。

・KS-952ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸32cm、短軸（21cm）である。KS-977の溝より古い。

・KS-953土坑　１区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸55cm、短軸47cmである。KS-977より新しい。

・KS-954土坑　１区南東部から検出した。平面形は方形と予想される。規模は、長軸（226cm)、短軸（148cm)、深さ26cmである。KS-835、977、982より新しく、KS-983より古い。近現代の可能性がある。埋土中より、肥前染付碗、肥前染付散蓮華（19世紀、第22図７)、大堀相馬灰釉碗、大堀相馬白濁釉小坏、弾丸、瓦片多数、ガラス瓶などが出土した。

・KS-955溝跡　１区南西部から検出した。規模は、長さ（278cm)、幅51cm、深さ33cmである。方向はN−78°−Eである。掘り直しが認められる。KS-957と並行し近代の溝跡と考えられる。埋土中より、産地不明擂鉢、底面より、肥前染付碗が出土した。

・KS-956土坑　１区南西部から検出した。平面形は方形と予想される。規模は、長軸140cm、短軸50cmである。KS-829より新しい。

・KS-957溝跡　１区南西部から検出した。規模は、長さ330cm以上、幅70cm、深さ32cmである。方向はN−77°−Eである。KS-958より古く、KS-829、959、984、985より新しい。レンガが出土していたことから、近代の時期の遺構と考えられる。埋土中より、肥前染付広東碗、瀬戸美濃染付碗（19世紀、第21図７)、大堀相馬土瓶（19世紀)、瓦片多数、刻印のあるレンガ（第32図６）などが出土した。

・KS-958ピット　１区南西部から検出した。平面形は楕円形である。規模は、長軸33cm、短軸（21cm)、深さ12cmである。KS-957、985より新しい。

・KS-959土坑　１区南西部から検出した。平面形は方形である。規模は、長軸45cm、短軸（38cm）である。KS-957溝より古い。炉跡に関連するものと考えられる。埋土には風化砂礫が堆積している。

・KS-960ピット　１区南西部から検出した。平面形は方形である。規模は、長軸27cm、短軸23cmである。KS-985炉跡より新しい。

・KS-961柱穴　１区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸12cm、短軸10cmである。柱穴は打ち込みによるものである。

・KS-962ピット　１区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長18cm、短軸16cmである。KS-985炉跡より新しい。

・KS-963ピット　１区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸12cm、短軸11cm、深さ１cmである。KS-985炉跡より新しい。

・KS-964ピット　１区南西部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸29cm、短軸24cmである。KS-985炉跡より新しい。

・KS-965ピット　１区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸43cm、短軸39cmである。KS-994より新しい。埋土中より円礫が検出された。

・KS-966ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、径16cmである。

・KS-967柱穴　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸18cm、短軸14cmである。

・KS-968ピット　１区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸18cm、短軸16cmである。KS-604より新しい。

・KS-969溝跡　１区南東部から検出した。規模は、長さ110cm、幅（19cm）である。方向はN−70°−Eである。KS-604より続く。溝底で円礫が並んで検出された。本来は、さらに東に伸びていた可能性がある。

・KS-970ピット　１区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸27cm、短軸23cmである。KS-971より古く、KS-974より新しい。

・KS-971ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸17cm、短軸16cmである。KS-970、974より新しい。

・KS-972土坑　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸167cm、短軸（85cm）である。KS-841、842より古く、KS-977より新しい。

・KS-973溝跡　１区南東部から検出した。規模は、長さ460cm、幅42cm～60cm、深さ13cmである。方向はN−69°−Eである。KS-604水利遺構と関連する溝跡と考えられる。KS-974、949より古い。

・KS-974溝跡　１区南東部から検出した。規模は、長さ（870cm）、幅65cm、深さ10cmである。方向はN−62°−Eである。KS-604、833、928、949、951、970、971、973より古い。KS-977との新旧関係は不明である。KS-604水利遺構と関連する溝跡と考えられる。底面付近には円礫が多数検出された。埋土中より、丸瓦、平瓦が出土した。

・KS-975ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸27cm、短軸（20cm）である。KS-977の溝より古い。

・KS-976土坑　１区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸70cm、短軸52cmである。埋土から円礫が検出された。遺物は、埋土中より、熨斗瓦、平瓦、丸瓦が出土した。

・KS-977溝跡　１区南東部から検出した。規模は、長軸（544cm）、短軸84cm、深さ14cmである。方向はN−69°−Eである。柱穴列跡、KS-834、953、954、972、978より古い。KS-952、975、979、981より新しい。KS-974との新旧関係は不明である。埋土中より、瓦質鉢、塀瓦が出土した。

・KS-978土坑　１区南東部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸39cm、短軸（20cm）である。KS-834より古く、KS-977より新しい。

・KS-979ピット　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸31cm、短軸（27cm）である。KS-977の溝より古い。

・KS-980土坑　１区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸117cm、短軸（56cm）である。

・KS-981土坑　１区南東部から検出した。平面形は円形と予想される。規模は、長軸45cm、短軸（20cm）である。KS-977の溝より古い。

・KS-982土坑　１区南東部から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸140cm、短軸83cmである。KS-954、983より古い。

・KS-983防空壕跡　１区南東部から検出した。平面形は方形と予想される。規模は、長軸（268cm）、短軸（49cm）、深さ71cmである。大部分は調査区外にある。KS-954、982より新しい。底面には打込みによる細い杭が４本検出された。埋土中より、瀬戸美濃染付盃付端反碗（蓋）（第21図９）、大堀相馬灰釉碗、ガラス瓶などが出土した。

・KS-984溝跡　１区南西部から検出した。規模は、長軸230cm以上、短軸28cmである。方向はN−21°−Eである。KS-957溝より古い。埋土中にはⅡb層が堆積している。近代の時期の遺構と考えられる。埋土中より、大堀相馬灰釉碗、平瓦などが出土した。

・KS-985炉跡（第19図）　１区南西部から検出した。大型の掘り方を伴う炉跡である。燃焼部の規模は、径61cmの

円形を呈している。燃焼部の焼土上には炭混じりの黒色土（埋土1層）が堆積し、塀瓦、播鉢、青磁中皿等の遺物が出土している。出土状況が敷き詰めたようで、あたかも使用停止後に封印したような印象を受ける。燃焼部の南側では凝灰岩の切石や円礫で石囲いとしている。炉跡は周囲に五角形に近い形状を示す掘り方が検出された。掘り方の規模は、長軸256cm、短軸142cm、深さ40cm以上である。掘り方の埋土上部の多くは砂を多く含む層で占められ、下部は粘質土である。東辺では、掘り方東側壁部に土留めとみられる板材の痕跡が認められた。KS-957、958、960、962、963、964、985より古い。遺物は、肥前青磁中皿（17世紀、第22図1）、在地鉄釉播鉢（第25図3）、軒平瓦、塀瓦（第29図16）が燃焼部より出土した。また、掘り方上面で肥前染付碗（18世紀後葉、第21図4）、瓦片が出土した。

・KS-986柱穴　1区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸15cm、短軸14cmである。KS-987より新しい。

・KS-987土坑　1区南西部から検出した。平面形は不整楕円形である。規模は、長軸82cm、短軸59cm、深さ26cmである。KS-986より古く、KS-993より新しい。底面の北側からはピットが検出された。埋土中より、肥前染付鉢、瀬戸美濃灰釉碗（18世紀）が出土した。

・KS-988ピット　1区南西部から検出した。平面形は楕円形である。規模は、長軸46cm、短軸39cmである。KS-985より新しい。

・KS-989石列　1区南西部から検出した。規模は、長軸200cm、短軸40cmである。方向はN－約75°－Eである。5石が連続しており、さらに、KS-990、991が続いていた石の抜き取り穴であろうと考えられる。

・KS-990ピット　1区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸29cm、短軸24cmである。石抜き取り穴と考えられる。

・KS-991ピット　1区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸21cm、短軸（12cm）である。石抜き取り穴。

・KS-992溝跡　1区南西部から検出した。規模は、長さ（444cm）、幅40cm、深さ10cmである。方向はN－76°－Eである。KS-989石列に並行し、KS-994で止まっている。KS-830礎石より新しい。埋土中より、備前大甕片（17世紀か）、在地播鉢（堤焼か）が出土した。

・KS-993柱穴　1区南西部から検出した。平面形は不整円形である。規模は、長軸30cm、短軸（30cm）である。KS-987より古い。

・KS-994集石　1区南西部から検出した。平面形は楕円形である。規模は、長軸（205cm）、短軸（95cm）である。拳大かそれより大きい円礫が集中している。掘り方は検出されなかった。KS-965より古いと考えられる。KS-997との新旧関係は不明である。埋土中より、肥前染付仏飯器（17～18世紀）が出土した。

・KS-995土坑　1区南西部から検出した。平面形は楕円形と予想される。規模は、長軸42cm、短軸（35cm）である。

・KS-996柱穴　1区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、径21cmである。

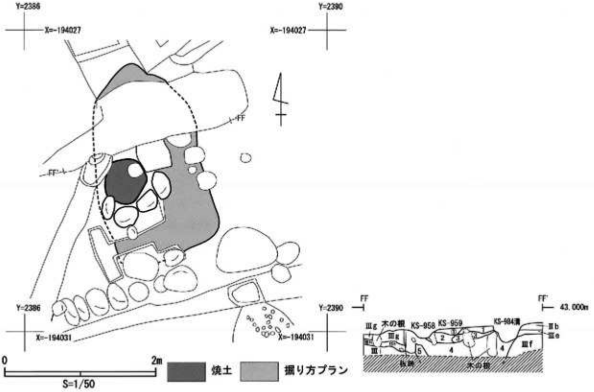
・KS-997ピット　1区南西部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸42cm、短軸（22cm）である。KS-994との新旧関係は不明である。埋土中より、大堀相馬仏飯器（18世紀）が出土した。

・KS-998ピット　1区南東部から検出した。平面形は不整円形と予想される。規模は、長軸（41cm）、短軸34cmである。一部は石の下に位置する。埋土中より、瀬戸美濃染付端反碗（19世紀前葉～中葉、第21図6）、肥前染付皿（18世紀）などが出土した。

・KS-999ピット　1区南東部から検出した。平面形は円形である。規模は、長軸26cm、短軸22cmである。KS-641より古い。

・KS-1000土坑　1区南東部から検出した。平面形は不明である。規模は、長軸121cm、短軸（40cm）である。

・KS-1001土坑　1区北西部の南壁面から検出した。段切遺構より古い。



調査区	遺構番号	遺構・層位	土色		土質	土性		備考
			土色No	土色		粘質	しまり	
FF-FF'								
1	基本層	IIb	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	無	無	砂多量。鉄分・礫（1～4cm）木炭を少量含む。
		IIIe	2.5Y4/1	黄灰色	砂	無	やや有	木炭片・鉄分少量含む。
		IIIf	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト			炭化物・風化礫少量。
		IIIg	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	やや有	有	礫（2～12cm）少量。風化礫（1～4cm）多量。鉄分・炭化物少量含む。
		IIIh	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	有	やや有	黄褐色粘土質ブロック多量。礫（8cm前後）のものを含む。木炭を少量含む。
		IIIi	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	有	有	礫（2～4cm）少量。鉄分少量を含む。
	KS-985	埋土1	10YR2/1	黒色	シルト	やや有	やや有	砂多量。木炭片・瓦少量含む。この層は焼土を直接覆う。瓦・擂鉢・青磁皿を含む。
		埋土2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	有	無	砂多量。炭化物を含む。
		埋土3	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂	無	やや有	炉の周辺にあり。
		埋土4	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	有	有	礫（2～5cm）少量。鉄分少量。炭化物を少量含む。
		埋土5	2.5Y6/2	灰黄色	砂	無	有	鉄分を含む。木の根？
	KS-959	埋土①	5Y4/1	灰色	砂	無	やや有	風化礫（0.5～2cm）多量。礫（2～5cm）少量含む。瓦片を含む。

第19図　１区KS-985炉跡　平・断面図

⑵第１遺構面（第20図）

１区北西部で、第23次調査（平成21年度実施）と同様に、段切遺構の西側の低い面で近代の遺構を検出した。層位的にはⅡd層中からⅢ層上面にかけて検出された遺構を扱う。なお、段切遺構の東側では、面的な区別は行っておらず、Ⅲ層上面検出の遺構として扱い報告する。

・**KS-661溝跡**　１区北西部で検出した。第23次調査（平成21年度実施）で検出した溝跡の南側の続きを検出した。規模は長さ350cm、幅40～50cm、深さ８cmである。埋土中より、堤焼鉛釉器台（19世紀前葉～中葉、第24図19）、大堀相馬土瓶、瓦質鉢（第28図16）などが出土した。KS-880、882より新しく、段切遺構との新旧関係は不明である。
・**KS-1002 石敷**　１区北西部西壁際のⅡd層中から検出した。平面形は不整形である。規模は、長軸（南北）約210cm、短軸（東西）約110cmである。縁礫の上端は、ほぼ統一され平坦であったことから石敷とした。この遺構は、下層のKS-879を覆うように西側調査区外へ続くと推定される。
・**段切遺構**　平成21年度の第23次調査の段切遺構の続きを検出した。約40cmの段差が南北に連なる。南半部では、その法面に比較的大型の円礫や花崗岩片が出土した。また、調査区北壁付近でも花崗岩片の集中する箇所が認められた。KS-917カマド跡より新しい。さらに、KS-864、884、888、929、1001より新しい。KS-661、916との新旧関係は不明である。

⑶防空壕跡

KS-681と第21次・第23次調査で検出されたKS-591、592（第23次調査では、攪乱扱いとした）は、形状や規模が類似し、竪穴部の角には杭（柱）が検出されている点も共通している。これらは防空壕跡（待避所）と考えられ、入口から通路部が東側の道路に向いている。仙台市戦災復興記念館の防空壕展示模型と構造がよく類似している。各壕跡は、約３mの間隔で並んでいる。また、１区南東側で検出した、KS-877・928・938についても形状が類似し、約３mの間隔で並んでいる。一部の調査にとどまったが、これらの遺構も東側の道路に向かうものと予想される。なお、造酒屋敷跡付近は、昭和20年の空襲時に被害を受けており、これらの防空壕跡も戦後に機能を停止したものと考えられる。

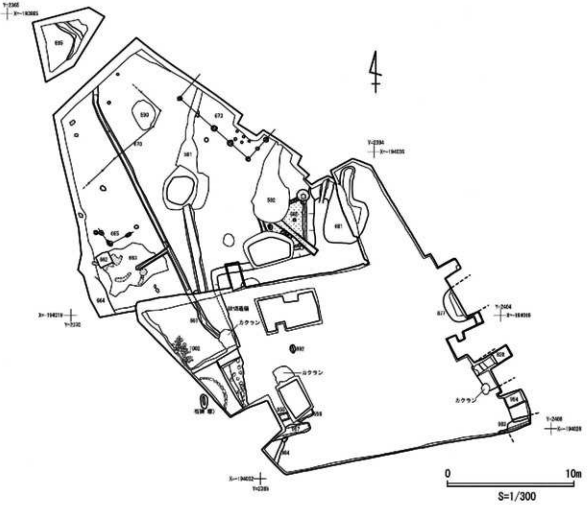
【２区】

１区の南側で屋敷跡の南端を明らかにするため、平坦部の南端に位置する地点に、約２×６mのトレンチを設定した。

・**KS-1003土坑**　２区北部から検出した。平面形は不整形である。１部分の検出であったので規模は不明だが、検出部分で長軸約100 cm、短軸約50 cm、深さ23ｃｍである。埋土中に円礫が多く含まれている。
・**KS-1004 溝跡**　２区南部から検出した。幅150cm、深さ75cmである。この溝跡は岩盤（Ⅳ層）を削り段差を作り出し、段差の際に溝を設けている。溝の南壁側では、深さ136cmを測る。埋土中には枝払いをしたと考えられる竹材が多数出土したほか、板材（折敷か、第35図１）、竹べら（第35図３）、杭（第35図２）、瓦が出土した。この段差を伴なう溝跡は、屋敷の南側を区画する施設であった可能性がある。

【３区】

１区の北東側で、市道と仙台市博物館敷地との境の段差部分（比高差約1.8m）に、約1.2m×８mのトレンチを設定した。遺構は検出されなかったが、近世の盛土層（Ⅲa層・Ⅲb層）には第26図３区南壁断面図にあるように60～65cmの段差が検出された。段差の形成時期や目的は不明である。また、この段差を覆うように花崗岩片を含むⅡ層



第20図　近・現代遺構平面図〔第23次・第26次調査〕(1/300)

が厚く堆積しており、近代以降、段差が大きくなったものと考えられる。３区では遺構が検出されなかったが、Ⅲ層（近世）上面で備前大甕（第27図６）が出土し、酒甕の可能性があり注目される。

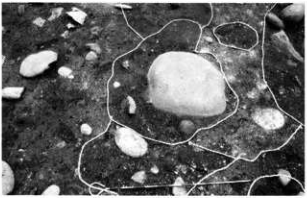
1区　全景（北西から）

1区　北西部西壁土層断面

1区　南西部西壁土層断面

1区　1号建物跡全景（南西から）

1区　KS-597礎石



1区　KS-598礎石

1区　KS-804礎石跡・859ピット

1区　KS-806礎石

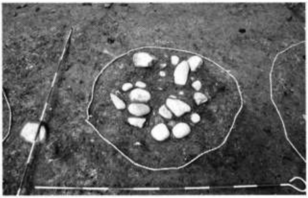
写真図版1　第26次調査　1区全景・土層断面・1区遺構1

1区　KS-808礎石

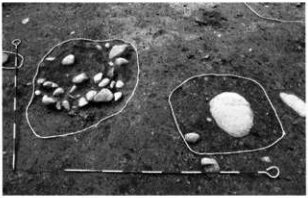
1区　KS-809礎石

1区　KS-810礎石跡・811柱穴

1区　KS-812礎石跡・813柱穴

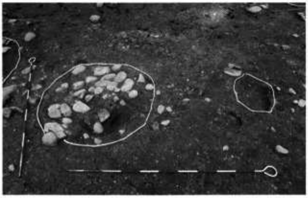


1区　KS-814礎石跡



1区　KS-816礎石跡・909礎石

1区　KS-817・818礎石跡・911土坑

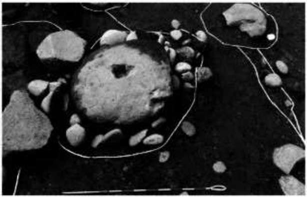


1区　KS-819礎石跡・820柱穴

写真図版2　第26次調査　1区遺構2

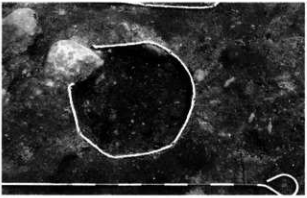
1区　KS-821礎石跡

1区　KS-822礎石跡

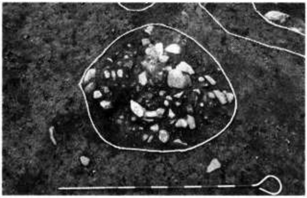


1区　KS-823礎石跡

1区　2号建物跡全景（北東から）

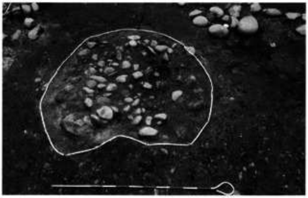


1区　KS-630柱穴



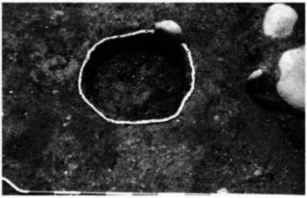
1区　KS-824礎石跡

1区　KS-826礎石跡



1区　KS-827礎石跡

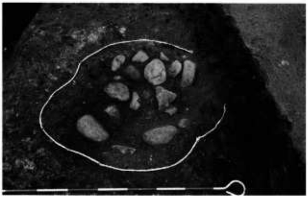
写真図版3　第26次調査　1区遺構3



１区　KS-828柱穴

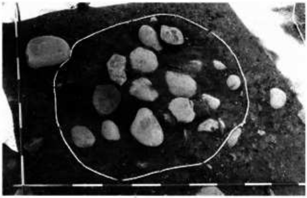
１区　３号建物跡全景（北から）

１区　３号建物跡全景（西から）



１区　KS-831礎石跡

１区　KS-832礎石跡

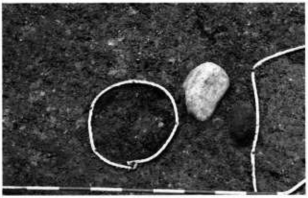


１区　KS-833礎石跡

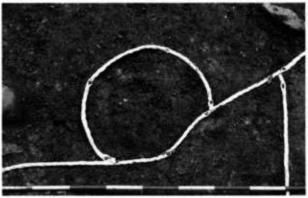
１区　KS-834礎石跡・978土坑・837柱穴

１区　柱列跡全景（東から）

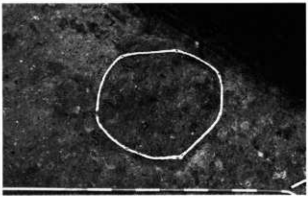
写真図版４　第26次調査　１区遺構４



1区　KS-839礎石跡



1区　KS-841柱穴



1区　KS-842柱穴

1区　KS-604水利遺構全景（南から）

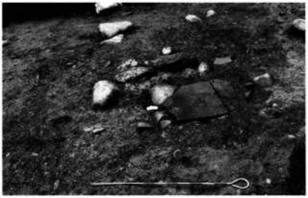
1区　KS-604水利遺構全景（東から）

1区　KS-604水利遺構東溝跡

1区　KS-604水利遺構東溝断面

1区　KS-604水利遺構木樋検出状況

写真図版5　第26次調査　1区遺構5



1区　KS-985炉跡検出状況

1区　KS-985炉跡

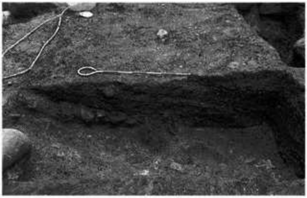
1区　KS-985炉跡掘り方検出状況（東から）

1区　KS-985炉跡断面（KS-957溝南壁断面）

1区　KS-917カマド跡検出状況全景（北東から）

1区　KS-917カマド跡サブトレンチ設定状況（東から）

1区　KS-917カマド跡中央サブトレンチ東部土層断面



1区　KS-917カマド跡中央サブトレンチ西部土層断面

写真図版6　第26次調査　1区遺構6

1区　KS-917カマド跡東サブトレンチ南部土層断面

1区　KS-917カマド跡西サブトレンチ南部土層断面

1区　KS-602焼土遺構

1区　KS-843石組溝跡

1区　KS-848溝跡（集石は溝跡に伴わない）

1区　KS-848溝跡北東部

1区　KS-871溝跡

1区　KS-875溝跡

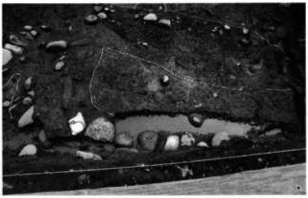
写真図版7　第26次調査　1区遺構7

1区　KS-875溝跡サブトレンチ断面

1区　KS-876柱穴（礎盤石）

1区　KS-875溝跡サブトレンチ全景（東から）

1区　KS-878・879石組溝跡・913溝跡全景



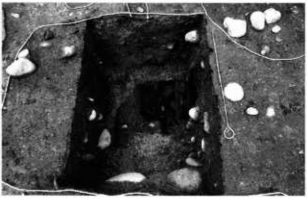
1区　KS-879石組溝跡・913溝跡

1区　KS-884溝跡・864石列（東から）

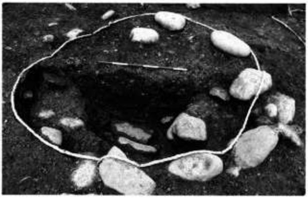
1区　KS-884溝跡・864石列（西から）

1区　KS-894土坑南壁断面

写真図版8　第26次調査　1区遺構8



１区　KS-894土坑



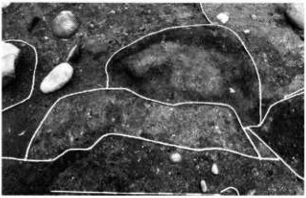
１区　KS-896礎石跡

１区　KS-924溝跡

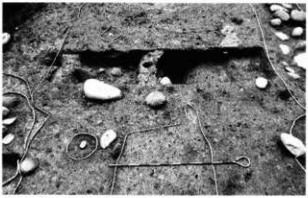
１区　KS-924溝跡西側石組み部分

１区　KS-936土坑

１区　KS-936土坑内集石・遺物出土状況



１区　KS-603焼土遺構,937土坑



１区　KS-977・974溝跡

写真図版９　第26次調査　１区遺構９

1区　KS-922溝跡

1区　KS-994集石

1区北西部　段切遺構

1区北西部　近代遺構全景（東から）

1区北西部　KS-1002集石

1区北西部　KS-661溝跡と花崗岩片検出状況

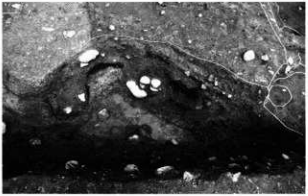
1区北西部　段切遺構南壁土層断面

1区　KS-957溝跡（近代）

写真図版10　第26次調査　1区遺構10

１区　KS-984溝跡

１区　KS-681防空壕跡

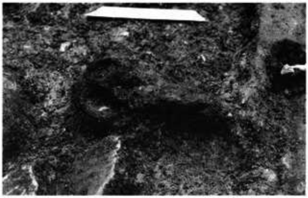


１区　KS-681防空壕本体部分

１区　KS-877防空壕跡

１区　KS-824礎石跡出土色絵金彩皿

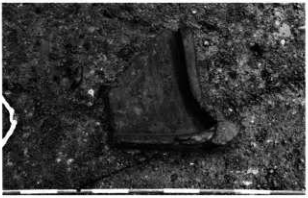
１区　KS-936土坑出土擂鉢



１区　KS-936土坑出土鋏

１区　２号建物跡付近Ⅲ層上面出土瓦

写真図版11　第26次調査　１区遺構11



１区　KS-875溝跡出土鬼瓦

２区　全景（北から）

２区　南壁土層断面

２区　KS-1004土坑

３区　全景（西から）

３区　中央南壁土層断面（下段部）

３区　南壁土層断面（上段部）

昭和12年の石碑（塚）

写真図版12　第26次調査　１区遺構12・２区・３区

4．出土遺物

出土遺物について種類別に概要を報告する。遺物は１区に集中し、調査区の面積が小さい２区・３区からの出土は、非常に少なかった。出土点数については、区・遺構・層位別の数量表（第９～13表）を作成し、遺物実測図・遺物写真には観察表（第14～34表）を付した。なお、陶磁器・土器類の点数は、接合後の点数を算出し、表に示した。

(1)磁器（第９表）

磁器は404点出土した。１区では、２号建物跡プラン内とみられる炉跡やカマド跡に集中傾向が認められる。また、水利遺構内とその周辺やこの遺構から北へ延びるKS-924溝跡付近でも磁器の出土が多い傾向が認められる。今回の調査では、肥前磁器は青磁染付の碗類が多く、青磁中皿や染付長皿が目を引く。昨年度の調査で多かった仏飯器や白磁碗等は少ない。瀬戸美濃の磁器類は少ないがKS-822礎石跡（１号建物跡）からは端反碗の蓋が出土している。中国産は蛇の目高台の青花皿が１点出土した。

(2)陶器（第９表）

陶器は485点出土した。出土分布は磁器と同じ傾向がみられる。産地別では大堀相馬239点、小野相馬26点、京・信楽15点、肥前陶器52点、美濃15点、岸窯３点、備前12点、堤40点、産地不明（在地か）18点、産地不明40点である。中国産は出土していない。１区では、KS-824礎石跡（２号建物跡）の京焼と見られる色絵金彩皿が注目され、昨年同様、大堀相馬の碗や小坏の出土が目立っている。また、３区では、17世紀代の備前焼大甕の口縁部が出土し（第27図６）、口径が約80cmの非常に大きな甕の存在が明確となった。おそらくは、酒造りにかかわる大甕と考えられる。

(3)土師質土器（第９表）

土師質土器は、109点出土した。皿類が多く、他にコップ形の焼塩壷が出土している。皿では、底部有孔のものが１点（第28図７）ある。この皿の用途と目的は明らかではない

区	遺構・層位	磁器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土製品	レンガ	計
1	堀きり	9	5	1				15
	側溝	3						3
	I	125	127	25	5			283
	II		2					2
	II（南西部）	10	26	9				45
	II（段切）	8	25	6		1		40
	IId	2	4					6
	III	5	3	2	2			12
	III上面	47	48	20	3			118
	III上面（炉敷部）	1						1
	III上面か							
	カクラン埋土	15	17	2	2	1		37
	埋め戻し土（21次）	6	2	1				9
	黒色土、埋土							
	表採	5	1					6
	埋土							
	KS-0603埋土							1
	KS-0604埋土	11	19	6				36
	KS-0604埋土							
	KS-0638埋土		1					1
	KS-0642埋土	1						1
	KS-0642埋土	1						1
	KS-0661埋土		3		1			4
	KS-0681礎石		13	1				14
	KS-0681埋土	12		1	1			14
	KS-0812埋土	1	1					2
	KS-0822埋土	2		1				3
	KS-0824埋土		1					1
	KS-0826埋土	1						1
	KS-0827埋土		2					2
	KS-0843埋土	2	1	1	2			6
	KS-0847埋土	1						1
	KS-0848埋土		2					2
	KS-0851埋土	1						2
	KS-0863埋土							1
	KS-0864埋土							1
	KS-0866底	1						1
	KS-0871埋土	6	5	1	1			13
	KS-0875埋土			1				1
	KS-0877埋土	3	7					10
	KS-0880底							1
	KS-0890埋土	2	4					6
	KS-0894埋土	3	2					5
	KS-0911埋土		2					2
	KS-0913埋土	1						1
	KS-0913底		6					6
	KS-0917検出面	16	24	8	1			49
	KS-0917埋土	3	15	2	1			21
	KS-0924埋土	28	47	14	3			92
	KS-0925埋土2							1
	KS-0925埋土下部	3	3					6
	KS-0928雲母台土	1						1
	KS-0928埋土	4	7	1				12
	KS-0936埋土	4	14	1				19
	KS-0948埋土	1		1				2
	KS-0954埋土	8	8					16
	KS-0955埋土							1
	KS-0955底	1						1
	KS-0957埋土	6	10	1			1	18
	KS-0977埋土				1			1
	KS-0983埋土	2	3					5
	KS-0984埋土		3					3
	KS-0985掘り方上面	1	2					3
	KS-0985埋土	1						2
	KS-0987埋土	1						2
	KS-0992埋土							
	KS-0994埋土	1						
	KS-0997埋土							
	KS-0998埋土	3						3
	1区小計	370	475	106	23	3	2	979
2	I	1	2					3
	III上面	1			1			2
	カクラン坑埋土							1
	表採	2						2
	2区小計	4	2	1	1			8
3	I	28	4					32
	III（上段）	1	4	2	1			8
	表採	1						1
	3区小計	30	8	2	1			41
計		404	485	109	25	3	2	1028

第９表　第26次調査出土陶磁器他数量表

が、ろうそく立ての可能性も考えられる。皿類には、底部糸切り痕の中心が底部のほぼ中央にあるものが見られる。こうした特徴の皿は、造酒屋敷跡では初めての出土である。

⑷瓦質土器（第９表）

瓦質土器は25点出土した。用途の明らかでないものが多いが、鉢類が多い。このうち、種類・用途の明らかなものは、蚊遣りと考えられる底部と蓋の破片が合わせて２点（第28図18・19）、火鉢１点（第28図17）がある。

⑸土製品（第９表）

土製品は３点出土した。内訳は、土鈴１点（KS－924）、土人形および土人形の可能性のある破片が北西部Ⅱ層・北東張出し部攪乱層よりそれぞれ１点ずつ出土している。

⑹レンガ（第９表）

レンガは２点出土した。KS-957溝跡からは、ほぼ完形のもので、カタカナで「ヲ」の刻印のあるレンガが出土している（第32図６）。レンガは昨年検出した鍛冶工房跡でも出土しており、近代の所産である。

⑺瓦（第10表）

瓦は総数2432点出土し、そのうち丸瓦が522点、平瓦が1689点と、全体の約91％を占める。瓦はⅠ区北西部段切遺構の西側基本層のⅠ層で多く出土している。その他は、集中傾向はなく、Ⅰ区のⅢ層も含めて基本層や遺構内から出土している。Ⅰ区では礎石建物跡が検出されているが、出土瓦がこれらの建物に葺かれていたかは不明である。丸瓦・平瓦以外では、軒丸瓦、軒平瓦、桟瓦、面戸瓦、掛瓦（二の平瓦）、塀瓦、など多くの種類の瓦が出土している。今回の調査では、これまでの調査では出土しなかった鯱瓦、鬼瓦が出土し、注目された。

①軒丸瓦　29点出土した。瓦当文様の判別可能なものは23点である。九曜文は２点、三巴文（左巻き）は15点、珠文三巴文（左巻き・不明）は５点、三引両文は１点である。

②軒平瓦　15点出土した。瓦当文様の判別可能なものは10点である。花菱文は２点（第30図３）、菊花文は２点（第30図12）、桔梗文は３点（第30図11）、梅文は１点（第29図４）である。他に、子葉の唐草文のみ確認できるものが２点である。

③軒桟瓦　２点出土した。瓦当文様はいずれも巴文である（第31図17）。

④棟瓦　主に棟に使用される瓦を棟瓦と総称する。31点出土した。内訳は冠伏間瓦５点、角桟伏間瓦１点、熨斗瓦５点、輪違い６点、面戸瓦14点である。

⑤飾り瓦　４点出土した。内訳は鬼瓦１点（第29図７）、鯱瓦１点（第30図14）、掛瓦（二の平瓦）２点（第30図９・10）である。鬼瓦は主文は不明で、周囲の珠文？がみられる。鯱瓦は右側に窓のように穴が開いており、ヒレなどの差込口である可能性が考えられる。掛瓦の一種である二の平瓦は、突起状の水返しが縦位置に付き、１点は釘穴がみられる。

⑥駒瓦　８点出土した。いずれも駒巴瓦である。

⑦塀瓦　69点出土した。内訳は、塀瓦31点、塀瓦（水切）11点、桟付平板４点、駒付平板23点である。

⑧その他　５点出土した。内訳は、谷瓦の可能性があるもの２点、不明のもの３点である。谷瓦のうち、第29図15は上端右角部は屈曲がみられ、何かが剥がれたような特徴がみられる。さらに、釘穴より大きいと思われる穴が２ヶ所認められる。

⑨刻印・線刻　この他に、刻印・線刻３点ずつ、計６点が確認された（第31図21～26）。刻印は、丸に含・丸に一がある。線刻は、条線のもの・「ヒ」の字状のもの・三角形（３個連なる）のものがある。

区	層位	丸瓦	平瓦	軒丸瓦	軒平瓦	軒桟	桟瓦	[illegible]	[illegible]	熨斗	輪違	面戸	鬼瓦	鯱瓦	拝み瓦	隅巴	塀瓦	半瓦(丸)	[illegible]	桟付平瓦	軒付平瓦	不明	計
1	堀きり	9	39	2			1				1	1						1			1		55
	側溝	4	19								1										3		27
	I	87	275	3	3	1	10	2			1	2				1	8		1	3	8	1	404
	II																						0
	II（南西区）	6	13	2	1		1										1	3			2		29
	II（段切）	24	74	1	1		3				1	2			2	4	4				2		118
	IId	7	20																		1		28
	III	43	145	2														11		1			202
	III上面	57	157	2	3		1					1					3				1		225
	III上面（砂礫部）													1									1
	I（表土掘り出し部）		12															10					22
	カクラン埋土	55	85	2			3					1				3	4	3	1			1	158
	表採	32	113							1									2				148
	埋め戻し土（21次）		14																			1	15
	KS-0604埋土	8	15														1						24
	KS-0661埋土	3	5														2						10
	KS-0661掘り方	3	12																				15
	KS-0681埋土	38	125	3	1		4	1			1	1						1	1		2		178
	KS-0807埋土	3	8																				11
	KS-0823埋土		1																				1
	KS-0835掘り方埋土	1	12																				13
	KS-0843埋土	5	34				1	1															41
	KS-0848埋土		1																				1
	KS-0851埋土	1																					1
	KS-0864埋土				1																		1
	KS-0871埋土	14	32	1								1											48
	KS-0873埋土	3	8		1					1													13
	KS-0875埋土	16	64								1		1										82
	KS-0877埋土	11	57	1	1												1						71
	KS-0890埋土	1	7																	1			9
	KS-0894埋土		6															1					7
	KS-0901埋土	1	5																				6
	KS-0903埋土			1																			1
	KS-0907検出面	12	36		1														5				54
	KS-0907埋土	1	13	1																			15
	KS-0924埋土	16	82	3						1												1	103
	KS-0925埋土下部	1	4																				5
	KS-0928埋土	11	42														5						58
	KS-0928底面		1																				1
	KS-0936埋土	2	21	1			2		1									1				1	30
	KS-0954埋土	10	15	1																			26
	KS-0957埋土	4	38									1					1				1		45
	KS-0974埋土	2	2																				4
	KS-0976埋土	1	1							1													3
	KS-0977埋土																				1		1
	KS-0984埋土		3																				3
	KS-0985埋土																		1				1
	1区小計	489	1614	26	14	1	27	5	1	4	6	10	1	1	2	8	30	31	11	5	22	5	2313
2	側溝	1	2														1						4
	I	13	14																				27
	III上面	1	10		1																		12
	カクラン坑埋土	1	2																				3
	青色砂	1	1																				2
	表採											1											1
	KS-1004埋土		4																				4
	2区小計	17	35		1							1					1						55
3	I	8	13	1		1						2											25
	I（下段）		8																				8
	III（上段）	8	21	2						1		1											33
	3区小計	16	42	3		1				1		3											66
計		522	1689	29	15	2	27	5	1	5	6	14	1	1	2	8	31	31	11	5	22	5	2432

第10表　第26次調査出土瓦数量表

(8)金属製品（第11表）

金属製品は、総数70点出土した。内訳は、ボタン1点、煙管7点、刀装具3点、弾丸1点、銅鏡（柄鏡）1点、鉄金具3点、銅金具1点、古銭22点（第34図・写真図版23）、鉄釘10点、鉄製鋏1点、針金2点、毛抜き1点、その他17点である。ボタンや弾丸は近代以降のものである（第33図17）。刀装具には小柄・小柄櫃・切羽がある。鉄製鋏としたものは握り部分が大きく屈曲するいわゆる花鋏・木鋏などと呼ばれているものである。煙管・柄鏡・鋏・毛抜きは生活の様子を示すものであり、刀装具は帯刀を許されていたことを示すものと考えられる。また、古銭の中には、煙管の火皿を潰した雁首銭2点（第34図5）、中国銭が2点含まれている（第34図9・13）。

区	層位	ボタン	煙管	刀装具	弾丸	銅鏡	鉄金具	銅金具	古銭	鉄釘	鋏	針金	毛抜き	その他鉄製品	その他銅製品	不明	計
1	I			1		1	1			1				3	1	2	10
	II		1				1			1						1	4
	II（南西部）								1								1
	II（段切）		1						1								2
	III		1							1							2
	III上面		2	1					6							1	10
	カクラン埋土	1					1		1			1					4
	攪乱								1								1
	KS-0604埋土									1							1
	KS-0681埋土											1			1		2
	KS-0622埋土									1							1
	KS-0643埋土									1						1	2
	KS-0871埋土								1								1
	KS-0877埋土		1														1
	KS-0917埋土								1					1		1	3
	KS-0924埋土		1						8	2			1	1		1	14
	KS-0925埋土								1								1
	KS-0928埋土			1											1		2
	KS-0936埋土								1		1						2
	KS-0954埋土				1												1
	1区小計	1	7	3	1	1	3		22	8	1	2	1	5	3	7	65
3	I							1						1			
	II									2				1			3
	3区小計							1		2				2			5
計		1	7	3	1	1	3	1	22	10	1	2	1	7	3	7	70

第11表　第26次調査出土金属製品数量表

⑼石製品（第12表）

石製品は、総数14点出土した。内訳は、火打石２点、硯３点、碁石（黒石）２点、砥石３点、その他４点である。碁石はこれまでの造酒屋敷跡の調査の中で今回初めて出土した（第32図１・２）。第32図５の硯は、裏面に文字のような線刻がみられる（写真図版24－202）。

区	遺構・層位	火打石	硯	碁石（黒）	砥石	その他（石器類を含む）	計
1	I	1	1			1	3
	II						0
	III上面		1	1			2
	カクラン埋土				1	1	2
	埋め戻し土(21次)						0
	KS-0604埋土						0
	KS-0681埋土	1					1
	KS-0875埋土			1	1		2
	KS-0917検出面						0
	KS-0924埋土					2	2
	KS-0925埋土下部				1		1
	KS-0936埋土		1				1
	KS-0954埋土						0
	KS-0983埋土						0
	1区小計	2	3	2	3	4	14
計		2	3	2	3	4	14

第12表　第26次調査出土石製品数量表

⑽木製品・漆器（第13表）

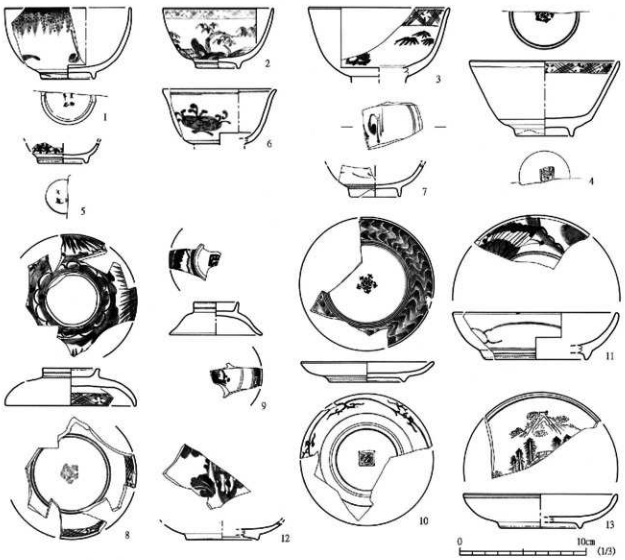
木製品・漆器は、総数40点出土した。内訳は、木製品26点、竹材・竹製品７点、漆器４点、皮革など３点である。木製品には杭が１点（第35図12）、竹製品には竹ベラ２点（第35図３・４）がある。ほかはいずれも小型のものが多く、用途等について不明のものである。漆器は椀の破片（写真図版25－212）で、全体を知りうるものはない。

⑾その他（第13表）

べっ甲製品の可能性のあるかんざしが１点（第33図19）、ガラス製品（近・現代）35点が出土した。

区	遺構・層位	木製品	竹製品	漆器	皮など	ガラス	べっ甲か	計
1	I					15		16
	II					1		1
	II（南西部）							0
	II（段切）	11						11
	III上面				1	2		3
	カクラン埋土					2		2
	埋め戻し土(21次)					1		1
	KS-0604埋土	1				2	1	4
	KS-0681埋土			1		2		3
	KS-0894底	1						1
	KS-0894埋土			2				2
	KS-0917検出面					1		1
	KS-0928埋土				1			1
	KS-0936埋土					2		2
	KS-0954埋土					3		3
	KS-0983埋土					1		1
	1区小計	13	0	3	2	33	1	52
2	I					1		1
	III上面	3	2	1	1			7
	カクラン流埋土	8						8
	KS-1004埋土	1	5					6
	KS-1004底	1						1
	現代溝埋土					1		1
	2区小計	13	7	1	1	2	0	24
計		26	7	4	3	35	1	76

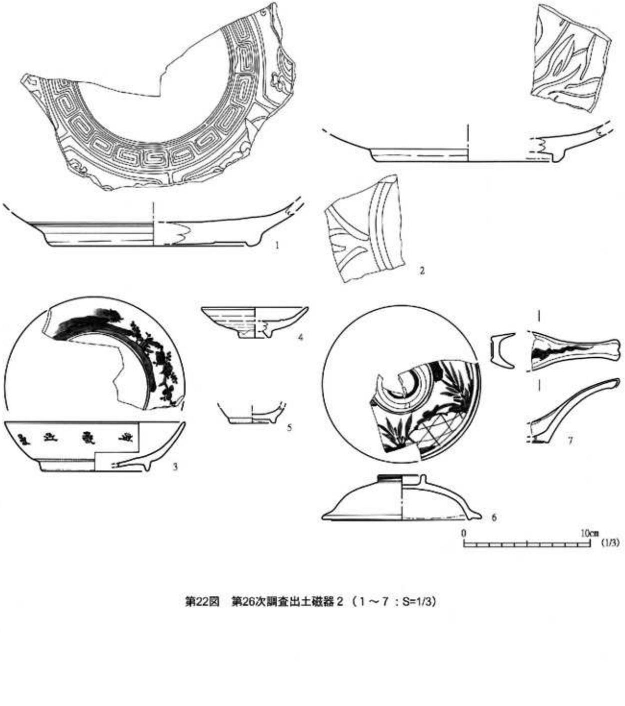
第13表　第26次調査出土木製品他数量表



第21図　第26次調査出土磁器１（１～13：S=1/3）

図	遺物番号	区	遺構・層位	生産地	種類	器種	製作年代	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	文様等	備考	写真
1	88	1	KS-604・埋土	肥前	染付	碗	17c末～18c前半	(100)	(42)	57	雨降文　口銹　高台内「大明年製」銘		1
2	84	1	KS-604・埋土	肥前	染付	碗	18c後	(88)	36	48	家屋＋樹木　草花文　畳付無釉	水利遺構内ピットから一分金と一緒に出土した 21次No.119（2区KS-635埋土）と接合	2
3	74	1	KS-641・埋土	肥前	青磁染付	碗	18c後	(112)	－	(50)	内面四方襷文・松竹梅文か	蓋付か　21次No.11（2区中央部No.1）と接合	3
4	1167	1	KS-985・掘り方上面	肥前	青磁染付	碗	18c中 (1740～1770)	(119)	(46)	60	輪花形　内面四方襷文　見込五弁花（手描き） 高台内二重枠銘あり「富江」　腰部に沈線あり	No.558と同一か	5
5	1163	1	KS-924・埋土	肥前	染付	小坏	17c後か	－	(40)	(16)	高台内「□明年製」銘　畳付無釉		6
6	75	1	KS-998・埋土	瀬戸美濃	染付	端反碗	19c前～中	(90)	－	(44)	花弁は線描		10
7	222	1	KS-957・埋土	瀬戸美濃	染付	碗（湯呑）	19c前～中	－	(40)	(26)	仙芝寿祝文か　見込に文様		21
8	1052	1	KS-917・検出面	肥前	染付	蓋付碗（蓋）	18c後	(104)	つまみ径 44	30	内面見込五弁花（コンニャク印判）四方襷文	21次No.518（2区北部表土）他と接合　仙台城9でも報告	12
9	124	1	KS-983・埋土	瀬戸美濃	染付	蓋付碗（蓋）	19c前～中	(74)	つまみ径 (36)	26	高台内銘あり　文様詳細不明　畳付のみ露胎		22
10	83	1	KS-604・埋土	肥前	染付	皿	17c末～18c前	(105)	(60)	16	捻文　四重圏線　見込み手描き五弁花　口銹 高台内二重枠角「福」銘　裏蔓草文	1341（KS-604埋土）・21次No.117（2区北部仮P42埋土）他と接合　21次No.63と同類	13
11	93	1	KS-913・埋土	肥前	染付	皿	18c	(132)	(82)	38	高台内に圏線が見られる　畳付無釉	漆継ぎ	7
12	703	1	KS-681・埋土	中国	青花	皿	16c末～17c前	－	(56)	(15)	野鳥文　蛇ノ目高台　高台露胎	23次No.455（1区南東部Ⅱ層段切造成内）と接合	4
13	932	1	KS-917・検出面	地方窯	染付	皿	19c後～20c初か	(122)	(64)	27	銅版転写　東屋山水文　内面の圏線は手描き		8

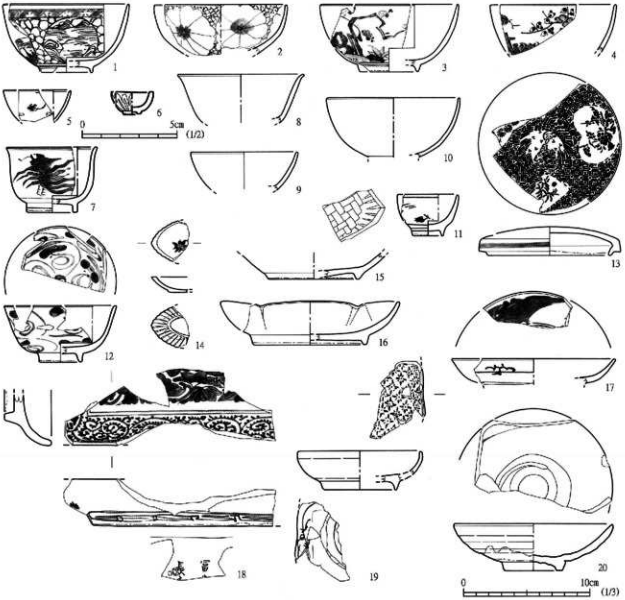
第14表　第26次調査出土磁器１観察表



第22図　第26次調査出土磁器２（１～７：S=1/3）

図	遺物番号	区	遺構・層位	生産地	種類	器種	製作年代	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	文様等	備考	写真
1	26	1	KS-985・埋土	肥前	青磁	中皿	17c後	—	(168)	(35)	雷文　芙蓉手文　高台内蛇ノ目釉ハギ　鉄銹　畳付も施釉	No.38・39・581（Ⅲ層上面）と接合　No.1472と同一か	15
2	562	1	KS-928・埋土	肥前	青磁	中皿	17c後	—	(145)	(29)	草文　文様は片切り彫り　高台内蛇ノ目釉ハギ・鉄銹　畳付も施釉		16
3	16	1	KS-948・埋土	肥前	染付	皿	18c後～19c前	(144)	(86)	39	花樹文　裏文様変形字銘　畳付露胎　高台内二重圏線	No.936（Ⅰ区Ⅰ層）と接合	14
4	192	1	KS-871・埋土	肥前	染付か	皿か	17c後～18c前	(84)	(24)	24	見込蛇ノ目釉ハギ　高台露胎　文様は確認できない		11
5	1130	1	KS-917・埋土	肥前	染付か	紅皿	江戸時代	—	(36)	(14)	畳付無釉　内面無釉	小型品	27
6	1177	1	KS-934・埋土	肥前	染付	蓋物（蓋）	18cか	(126)	つまみ径 (38)	36	草文・雪輪文　鈕は高台形　受け部露胎	No.927（Ⅰ区Ⅰ層）・23次No.224（Ⅰ区南西部Ⅱ層）と接合　No.185・857が似ている　仙台城IIでも報告	17
7	1192	1	KS-954・埋土	肥前	染付	散蓮華	19c前～中	—	(13)	51	型押し成形か　底部砂付着	持ち手部分　第23次No.623（Ⅰ区東段切遺構Ⅰ層）と接合	9

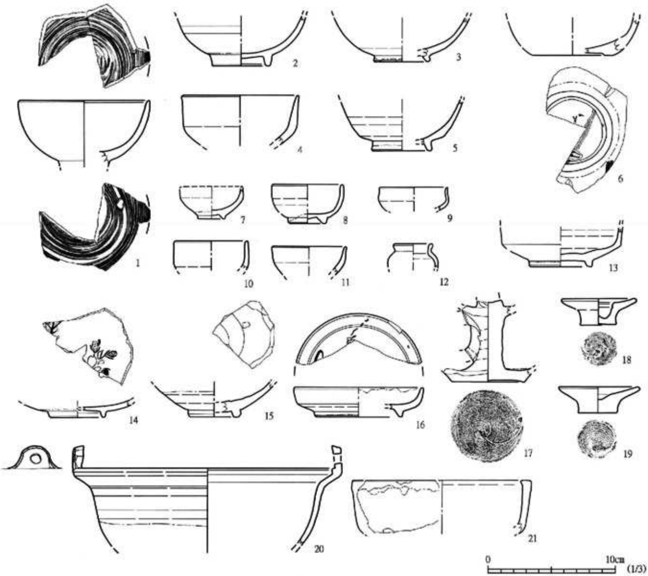
第15表　第26次調査出土磁器２観察表



第23図　第26次調査出土磁器３（１～５、７～20：S=1/3　６：S=1/2）

図	遺物番号	区	遺構・層位	生産地	種類	器種	製作年代	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	文様等	備考	写真
1	681	1	I	肥前 (伊万里)	染付	碗	18c中～後	(100)	(42)	54	丸文＋小円文　四方襷文　畳付露胎	No.725（1区Ⅰ層）と接合	23
2	784	1	I	肥前	染付	碗	18c	(106)	－	(39)	菊花文氷裂文	21次No.310ほかと接合	24
3	854	1	I	肥前	染付	碗	18c前	(110)	(46)	54	梅樹文（岩に梅か）	No.865と接合　No.154と類似	25
4	999	1	I	肥前	染付	碗	18c	(100)	－	(38)	松竹梅文か（松・梅・垣根か）		29
5	763	1	I	肥前	色絵	小坏	18c	(54)	－	(24)	桜花文　赤色に色調の差あり		19
6	1503	1	I	肥前	白磁	紅皿	18c前か	(22)	(8)	12	外面型押し成形　畳付露胎		18
7	29	1	Ⅱ	瀬戸美濃	染付	筒形湯呑	19c前～中	(72)	(40)	52	鳳凰文（中国風か）		30
8	1347	1	Ⅱ（黒色土）	瀬戸美濃	白磁か	端反碗	19c前～中	(100)	－	(39)	文様有無不明		28
9	232	1	Ⅱ（埋土）	肥前	白磁	碗	18cか	(86)	－	(30)			39
10	684	1	埋戻土（21次）	肥前	白磁か	碗	18cか	(106)	－	(47)	口銹あり	21次No.80ほかと接合	40
11	1473	1	－	肥前	染付	小坏	17c	(48)	(24)	33	畳付のみ無釉		20
12	236	1	カクラン埋土	瀬戸美濃	染付	端反碗	19c前～中	(88)	(34)	45	仙芝祝寿文　口紅	釉上があまりガラス質でない　23次No.526ほかと接合	26
13	724	1	I	産地不明	染付	蓋物	19c後	(112)	－	23	松竹梅文（窓絵）　鶴亀文（丸文）　七宝つなぎ文　口縁部無釉	No.779と接合	33
14	764	1	I	肥前	染付	紅皿	18c	－	－	12	見込花文か　型押　外底無釉		37
15	916	1	I	肥前	青磁	皿	17c後か	－	(74)	(21)	圏代文　型打成形　畳付露胎砂粒	以前の調査で類似品あり	36
16	1321	1	Ⅱ（埋土）	肥前	青磁	輪花皿	17c後	(142)	(90)	35	ハリ支え（目跡1ヶ）　畳付のみ露胎		38
17	685	1	埋戻土（21次）	肥前	染付	皿	17c後～18c初	(130)	－	(19)		21次No.481と接合　No.86と類似	42
18	1144	1	表採	肥前	染付	段皿	18c前	－	－	37	内面唐草文・草花文　外面文か　高台内「富貴長春」銘か　目跡1ヶあり	No.1204と類似　21次No.258ほかと接合　仙台城9でも報告	32
19	551	1	Ⅱ	肥前	染付	角皿	17c末～18c中	(100)	(78)	31	型紙摺り　十字花文か　口銹	No.552・23次No.304（2区）と接合	41
20	1489	1	表採	肥前	染付	皿	17c後～18c前	(126)	(46)	37	見込蛇ノ目釉ハギ　高台・畳付露胎		31

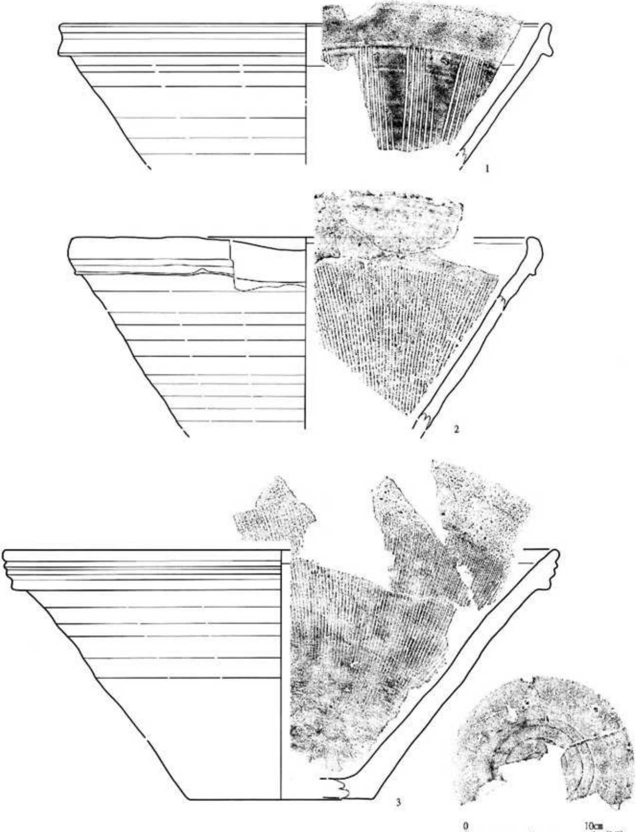
第16表　第26次調査出土磁器３観察表



第24図　第26次調査出土陶器１（１～21：S=1/3）

図	遺物番号	区	遺構・層位	生産地	器種	製作年代	口径	底径	器高	釉薬・文様等	備考	写真
							(mm)	(mm)	(mm)			
1	56	1	KS-604・埋土	肥前	碗	17c後	(102)	－	(53)	刷毛目文　胎土灰黒色	No.817（1区南東部Ⅰ層）・21次No.271（1区北部Ⅲ層）他と接合	43
2	3	1	KS-851・埋土	小野相馬	碗	18c	－	(46)	(40)	淡青色釉		44
3	1122	1	KS-913・埋土	大堀相馬	碗	18c	－	(44)	(35)	灰釉　高台内露胎		55
4	137	1	KS-925・埋土2	大堀相馬	腰折碗	18c	92	－	(40)	灰釉		46
5	1133	1	KS-890・埋土	大堀相馬	稜碗	18c後か	－	(46)	(40)	灰釉（[illegible]）　高台内露胎		51
6	614	1	KS-848・埋土	京信楽	香炉	18c	－	(64)	(30)	色絵（青）　高台内に墨書文字　漆継ぎ　胎土灰黄色	No.652・23次No.171（1区南中央部Ⅱ層）と接合　No.708と同一個体の可能性あり	49
7	1363	1	KS-877・埋土	大堀相馬	小坏	18c後半以降	(50)	(22)	(26)	白濁釉		54
8	1080	1	KS-917・検出面	大堀相馬	小坏	18c後半以降	(56)	28	31	灰釉　高台内露胎	21次No.263（1区2号溝Ⅰ層）と接合	53
9	243	1	KS-917・検出面	大堀相馬	小坏又は仏飯器	18c後半以降	(54)	－	(36)	灰釉		56
10	1065	1	KS-917・検出面	大堀相馬	小坏	18c後半以降	(56)	－	(23)	白濁釉		48
11	129	1	KS-917・埋土	大堀相馬	小坏	18c後半以降	(58)	－	(23)	白濁釉		52
12	1330	1	KS-604・埋土	在地	豆甕	19c前	(30)	－	(19)	鉛釉　堤焼か		45
13	127	1	KS-911・埋土	大堀相馬	[illegible]	19c前	(96)	50	(32)	白濁釉（青い乳白色）　内面に[illegible]あり　高台内露胎	No.573（1区[illegible]調査Ⅲ層上面）と接合	47
14	95	1	KS-824・埋土	京信楽	皿	18c	－	(44)	(13)	色絵金彩草花文皿　青色金色　胎土浅黄橙色　高台内の中心に円形のくぼみ　釉の縁に緋色が出ている	No.803（1区北西部Ⅰ層）・1523（1区北東部Ⅲ層上面）と接合	50
15	1362	1	KS-877・埋土	肥前陶器	皿	17c後	－	(42)	(28)	青緑釉　見込蛇ノ目釉ハギ		57
16	535	1	KS-924・埋土	大堀相馬	皿	19c前	100	(60)	24	鉄絵　見込目跡　沈線1条　高台内露胎	No.601と接合	59
17	1054	1	KS-917・検出面	堤	急須	19c前～中	－	58	(65)	鉄釉　糸切り底　回転方向右　把手欠損　蓋受け有		60
18	567	1	KS-928・埋土	堤	燈台	19c前～中	58	28	21	鉛釉（盃台か）　糸切り底　回転方向左		62
19	1136	1	KS-661・埋土	堤	燈台	19c前～中	62	31	21	鉛釉（盃台か）　胎土砂粒多し　糸切り底　回転方向右		61
20	1169	1	KS-957・埋土	大堀相馬	鍋	19c前～中	210	－	(62)	鉄釉　把手有	No.42（1区Ⅱ層）と接合　No.920と同一個体の可能性あり	64
21	1268	1	KS-681・埋土	在地	鉢	19cか	(140)	－	(42)	鉄釉　口縁部には施釉　胎土砂多し		58

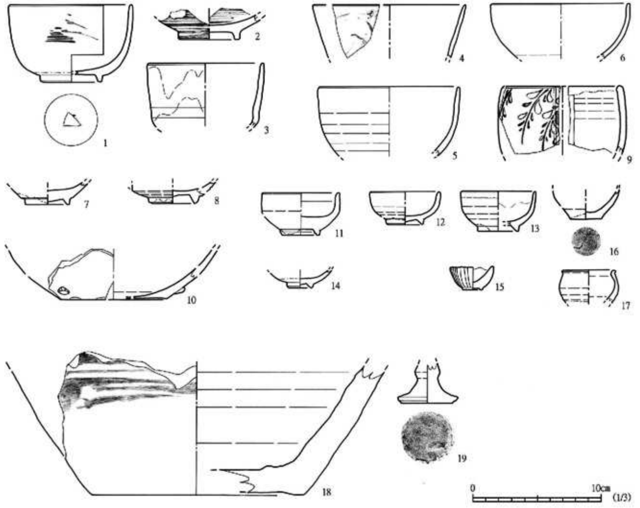
第17表　第26次調査出土陶器１観察表



第25図　第26次調査出土陶器２（１～３：S=1/3）

図	遺物番号	区	遺構・層位	生産地	器種	製作年代	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	調整・文様等	備考	写真
1	104	1	KS-827・埋土	産地不明	擂鉢	18cか	384	–	(112)	鉄釉　隆帯1条　胎土橙色　細砂を含む	No.131（1区南西部Ⅲ層上面）・21次No15（2区北部Ⅲ層上面）と接合	88
2	107	1	KS-936・埋土	堤	擂鉢	19c前～中	(364)	–	(153)	鉄釉	No.997・21次No.475（2区中央Ⅲb層）他と接合	71
3	27	1	KS-985・埋土	堤か	擂鉢	18c～19cか	(434)	(144)	119	鉄釉　隆帯3条　底部無釉　ヘラナデか　胎土赤黒色	No.30・21次No.418（1区南部Ⅲ層）他と接合　仙台城9で報告	74

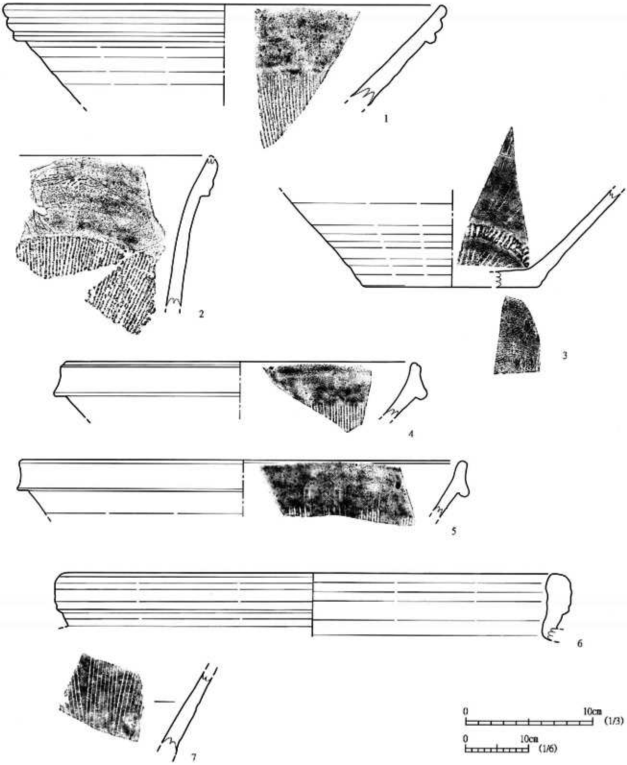
第18表　第26次調査出土陶器２観察表



第26図　第26次調査出土陶器３（１～19：S=1/3）

図	遺物番号	区	遺構・層位	生産地	器種	製作年代	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	釉薬・文様等	備考	写真
1	815	1	I	肥前陶器	碗	17c後～18c初	96	48	62	京焼風陶器　呉須絵丸碗　高台内に銘あり（読めず不明）	No.740（1区南東部I層）・21次No.51（2区中央部III層）他と接合　仙台城9でも報告	63
2	928	1	I	肥前陶器	碗	17c後	－	48	(25)	刷毛目文　胎土灰色　畳付露胎		67
3	929	1	I	大堀相馬	筒形碗	18c後か	92	－	(52)	掛分　外飴釉　内灰釉		65
4	841	1	I	大堀相馬	碗	18c末～19c前	(120)	－	(43)	鉄絵走馬文　灰釉		82
5	580	1	III上面	大堀相馬	碗	18c	(112)	－	(55)	灰釉か　大型で深い	No.943（1区南東部I g層）と接合	66
6	970	1	I	大堀相馬	碗	18c	(108)	－	(44)	灰釉		72
7	208	1	III上面	大堀相馬	碗	18c後	－	(34)	(18)	灰釉　[illegible]形	No.216（1区南東部III層上面）と接合	85
8	834	1	I	美濃	香炉又は火入れ	18c	－	(38)	(17)	鉄釉　一部へこみあり　糸目文　腰位の凹線（丸鑿彫りか）　内面・高台内・畳付露胎		77
9	708	1	I	京焼系	香炉	18c	－	－	(55)	色絵草文　青 緑	No.614・652と同一個体の可能性あり	70
10	920	1	I	大堀相馬	鍋	19c前～中	－	(84)	(40)	鉄釉　内面鉄釉　外面露胎　外面スス付着	No.42・1169と同一個体の可能性あり	68
11	627	1	I	大堀相馬	小坏	18c後半以降	60	30	34	灰釉		75
12	588	1	III上面	大堀相馬	小坏	18c後半以降	(56)	(29)	26.5	灰釉か　発色悪い　高台内露胎		79
13	1312	1	II（埋土）	大堀相馬	小坏	18c後半以降	(58)	(32)	32	灰釉　高台内露胎		83
14	1099	1	I	大堀相馬	小坏	18c後半以降	－	18	(14)	灰釉		80
15	69	1	III	堤	紅皿	19c前か	34	16	19	ミニチュア　飴釉　全面施釉　型押成形　軟質		81
16	806	1	根きり	大堀相馬	土瓶	19c前	－	24	(24)	飴釉　糸切り底　回転方向左　内外施釉		78
17	523	1	カクラン埋土	大堀相馬	土瓶	19c前	(42)	－	(26)	飴釉		84
18	48	1	II（黒色土）	在地	甕	19c前～中	－	165	(130)	刷毛目文　底部外面施釉　外底面焼道具痕2ヶ釉薬ふき取り　内面目跡3ヶ　胎土黒灰色　砂　還元焼か		73
19	646	1	堆積土（21次）	大堀相馬	仏飯器	18c	－	40	(32～)	灰釉　糸切り底　回転方向右		76

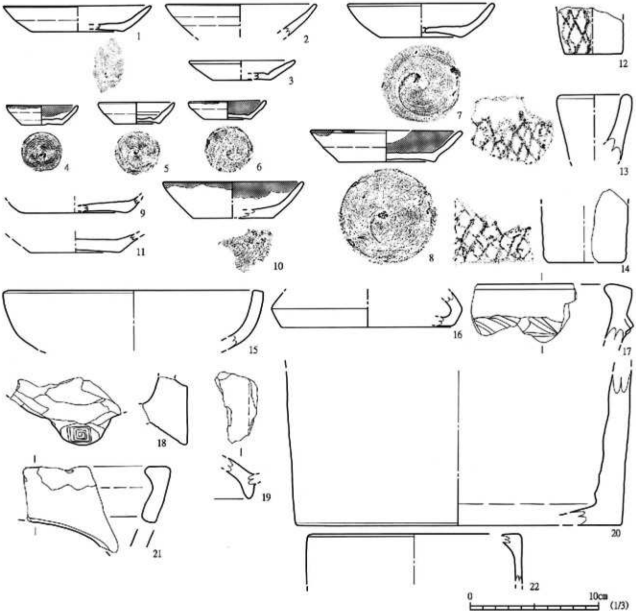
第19表　第26次調査出土陶器３観察表



第27図　第26次調査出土陶器４（１～５、７：S=1/3　６：S=1/6）

図	遺物番号	区	遺構・層位	生産地	器種	製作年代	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	釉薬・文様等	備考	写真
1	1106	1	Ⅱ（黒色土）	堺	擂鉢	19c前～中	346	－	(82)	鉄釉　隆帯2条　胎土黒灰色		89
2	1098	1	Ⅱd	堺	擂鉢	19c	—	—	(118)	鉄釉（片口部）　釉光沢あり　砂多い　胎土赤褐色	23次No.188（1区東部Ⅱ層）と接合　No.1097と同一か	90
3	1318	1	Ⅲ（埋土）	産地不明	擂鉢	18cか	－	(142)	(79)	鉄釉　胎土細砂　外底面施釉　糸切底		87
4	1317	1	Ⅲ（埋土）	産地不明	擂鉢	18cか	274	－	(45)	鉄釉　胎土細砂　褐灰色		96
5	57	1	Ⅲ上面	在地	擂鉢	18cか	352	－	(45)	鉄釉　胎土灰色　砂粒目立たず		69
6	730	3	Ⅲ（上段）	備前	大甕	17c	(813)	－	(103)	内外塗土　胎土灰色　砂粒多し	酒甕か	91
7	1479	3	Ⅰ	丹波	擂鉢	17c前か	—	—	(69)	表面鉄化粧か		86

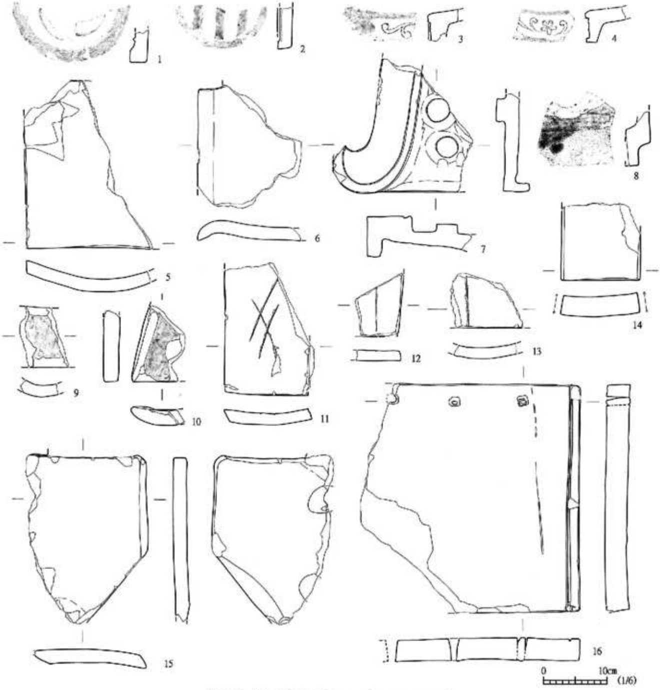
第20表　第26次調査出土陶器４観察表（１～５、７：S=1/3　６：S=1/6）



第28図　第26次調査出土土師質土器・瓦質土器（1～22：S=1/3）

図	遺物番号	種別	器種	区	遺構・層位	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	備考	写真
1	80	土師質土器	皿	1	KS-604・埋土	(111.5)	(70)	20.5	糸切り底　内外面ロクロナデ　回転方向右　胎土砂粒、長石　残存1/4	98
2	1235	土師質土器	皿	1	KS-924・埋土	(116)	－	(25)	内面ヘラナデ　外面ロクロナデ　胎土砂粒	100
3	1234	土師質土器	皿	1	KS-924・埋土	(82)	(46)	16	糸切底　内面ヘラナデ　外面ロクロ　回転方向不明　残存1/3	99
4	631-1	土師質土器	燈明皿	1	I	55	31	15.5	3枚重ねで出土（上）　ロクロナデ　回転糸切り　回転方向右　炭化物付着　胎土砂	101
5	631-2	土師質土器	皿	1	I	60	34	17	3枚重ねで出土（中）　ロクロナデ　回転糸切り　回転方向右　胎土砂	102
6	631-3	土師質土器	燈明皿	1	I	61	36	15.5	3枚重ねで出土（下）　内面ヘラ　外面ロクロナデ　回転糸切り　右回転　炭化物付着　胎土砂	103
7	24	土師質土器	皿	1	II	(116)	(62)	27	有孔　糸切底　内面ヘラナデ　外面ロクロナデ　右回転　残存2/3　胎土砂、長石　孔径5mm	108
8	25	土師質土器	燈明皿	1	II	120	76	25	糸切底　内面ヘラナデ　外面ロクロナデ　回転方向右　残存4/5　胎土長石、砂粒　焼成良	107
9	41	土師質土器	皿	1	II	－	(80)	(13)	内面黒色　糸切底　内面ヘラナデ　外面マメツ（被熱）　残存1/5　焼成やや良	104
10	1275	土師質土器	燈明皿	1	III上面	(110)	(62)	29	内外油煙付着　糸切底　内面ヘラナデ　外面ロクロナデ　残存1/6　胎土砂	105
11	91	土師質土器	皿	1	III	－	70	(17)	糸切底か　内面ヘラナデ　外面マメツ　残存1/2	106
12	602	土師質土器	焼塩壺	1	KS-934・埋土	－	45	(37.5)	斜格子叩き　糸切底か　胎土に白色粒子多量　No168と類似接合せず　コップ形	109
13	168	土師質土器	焼塩壺	1	I	(60)	－	(52)	斜格子叩き　胎土　白色粒子　砂多し　No602と類似接合せず　コップ形	111
14	1518	土師質土器	焼塩壺	1	III上面	－	(58)	(45)	斜格子の叩き目　底部糸切か　コップ形	110
15	1243	瓦質	浅鉢	1	KS-917・埋土	(204)	－	(47)	隅丸方形	115
16	642	瓦質	鉢か	1	KS-661・埋土	－	(134)	(28)	底部隅面取りあり　底面ヘラナデ	112
17	173	瓦質	火鉢	1	KS-934・埋土	－	－	－	刻目のある隆帯	113
18	657	瓦質	蚊遣り	1	III	－	－	－	脚部に雷文刻印　刻印47mm×（35）mm　幅（54）mm　長さ（86）mm	114
19	658	瓦質	蚊遣り（蓋か）	1	III	－	－	(22)	内面と蓋端部油煙付着	116
20	1159	瓦質	鉢	1	III上面	－	256	(123)	内面輪積み痕あり　胎土灰白色、黒灰色粒子含む　底部ヘラナデ	119
21	1398	瓦質	火鉢か	2	III上面	－	－	－	楕円形の窓　江戸時代（時期不明）	117
22	1478	瓦質	鉢	3	III（上段）	(164)	－	(40)	小型	118

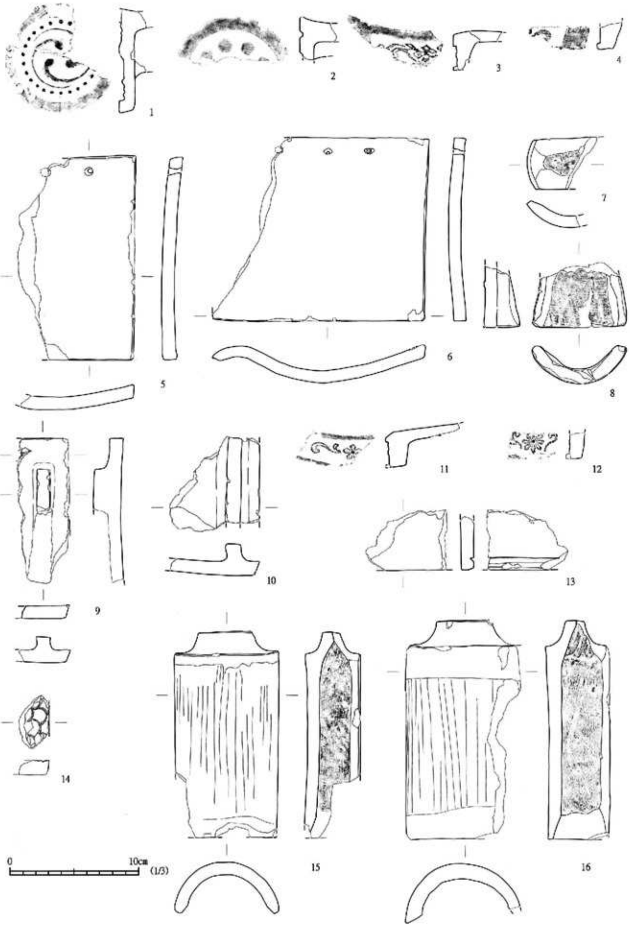
第21表　第26次調査出土土師質土器・瓦質土器観察表



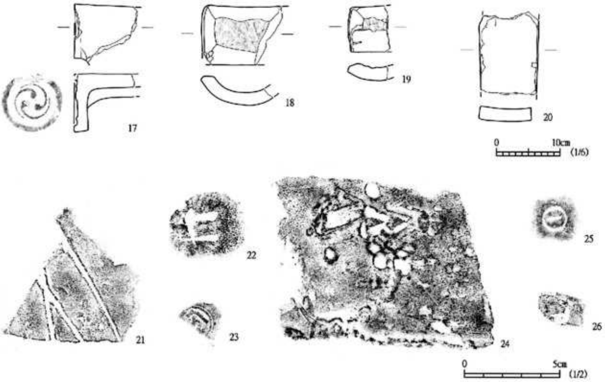
第29図　第26次調査出土瓦１（１～16：S=1/6）

図	遺物番号	種類	区	遺構・層位	文様	法量(mm)	重量(g)	備考	写真
1	1046	軒丸瓦	1	KS-877・埋土	三巴左巻き	瓦当径（173）周縁幅（17）周縁深さ（8）瓦当厚（15）	382	21次No.14（1区Ⅲ層上面）と接合　仙台城9でも報告	120
2	5	軒丸瓦	1	KS-924・埋土	竪三引両文	瓦当径（138）周縁幅（12）周縁深さ（2）瓦当厚22	235		147
3	122	軒平瓦	1	KS-864・埋土	－	瓦当幅（124）長さ（70）厚19 瓦当高さ（21）内区幅（51）内区高さ（27.5）周縁深さ4 脇区幅（左）47	281	唐草文	131
4	1031	軒平瓦	1	KS-917・検出面	梅文	瓦当幅（76）長さ（73）厚（22）瓦当厚17 内区幅（89）内区高さ32 周縁深さ5	268	唐草文	126
5	1449	平瓦	1	KS-822・埋土	－	前幅（195）長さ265 高さ49 厚20	1200	1号建物跡	123
6	1378	丸桟瓦・右	1	KS-936・埋土	－	幅（162）後幅（36）長さ（193）高さ32 厚20 後切り込み幅36	762	砂粒目立つ	130
7	94	飾り瓦・鬼瓦	1	KS-875・埋土	－	幅（200）長さ（250）厚18～41	1720	主文様不明	124
8	1387	角桟伏間瓦	1	KS-936・埋土	－	幅（117）長さ（85）高さ38 厚18 桟幅57 桟厚（15）	374		122
9	1371	面戸瓦	1	KS-871・埋土	－	幅（60）長さ97 高さ（27）厚19	141	布目痕	133
10	1442	輪違い	1	KS-875・埋土	－	前幅（71）長さ（121）高さ（30）厚24	246	布目痕	128
11	1377	熨斗瓦	1	KS-924・埋土	－	幅140 長さ（211）高さ（25）厚18 割線深さ5	752	沈線3条	129
12	1542	熨斗瓦	1	KS-873・埋土	－	幅（70）長さ（101）厚17	134	焼きが甘く表面磨耗　砂少ない　沈線1条	132
13	1386	熨斗瓦	1	KS-976・埋土	－	幅（103）長さ（87）高さ（24）厚18 割線の深さ1.5	192	沈線1条	121
14	106	不明	1	KS-936・埋土	－	幅123 長さ（123）厚32	736	両側面を加工	125
15	1375	不明	1	KS-924・埋土	－	幅（165）長さ（264）厚20	1380	谷瓦か　有孔2ヶあり　上端角に屈曲有	127
16	46	壁瓦	1	KS-985・埋土	－	幅（341）長さ360 厚34 水切り幅5～6 深さ3～4 釘孔（裏側面左から）（15×12）14×17 16×16	5700	釘穴3ヶ（1ヶ所釘残存）水切り有	134

第22表　第26次調査出土瓦１観察表



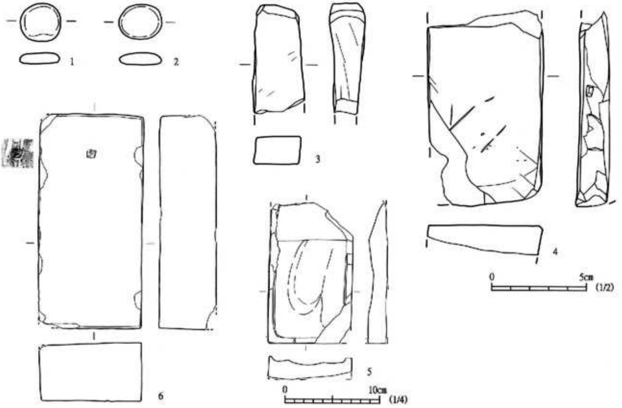
第30図　第26次調査出土瓦２（１～16：S=1/6）



第31図　第26次調査出土瓦３（17～20：S=1/6　21～26：S=1/2）

図	遺物番号	種類	区	遺構・層位	文様	法量（mm）	重量(g)	備考	写真
1	1043	軒丸瓦	1	Ⅰ	珠文三巴左巻き	瓦当径（165）　内区径（123）　周縁幅18　周縁深さ8　瓦当厚23	568	21次No.175（1区ベルト南Ⅲ層）と接合　仙台城9でも報告	135
2	682	軒丸瓦	1	Ⅱ（南西部）	九曜文	瓦当径（68）　周縁幅20　周縁深さ5	467		136
3	636	軒平瓦	1	Ⅰ	花菱文	厚18　内区高さ31　周縁深さ4	395	唐草文	138
4	1443	軒平瓦	1	Ⅱ	－	瓦当厚24　周縁深さ5　脇区（右）38	157	唐草文	148
5	1397	平瓦	1	Ⅰ	－	前幅（130）　後幅（103）　長さ328　高さ40　厚20　孔径13×13	1880	釘穴2個有り	140
6	633	丸桟瓦・右	1	Ⅰ	－	前幅335　長さ297　厚19～20　釘孔（実測図上左から）(7×11)　10×14　9×15	281	釘穴3ヶうち1ヶに釘残存	137
7	1020	面戸瓦	1	Ⅱ（埋土）	－	幅（110）　長さ83　高さ44　厚19	171		141
8	1018	輪違い	1	Ⅱ（埋土）	－	前幅147　長さ（105）　高さ62　厚20	418	コビキ痕	146
9	1037	飾り瓦	1	Ⅱ（埋土）	－	幅（81）　長さ（233）　厚43　突起部幅23　突起部高さ20	586	掛瓦　二の平瓦　水返し　釘穴？有	142
10	1036	飾り瓦	1	Ⅱ（埋土）	－	幅（140）　長さ（135）　厚51　突起部幅25　突起部高さ27	654	掛瓦　二の平瓦　水返し有	149
11	678	軒平瓦	1	Ⅲ上面	桔梗文	長さ（113）　厚18　瓦当厚31　内区高さ36　周縁深さ4	449		139
12	118	軒平瓦	1	Ⅲ上面	菊花文	瓦当厚24　周縁深さ4.5	97	菊花文+唐草文	144
13	1556	平瓦	1	埋戻土（21次）	－	厚22　水切り幅8　水切り深さ6	311	平瓦でよいか要検討	145
14	120	飾瓦	1	Ⅲ上面(砂礫部)	うろこ文様	幅（48）　長さ（85）　厚34	98	鯱瓦	143
15	635	丸瓦	1	Ⅲ	－	前幅（142）　後幅167　長さ331　高さ85　厚20　玉縁幅85　玉縁長さ35	2340	外面ヘラナデ　内面布目痕　表面一部銀化	150
16	634	丸瓦	1	－	－	前幅（110）　後幅（178）　長さ351　高さ106　厚20～25　玉縁先端（80）　玉縁長さ41	2420	外面ヘラナデ　内面布目痕	151
17	632	軒桟瓦	3	Ⅰ	三巴文	瓦当径92　内区径72　周縁幅10　周縁深さ5　瓦当厚22	412	左巻き巴	154
18	1029	面戸瓦	3	Ⅰ	－	幅（124）　長さ96　高さ57　厚21	303	布目痕	152
19	1537	面戸瓦	3	Ⅰ	－	幅（62）　長さ73　高さ28　厚21	123	布目痕	155
20	1445	熨斗瓦	3	Ⅲ（上段）	－	幅94　長さ（132）　厚20	369		153
21	1591	平瓦	1	KS-823・埋土	－	－	－	線刻　沈線3条	156
22	1448	平瓦	1	KS-843・埋土	－	－	－	刻印（カタカナの「ヒ」に似た形）	158
23	1447	角桟瓦・右	1	KS-843・埋土	－	－	－	刻印（二重丸に「會」の字）	159
24	32	平瓦	1	Ⅱ	－	－	－	線刻　三角形3ヶ	157
25	1395	丸瓦	1	Ⅲ上面	－	－	－	刻印（丸に「一」文字）	160
26	1570	平瓦	1	表採	－	－	－	刻印（丸に「一」文字）	161

第23表　第26次調査出土瓦２観察表



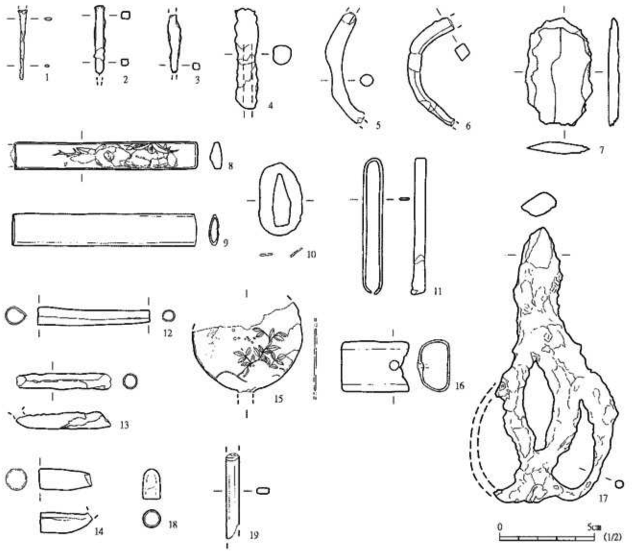
第32図　第26次調査出土石製品（1～4：S=1/2　5：S=1/4）・レンガ（6：S=1/4）

図	遺物番号	種　類	区	遺構・層位	全長 (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	重量（g）	備　考	写真
1	529	碁石（黒）	1	KS-875・埋土	21	20	5.2	4.03	碁石（黒）　表面に加工痕あり	205
2	20	碁石（黒）	1	Ⅲ上面	22.5	19	6.5	4.12	碁石（黒）	204
3	1171	砥石（小型）	1	KS-875・埋土	(55)	25	18	43.63	砥石（小型）	206
4	1206	砥石	1	KS-925・埋土下部	(104)	61	(16)	156.27	砥石　使用面なめらか（仕上砥か）	203
5	49	硯	1	Ⅲ上面	(149)	88	24	430.82	硯　背面に文字か	202

第24表　第26次調査出土石製品観察表

図	遺物番号	種　別	器　種	区	遺構・層位	全長 (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	備　考	写真
6	1118	その他	レンガ	1	KS-957・埋土	226	109	42	刻印あり（四角枠内に「ツ」）	207

第25表　第26次調査出土レンガ観察表



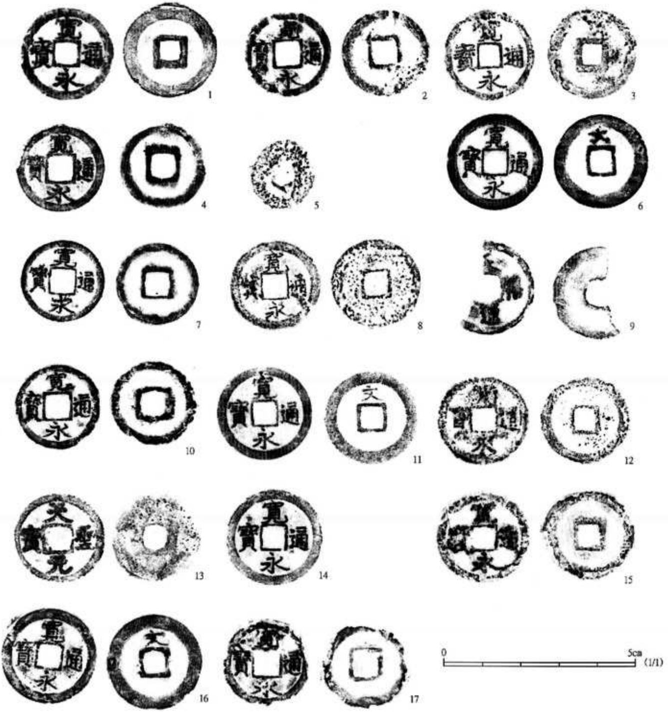
第33図　第26次調査出土金属製品１（１～16：S=1/2）・べっ甲製品（17：S=1/2）

図	遺物番号	種類	区	遺構・層位	法量（mm）	重量(g)	備考	写真
1	1132	不明	1	KS-917・埋土	全長（38）幅（4）厚（2）	0.48	釘状のもの　銅製品	185
2	1343	鉄釘	1	KS-604・埋土	全長（37）幅4　厚5	2.29	両端欠損	183
3	1218	鉄釘	1	KS-924・埋土	全長（31）幅（7）	1.73	両端欠損	190
4	1324	鉄釘	1	KS-843・埋土	全長（53）	10.42		185
5	560	鉄釘	1	KS-822・埋土	全長（63）	8.73	変形　両端欠損	184
6	1199	鉄釘	1	KS-924・埋土	全長（70）	4.47	変形している（ねじれ）　両端欠損	186
7	1131	鉄製品	1	KS-927・埋土	全長（58）幅（34）厚（6）	38.08	鉄片（板状）　用途不明	189
8	19	刀装具	1	Ⅲ上面	全長（99）幅14　厚6	23.77	銅製小柄　草木文様か　刀身欠損　地板（地文）魚々子文様	199
9	1310	刀装具	1	KS-928・埋土	全長17　幅（92）厚5	18.18	小柄鞘　銅製	196
10	628	刀装具	1	Ⅰ	全長59　幅23　厚0.95	2.93	切羽　銅製	200
11	100	毛抜き	1	KS-924・埋土	全長72.5　幅5.3　厚1.3	5.46	銅製	187
12	1320	煙管	1	Ⅱ（整地）	全長59　幅10.5　厚9.5	5.48	吸口　銅製か（表面には緑青はなく、茶色を呈している）	193
13	1143	煙管	1	Ⅲ上面	全長50　厚1　径（9）	3.47	雁首　銅製　火皿欠損　残り悪し　緑青	197
14	543	煙管	1	Ⅲ	全長（28）径10	3.27	雁首　銅製　火皿欠損　緑青	192
15	855	銅鏡	1	Ⅰ	鏡部の推定直径58　厚0.95	7.76	柄鏡　小型　草木（水天）　柄は欠損　銘有り不明	194
16	1426	金具	3	Ⅰ	全長35　幅27　厚1	13.88	銅製金具　鉄錆あり	198
17	105	鋏	1	KS-936・埋土	全長（147）幅（62）にぎり部分径4	95.26	花鋏　鉄製　庭木の剪定や生花などに使用か	195
18	517	弾丸	1	KS-954・埋土	全長17　径9	8.3	鉛　白色サビ　つぶれた所がなく、未使用か　近代	191

第26表　第26次調査出土金属製品１観察表

図	遺物番号	種類	区	遺構・層位	法量（mm）	重量(g)	備考	写真
19	60	かんざし	1	KS-604・埋土	全長（45）幅7　厚3	4.06	べっ甲製か　黄色半透明　表面キズ多し　欠損品	201

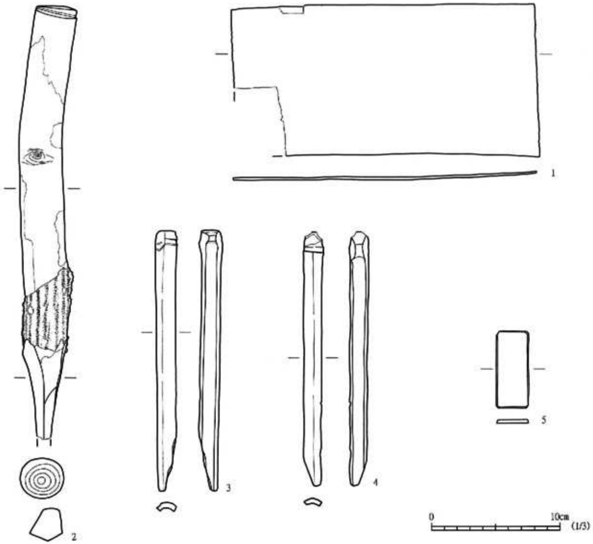
第27表　第26次調査出土べっ甲製品観察表



第34図　第26次調査出土金属製品２（１～17：S=1/1）

図	遺物番号	種類	区	遺構・層位	法量（mm）	重量(g)	備考	写真
1	902	古銭	1	KS-871・埋土	直径24.6　穿径5.3　厚1.13	3.38	寛永通宝（古寛永）	166
2	99	古銭	1	KS-924・埋土	直径（22.7）　穿径6　厚0.73	1.6	寛永通宝（新寛永）	167
3	630	古銭	1	KS-924・埋土	直径23.6　穿径5.2　厚1.09	3.15	寛永通宝（古寛永）	168
4	629	古銭	1	KS-924・埋土	直径22.7　穿径6.5　厚0.76	1.56	寛永通宝（新寛永）	169
5	97	古銭	1	KS-924・埋土	直径18.1　穿径7.2　厚1.22	0.73	無文銭か　摩耗　火熱を損した物	170
6	115	古銭	1	KS-925・埋土	直径（25）　穿径（6）　厚（0.42）	2.52	寛永通宝文銭　寛文8（1668）　背文字「文」	171
7	101	古銭	1	KS-936・埋土	直径21.6　穿径6.4　厚0.46	1.39	寛永通宝（新寛永）	172
8	249	古銭	1	Ⅱ（黒色土）	直径23.6　穿径6.4　厚0.5	1.19	寛永通宝（新寛永）	173
9	254	古銭	1	Ⅱ（埋土）	直径（24.4）　穿径（5）　厚（1.02）	1.27	中国銭　天禧通宝か（天禧年間1017年～）	174
10	680	古銭	1	Ⅲ上面	直径22.2　穿径6.3　厚0.67	1.32	寛永通宝（新寛永）	175
11	47	古銭	1	Ⅲ上面	直径24.8　穿径5.9　厚0.6	2.11	寛永通宝（新寛永）　文銭　寛文8年　背文字「文」	176
12	113	古銭	1	Ⅲ上面	直径23　穿径5.8　厚0.76	2	寛永通宝（新寛永）	177
13	114	古銭	1	Ⅲ上面	直径23.8　穿径6.1　厚1	2.72	中国銭　天聖元宝（真書）　天聖元年（1023年）初鋳　「No.113と重なって出土」	178
14	1463	古銭	1	Ⅲ上面	直径（25）　穿径（6）　厚（0.57）	1.55	寛永通宝　文銭　寛文8年　背文字「文」　採拓後破損	179
15	679	古銭	1	Ⅲ上面	直径23.6　穿径5.4　厚1.08	2.62	寛永通宝（古寛永か）	180
16	903	古銭	1	表採	直径25　穿径5.7　厚0.6	2.4	寛永通宝　文銭　寛文8年（1668年）　背文字「文」	181
17	901	古銭	1	カクラン埋土	直径21.6　穿径6.7　厚0.79	1.48	寛永通宝（新寛永）	182

第28表　第26次調査出土金属製品２観察表



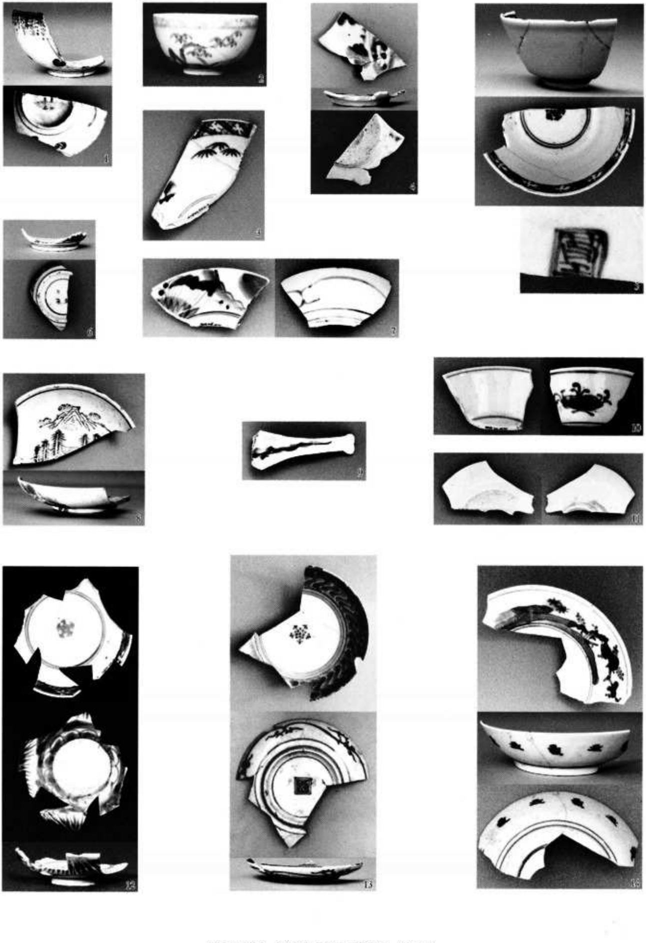
第35図　第26次調査出土木製品（1～4：S=1/3）・皮革製品（5：S= 1/3）

図	遺物番号	種類	区	遺構・層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	径 (mm)	備考	写真
1	1553	折敷か	2	KS-1004・底	236	(120)	2	−	一部欠損	208
2	1552	杭	2	KS-1004・埋土	(343)	33	−	34×32	樹皮残存　先端欠損	209
3	1562	竹ベラ	2	KS-1004・埋土	207	15	4	−		211
4	1559	竹ベラ	2	Ⅲ上面	202	15	4	−		210

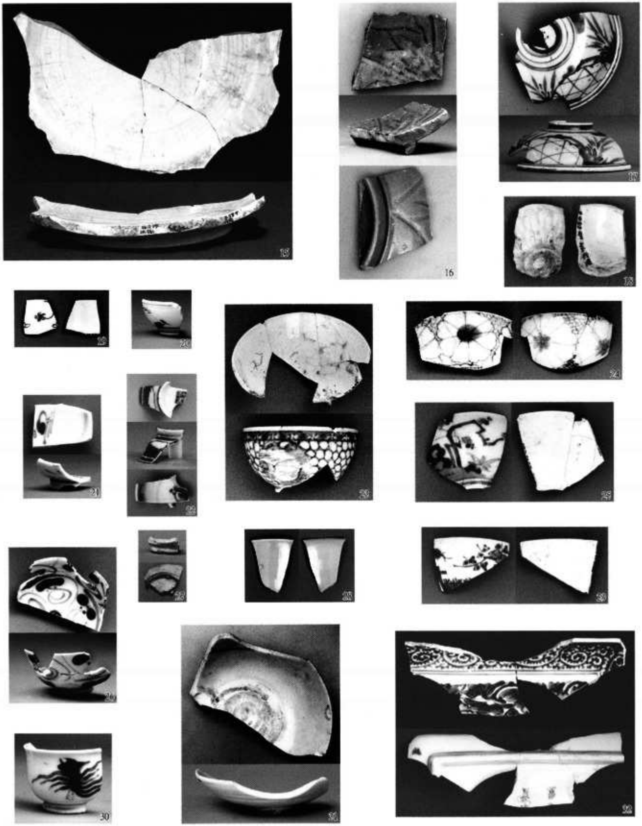
第29表　第26次調査出土木製品観察表

図	遺物番号	種類	区	遺構・層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	径 (mm)	備考	写真
5	11	皮革	2	Ⅲ上面	61	25	3	−	用途不明	213

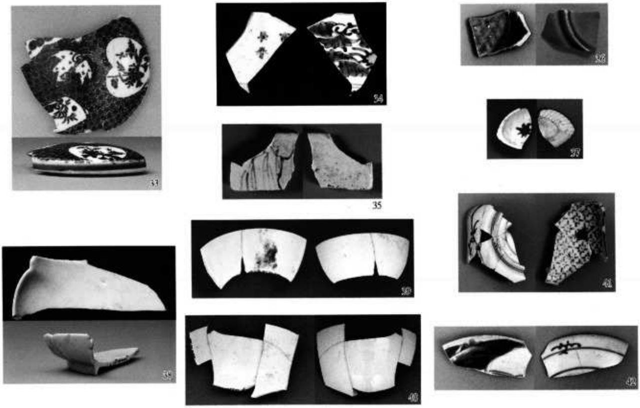
第30表　第26次調査出土皮革製品観察表



写真図版13　第26次調査出土磁器1（S=1/3）



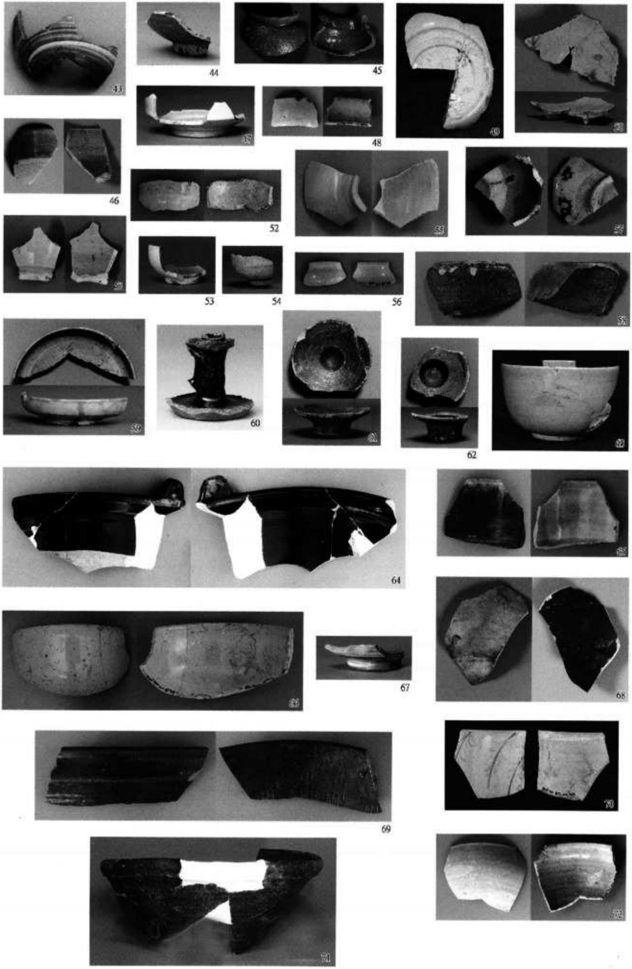
写真図版14　第26次調査出土磁器２（18以外：S=1/3）（18：S=1/1）



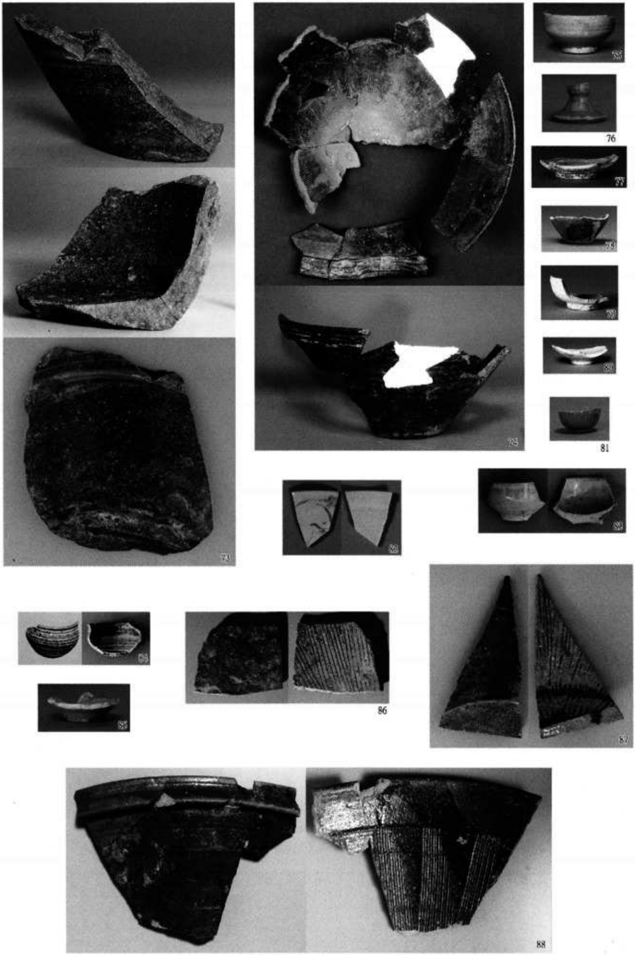
写真図版15　第26次調査出土磁器３（35以外：S=1/3　35：S=1/2）

図	遺物番号	区	遺構・層位	生産地	種類	器種	製作年代	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	文様等	備考
34	1204	1	I	肥前	染付	長皿	18c前	−	−	−	蛸唐草文・草花文　底銘「富貴長春」	No.1144と同個体か
35	670	01	Ⅲ上面か	瀬戸美濃	染付	茶碗	19c前	−	−	−	印文	緑茶碗か

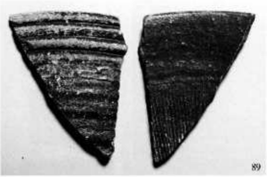
第31表　第26次調査出土磁器観察表

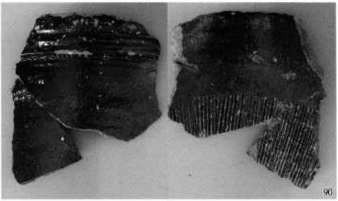


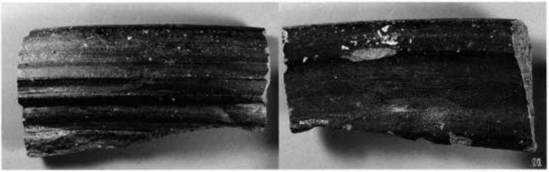
写真図版16　第26次調査出土陶器1（45，71以外：S=1/3　45：S=1/2　71：S=1/6）

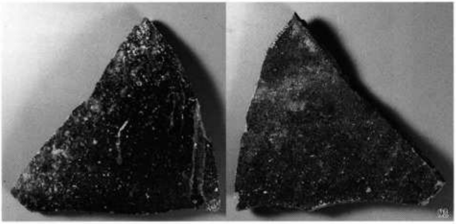


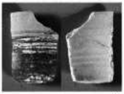
写真図版17　第26次調査出土陶器２（74以外：S=1/3　74：S=1/6）



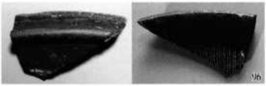








93



写真図版18　第26次調査出土陶器３（95以外：S=1/3　95：S=1/4）

図	遺物番号	区	遺構・層位	生産地	器種	製作年代	口径（mm）	底径（mm）	器高（mm）	釉薬・文様等	備考
92	493	1	カクラン埋土	常滑	甕	近世	－	－	－	自然釉	
93	78	1	KS-604・埋土	瀬戸美濃	碗	18c前半か	－	－	－	腰錆碗	No.73と同一か（接合せず）
94	73	1	II上面	瀬戸美濃	碗	18c前半か	－	－	－	腰錆碗	No.78と同一か（接合せず）
95	626	1	T	備前	大甕	17c	－	－	－	内外塗土	
97	604	1	KS-924・埋土	堤	甕	19c前葉か	－	－	－	鉄釉黒釉流し掛　釉発色悪い	小型

第32表　第26次調査出土陶器観察表

98

99

100

101

102

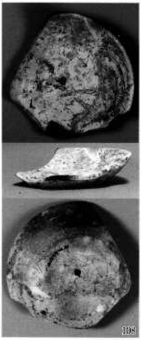
103

104

105

106

107


108

109

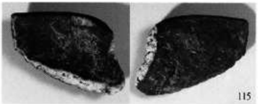
110

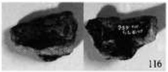
111

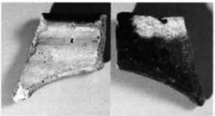
112

113

114


115

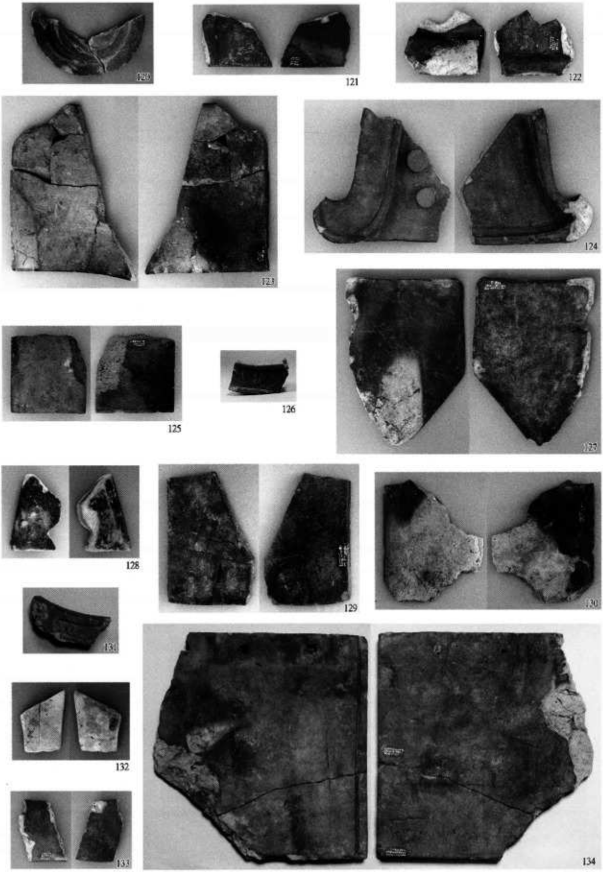

116


117

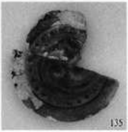
118

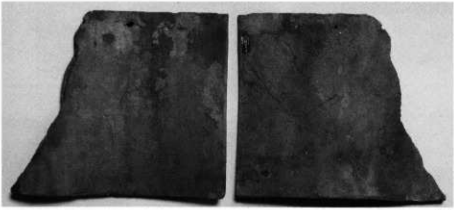
119

写真図版19　第26次調査出土土師質土器・瓦質土器（S=1/3）



写真図版20　第26次調査出土瓦１（S=1/6）


135

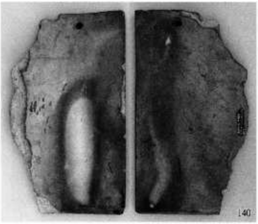

137

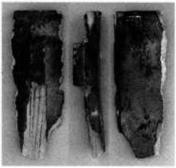
136

141

138

139

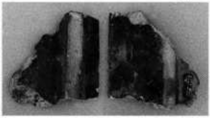

140


142

143

144

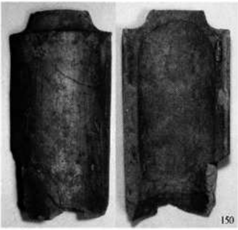
146


149

145

147

148


150

151

写真図版21　第26次調査出土瓦２（S=1/6）

152

153

154

155

156

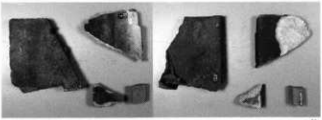
157

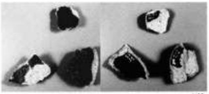
158

159

160

161


162


163

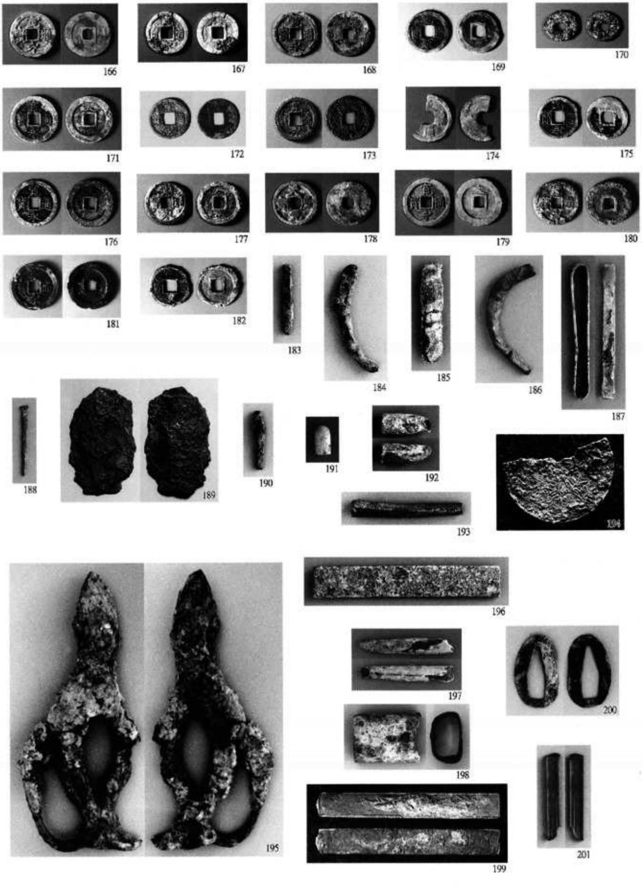
164

165

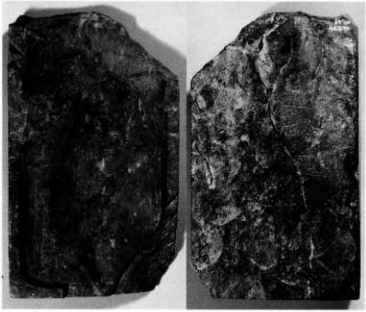
写真図版22　第26次調査出土瓦３（S=1/6）

図	遺物番号	種類	区	遺構・層位	文様	法量(mm)	重量(g)	備考
152	1616	平瓦	2	KS-1004・埋土	－	－	－	左の瓦に釘穴1個有り
153	1612	平瓦・丸瓦	2	Ⅲ上面	－	－	－	左下が丸瓦
154	1615	平瓦	2	Ⅲ上面	－	－	－	
165	1541	軒平瓦	2	Ⅲ上面	－	－	－	瓦当部

第33表　第26次調査出土瓦観察表

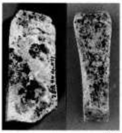


写真図版23　第26次調査出土金属製品・べっ甲製品（S=1/2）



202

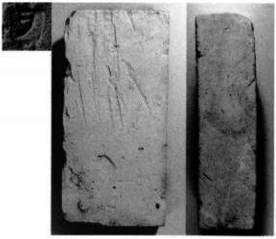
203



206

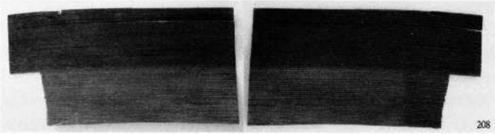
204

205



207

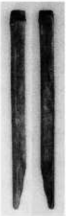
写真図版24　第26次調査出土石製品（202～206：S=1/2）・レンガ（207：S=1/3）



208

209

210



211

213

212

写真図版25　第26次調査出土木製品（208～211：S=1/4）・漆器（212：S=1/3）・皮革製品（213：S=1/2）

図	遺物番号	種類	区	遺構・層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	径 (mm)	備考
212	112	漆器椀	1	KS-894・埋土	―	―	―	―	丸に片喰文　内赤色漆　外黒色漆

第34表　第26次調査出土・漆器・観察表

5.絵図の検討

『伊達家史叢談』には、仙台城内で酒造りを行っていた榧森家の屋敷絵図（「仙台城内榧森御酒屋之図」）が載せられている。現在、屋敷全体を知ることのできる唯一とみられる資料である。管見では、この絵図が検討されたことはこれまでないようである。ここでは紹介をかねて、その内容をみていくことにしたい。

まず、『伊達家史叢談』については、伊達邦宗氏（伊達家十五代当主）が、「家二関スル史談ヲ記録シテ、之ヲ永久二伝ヘムト欲ス」として、明治29年より同45年まで資料収集活動を行い、大正10年に全十六巻に及ぶ大作を謄写版印刷により発刊した。この本の内容は、伊達家の系譜・歴代藩主の事蹟・仙台城のこと・仙台藩の行事などが記載され、さらに、慶長遣欧使節・寛文事件・戊辰戦争に関する資料も収められている。榧森家については巻之五の仙台城本丸の記述の中にみられる。内容は、仙台藩初代藩主伊達政宗により、大和国奈良から慶長13年に酒造り職人として呼ばれ、城内に屋敷をもらい居宅と醸造所を設けたこと、酒の効能や種類のことが記述されている。ここに、「仙台城内榧森御酒屋之図」と題する屋敷絵図が付図として載せられている（第36図）。この絵図には、原本が初代榧森又衛門から数えて十五代目にあたる大泉ひで氏の所蔵との記述がある。絵図の制作時期は、記述がなく不明である（屋敷自体は、少なくとも廃業した明治９年までは存続していたと考えてよい）。

絵図は、謄写版印刷のためかインクあるいはゴミが付着し文字や図形が見ずらい。方位を間違えており、東を「西」と記述している。絵図をより正確に理解しようと、仙台市博物館仙台市史編さん室の鵜飼幸子氏・菅野正道氏の協力を得て、文字を解読し、模式図を作図した（第37図）。

絵図の南側には、本丸北側石垣の脇にあった太鼓部屋とそれに続く登城路の土塀が描かれ、清水門に至る。清水門側は、正しくは西側になる。太鼓部屋の北側崖下で、西に清水門、東に巽門の間に位置する平場に屋敷がある。屋敷の北側には、東丸あるいは蔵屋敷などと呼ばれた三の丸米蔵跡が位置し、江戸初期には伊達政宗の屋敷跡があったことが、発掘調査で解明された。つまり、政宗の屋敷のすぐ南に、榧森家の屋敷があったことになる。巽門のある屋敷東側から北東部は石垣、その上は竹垣になっている。北側東寄りに入り口があり、階段と門が描かれている。入り口から清水門までは、生垣さらに続いて柵になっている。また、巽門以南の屋敷南東側は前述の竹垣の他、「自分屏」と称する土塀が描かれている。ここは、直接城外と接する場所であるためか、区画施設が二重になっている。屋敷南西部の南側登城路手前は、石垣を積んだ一段高い平場があり、建物が１棟建ち背後は「竹藪」が描かれている。平場や建物は、その位置と性格について今後検討が必要である。屋敷中央には西から「次ノ間」・「茶ノ間」・「座敷」・「納戸」・「仏間」が東西に連なる居宅として描かれ、東端ではさらに北へ伸びて「次ノ間」や床の間のある「座敷」へ続き、屋敷の入り口に接している。一方、西端では、名前のない部屋に続いて南北に長い建物（３部屋分）が描かれている。この建物は浅黄色の貼紙に「上意」（朱書き）と書かれ、用途や規模は不明としている。周囲の部屋との関連から、おそらく蒸米を作る釜屋の建物と想像される。そのそばに接して、洗米をする「米とぎ場」や醪の仕込み作業をする「掛下ゲ」の部屋が位置し、東の「売場」へ続いている。「売場」は江戸期であれば、城内で小売りをしていたとは考えにくく、さらに性格等検討を要する。

また、北側にも「上意」として扱われた建物が２棟あり、完成した酒を貯蔵したとみられる「酒蔵」となっている。２棟とも規模は不明である。これらの建物は、前述の「掛下ゲ」「売場」と「廊下」で連結されている。西側の清水門寄りには、井桁の印のある建物が２棟描かれている。室内に井戸のある建物になろうか。この２棟うち、北側の建物は、「米とぎ場」「酒蔵」と「廊下」でつながれており、間仕切りの南側の部屋は「本蔵」と記されている。この蔵の用途は不明である。屋敷北東角では、前述の床の間ある「座敷」の東側、巽門との間に庭園が位置し、池とみられる「泉水」２ヵ所や「ツキ山」、さらに東屋とみられる小型の建物２棟、周縁では庭木が描かれている。

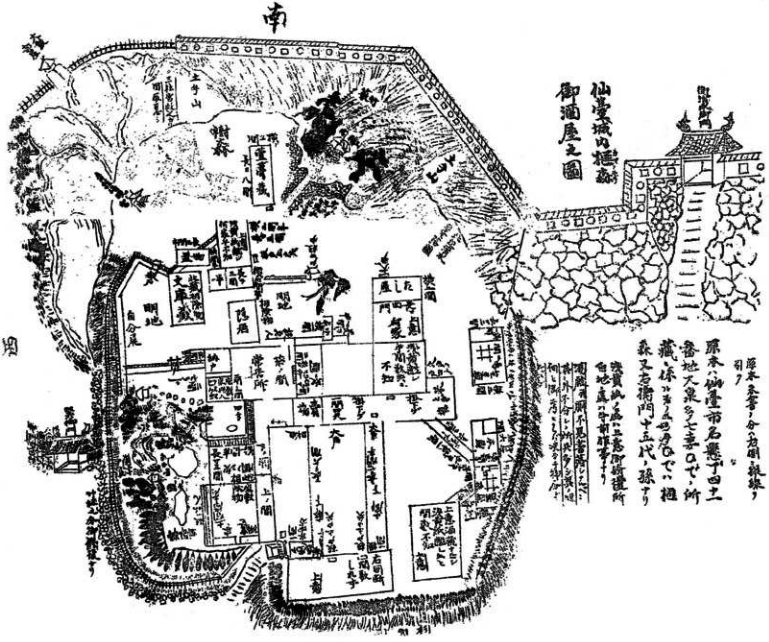
屋敷の奥に当たる南側には、前述した「茶ノ間」の南に離れとなっている「隠居」建物、さらにその南には用途不明の「上意」の貼紙のあった建物がある。この建物は、入り口に当たるところに「板戸土戸共」とあるから、土蔵造りの建物と考えられる。前述の「自分屏」が、この建物まで伸び接続している。また、東側には「文庫蔵」「物

置」が並存して描かれている。さらに南奥には、長さ８間・横３間のかなり大きな「菅貸蔵」が描かれている。この西側は前述した石垣を積んだ平場となっている。「上手山」と称する山の裾部には、南東側に「口口権現宮」、南西側には清水の湧く地点が示されている。「上手山」の「太鼓部屋」寄りの中腹には、階段を上がると「三社宮」があるように記述されている。

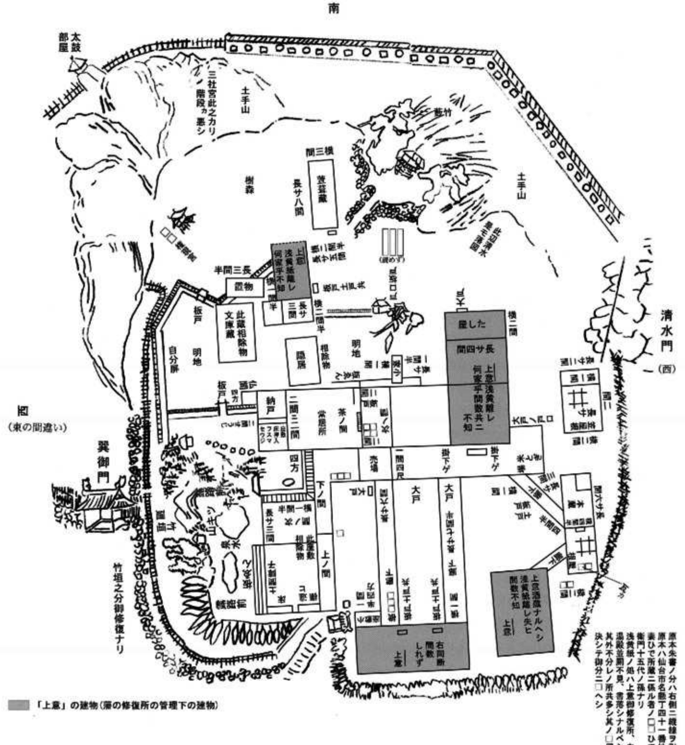
以上、描かれた屋敷についてみてきたが、屋敷のあった現地に立つと、これだけの建物や施設があったのだろうかと考えさせられる。近代に入ると、仙台城本丸跡に建てられた招魂社の参道が、椎森家の屋敷跡内を通るように建設され、屋敷の東側「自分屏」から庭園、そして入り口の門や酒蔵付近が影響を受け、失われた部分もある。こうした影響は、今回の３区の調査成果とも矛盾しない。建物の特徴では、浅黄色の貼紙をした建物（グレートーンで表示）と白地の建物に分かれる。前者の建物はいずれも「上意」と記され、仙台藩が建て維持管理下にある酒造りに関わる建物と考えられる。貼紙が剥がれ用途や規模が不明となっている。後者の建物群は「手前作事」との説明があり、椎森家で建て維持管理をしていた建物群となる。

この絵図には誇張や間違いがある可能性もあるが、椎森家の屋敷内部を知ることのできる資料として重要である。特に、白抜きで「手前作事」として扱われた建物群は、他に資料がなく貴重である。絵図の内容は発掘調査の参考になるが、今後も絵図の内容や制作時期の検討も必要であろう。

仙台城内榧森御酒屋之図



第36図　仙台城内榧森御酒屋之図　(伊達邦宗『伊達家史叢談』2001 今野印刷株式会社外株式会社復刻本 付図より引用 大泉ひで氏所蔵　一部修正)



第37図　榧森御酒屋模式図（明朝体の文字は、今回加筆したもの）

6.まとめ

今回の第26次調査（造酒屋敷跡第３次）では、１～３区の３ヵ所の調査を行った。１区では第23次調査（平成21年度実施）に引き続き屋敷跡中央部の遺構の状況、２区は屋敷跡南端部の遺構の有無、３区は屋敷跡北東側の敷地面積が狭いという疑問から、道路東脇の既存の段差が何時形成されたのかを解明するという目的で調査を行った。

調査の結果、１区では近世の遺構として礎石建物３棟、柱列跡１条、溝跡・石組溝跡20条、半地下式カマド跡１基、炉跡（石囲い）１基、水利遺構１基（木樋・東溝付設）、焼土遺構３基、土坑19基、礎石跡（建物として組まなかったもの）９基、石列１条、集石遺構２基、柱穴・ピット75個を検出した。また、近現代の遺構として溝跡４条、段切遺構（人工の段差）１条、防空壕跡４基、土坑（竪穴）２基、石敷遺構１基を検出した（第11図）。２区では段差を伴う溝跡１条、土坑１基が検出され、遺構の広がりと区画施設の存在が確認できた。３区では遺構を検出することができなかった。道路面と博物館との段差や土手状の高まりは近代以降の盛土によって形成されたことが判明し、段差の下部の近世層は上部が近代に削平を受けていたものと考えられた。

ここでは、１区で検出された主な遺構についてまとめ、また、これまでの調査で検出された遺構・遺物と酒造りとの関わりについて簡単に整理しておきたい。

(1)建物跡　礎石建物跡が３棟検出された（第38図）。

［１号礎石建物］　１号礎石建物跡は東西５間（約10m）以上、南北４間（約7.6m）、方向は、N－約71°－Eの東西棟である。柱間寸法は、６尺３寸（約1.9m）間隔である。礎石は多くが失われていたが、比較的遺構の残りの良い西側で９石検出できた。根固め石は、径が５～15cmの円礫が多用されていた。建物西辺から東へ２間分離れた位置で間仕切りにあたる南北方向の礎石跡が検出された。また、これに合わせて建物北西角に１×２間の張り出し部が確認され、その中央には柄穴のある礎石が検出された。この礎石については、性格がよく分からず今後検討が必要である。建物跡南辺と内部の間仕切りラインでは一部に半間間隔の柱跡が認められた。土壁に伴う間柱の可能性も考えられる。間柱は柱と柱の間にあって補助的役目をもつ柱で、土壁や柱の支え・補強用である。１号建物跡では、KS809、811、813、820、940に間柱の可能性がある。束柱（束石）は、検出されなかった。なお、KS-922・940礎石は、この建物跡と関連する可能性も考えられる。建物跡の時期については、北東角のKS-822礎石跡より、瀬戸美濃染付端反碗が出土したことから、19世紀前葉以降の年代が考えられる。

［２号礎石建物跡］　２号礎石建物跡は部分的な検出で、建物跡東辺と考えられる部分５間分（約９m）を検出した。段切遺構により西側は失われ南側は調査区外に続くことから、建物跡の規模・形状は明確ではないが、東辺より西側へ展開する南北に長軸を持つ建物と想定される。方向はN－約20°－Wである。柱間寸法は６尺３寸（約1.9m）間隔で、１間間隔で礎石跡と柱穴が交互に並んで検出された。礎石は検出できなかったが、礎石跡では東辺で３基検出され、根固め石はいずれも径５cm前後の小型の円礫が使われており、１号建物跡の根固め石とは大きさが異なっている。また、建物内部とみられる位置で炉跡を挟むように、同じ特徴をもつ礎石跡が２基検出されている（KS-829・830）。柱穴は小さく、屋根を支える柱が据えられていたかは疑問であり、あるいは間柱のような性格の可能性も考えられる。束柱（束石）は検出されていない。この建物跡は、今後も検討が必要だが、内部に半地下式カマドと炉の施設をもつ土間形式の建物（蒸米を作る釜屋）と想定される。建物跡の時期については、KS-824礎石跡から京焼色絵金彩皿が出土したことから、18世紀（中葉以降か）の年代が考えられる。

［３号礎石建物跡］　３号建物跡も部分的な検出であり、建物の西辺の一部４間分（約7.8m）を検出した。さらに東側調査区外に続くものと考えられる。方向は、N－約17.5°－Wである。この建物跡も、柱間寸法は６尺３寸（約1.9m）基準と考えられる。礎石は検出されず、根固め石の残りも悪い。根固め石の大きさは、１号建物跡のものとほぼ同じである。１号建物跡と重複しているが、直接の切り合いがなく礎石跡からの出土遺物もないことから、建物跡の時期や新旧関係は不明である。

(2)柱列跡

柱列跡は、1区南東部に位置し、8個の柱穴（KS-835～842）で7間（約6.6m）以上になり、さらに東側調査区外に伸びるものと考えられる。いずれも、打ち込みによるものである。方向はN－約65°－Eである。柱間は、90～100cmのほぼ等間隔である。この遺構は区画を目的とした塀あるいは垣根などが想定でき、KS-604水利遺構の東溝跡やKS-973溝跡などと方向がほぼ合い、関連する可能性も考えられる。

(3)水利遺構

KS-604水利遺構は、南から伸びて接続する木樋、その北に位置する本体である方形プラン、さらに、東側へ伸びる東溝から成っている。木樋は給水、東側溝跡は排水の機能を持っていた可能性がある。また、方形プラン内部も北西部や北側の張り出しには大型の円礫が配置され、中央部の比較的小型の円礫とは対照的で、機能や用途に差があったことが想定される。洗米用の施設とみるか、他の用途を考えるべきかは今後検討が必要である。遺物はいずれも小さな破片が多いが、17世紀後半～19世紀前葉頃までのものが出土しており、遺構の使用期間が長期間だったと考えられる。重複関係にあるKS-924・948・973・974溝跡は、水利遺構の存続期間に接続使用され、その後廃棄された溝跡ではないかと考えられる。

(4)酒造工程と検出遺構との関係

次に、酒造りの工程とこれまでの発掘調査の成果との関わりについて、簡単に整理しておきたい。伊丹の酒造業の調査例を参考にしながらみていくと、酒造りの工程は、①精米→②洗米→③蒸米（釜屋、竈）→④麹仕込み（麹室）→⑤酛仕込み→⑥もろみ仕込み→⑦圧搾（酒搾り、酒槽）→⑧貯蔵（酒蔵）→⑨火入れ（釜屋）→⑩完成（出荷）となる。

①精米には足踏み精米や水車精米が知られているが、調査成果からは判断できない。

②は、第23次調査（平成21年度実施）で重複し時期の異なる3基の井戸跡が検出されたことから、これらの井戸水が使用された可能性が高い。ただし、3基とも洗米用かどうか、生活水用の井戸の可能性も考慮する必要がある。

③は、第23次調査で検出したKS-768カマド跡（上部が削平され残存状況悪し）と第26次調査（平成22年度実施）で検出したKS-917カマド跡が蒸米用と考えられ、半地下式の大型カマド跡であった。蒸米用カマドは室内に設置されるものであるから、これらのカマド跡も建物内部にあったことになる。KS-768カマド跡は周囲に礎石跡が検出されたが、建物プランを確定することができなかった。KS-917カマド跡は、前述したように2号礎石建物跡の施設とみられることから、この建物跡は釜屋の可能性が考えられる。2号建物跡内には、炉跡も施設として存在していたと考えられることから、これは賄い用（炉跡の内外から擂鉢や皿の破片が出土）や暖房用などの用途も想定できる。また、蒸米用カマドを使用すると、蒸米釜から多量の蒸気が発生することから、釜屋の屋根には煙出しという装置の存在が一般的である。したがって、2号建物跡にも煙出しが存在した可能性があろう。

④は麹室での作業が行われるが、麹室は建物内の施設になるので、考古学的には遺構として検出することは難しい。

⑤～⑥は仕込み作業であることから、大型の酒蔵建物で行われ、遺構として検出することができない。

⑦はもろみを搾り清酒（諸白）と粕を分離する作業で、具体的には酒槽内のもろみをテコの原理で下方に圧力かけ搾る。そのテコの支柱は「男柱」と呼ばれる角柱であり、槽の底付近の垂口から流れ出る清酒を受ける施設として大甕（垂壺という）がある。考古学的には、男柱は掘り方土坑を伴い、柱埋設部の下端付近には横木を通している。垂壺は、土中に大甕を埋設し一時的に酒を溜める特徴的な遺構である。調査では、男柱の遺構はKS-894土坑（第16図R、写真図版8・9）やKS-875土坑（写真図版8）にその可能性があったが、断定するには至らなかった。垂壺として、埋設された状態の埋甕遺構は検出されていないが、これまでの調査で備前焼の大甕の破片が出土しておりその可能性がある。第23次調査では17世紀代の備前焼大甕の破片が、少なくとも2個体分出土していることが判明

した。今回の第26次調査では、３区出土資料により口径80cmを越す大甕の存在が確認された（第27図６）。
⑧は専用の蔵（瓦葺きか）の存在が考えられる。第23次調査の１区北部で検出された比較的大型の礎石跡に該当するものが存在する可能性も考えられる。礎石跡付近と、その北に位置する２区にかけて、平瓦や桟瓦が比較的多く出土したことも蔵に関連があるかも知れない。
⑨も建物内部で行われる作業であるが、考古学的には把握できない。
⑩との関連では、第23次調査で表に「御酒塩五升」裏に「極森与左衛門」と書かれた木簡が出土したが、これは完成し樽詰めされた酒樽に付けられた木札と考えられ、間接的に出荷を示す資料である。

酒造り工程に沿って第23次・第26次調査の成果をみてきた。この他にも第23次調査（平成21年度実施）では、井戸跡（KS-746）から米俵や「御年貢米四斗五升口」などと書かれた荷札木簡が出土したことから、酒造りの原料となる米は、米俵に詰めた年貢米が屋敷に納入され、使用されていたことが分かる。また、この井戸跡やその西側近世面では、桶や樽の木端材が多く出土したが、付近で桶や樽の解体修理が行われていた可能性もあろう。さらに、桶の部材には厚さが４cm前後のものがあり、桶の蓋材では復元口径が２mを越すものが出土している。これらは、おそらく５尺あるいは６尺の直径を持つ大桶の存在を示している。大桶は、仕込みや貯蔵などの工程で使用される容器と考えられよう。

⑸その他

この屋敷跡は酒造りの場であると共に、居住の場でもある。居宅部分は、現在までの発掘調査では遺構の検出ができず詳細を示すことができない。ここでは視点を変えて、暮らしぶりの一端を示す出土遺物について簡単にまとめておきたい。

第26次調査（平成22年度実施）	第23次調査（平成21年度実施）
化粧道具：紅皿・柄鏡	化粧道具：紅猪口
装身具　：かんざし	茶道具　：天目茶碗・茶入・風炉・褐釉壺（茶壺か）瓶掛
文房具　：硯	暖房具　：火鉢・火箸
遊具　　：碁石（囲碁）	遊具　　：人形の手（木製）、雛人形か
嗜好品　：煙管（煙草）	履物　　：下駄（男性用、女性用）・草履
生活用品：毛抜き・蚊遣り	その他　：樹皮容器（弁当箱か）・灰汁掬い
園芸用品：鋏（剪定用）	
武器・刀装具：小柄・小柄櫃・切羽（帯刀）	

これらの出土遺物に基づいて、生活の様子を想像することが可能であろう。茶道具の存在は、茶会を行うことがあったこと、遊具からは、囲碁や雛遊びを行っていたこと、園芸用品からは、庭木の剪定や生け花を行っていたことなど、それぞれ推定することができよう。また、小柄や切羽からは、帯刀が許されていたことも分かる。

以上、これまで主に第23次・第26次の調査成果について、その概要をまとめてみた。しかし、酒造りの特徴や屋敷の構造、そこでの暮らしなど、考古学的に充分解明されたとは言いがたく、今後も発掘調査を通して解明されることが、期待される。

第38図　造酒屋敷跡第３次調査　１区建物跡位置図（1/100）

V．広瀬川護岸石垣測量図化

1．調査の経緯

平成17年度に、第14次調査として広瀬川護岸石垣（大橋南側）の測量のための写真撮影を行っていた部分について、図化を実施した。

これまで広瀬川護岸石垣の測量調査は、平成15年度の第９次調査、平成16年度の第11次調査、平成17年度の第14次調査、平成21年度の第25次調査と４年次にわたって測量を実施している。

第39図　広瀬川護岸石垣（大橋南側）全景（南東から）

第14次調査では、広瀬川護岸石垣（大橋北側・南側）と中門北側石垣の３個所について石垣測量を実施した。作業は平成17年12月上旬に清掃を行い、翌18年１月中旬に写真測量を行った。広瀬川護岸石垣（大橋以南側）については、北側約70mについて写真測量を行い、その後３月中旬にその南側約80mを追加して写真測量を行った。北側約70mについては平成17年度に図化を行い、「仙台城跡10」に掲載した。南側約80mの追加測量部分については、今回図化を行った。

2．測量結果の概要

広瀬川護岸石垣（大橋南側）

石垣の高さは、2.4m～3.9m、勾配は76°～82°である。今回図化した石垣の南端部には、かつて広瀬川の水を利用した発電所の取水用の門があり、この門付近は自然石や荒割石を用いた間知石の落し積みの石垣である。この門から北側約５ｍまでの範囲は石垣の間にコンクリートが詰められていた。

コンクリートが詰められていた部分よりも北側の石垣は、自然石及び粗割石を用いた野面積みである。比較的大型の石を横置きに積んでおり、築石の間には詰石がみられる。矢穴のある石材も数点確認された。

江戸時代の絵図によると広瀬川の河道は現在よりも西側にあり、護岸石垣も河道に沿って青葉山山麓まで描かれている。

第40図　広瀬川護岸石垣測量図化部分の位置図

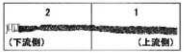
石垣オルソ写真①

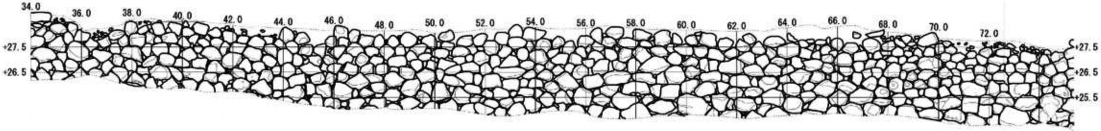
石垣オルソ写真②

石垣オルソ写真③

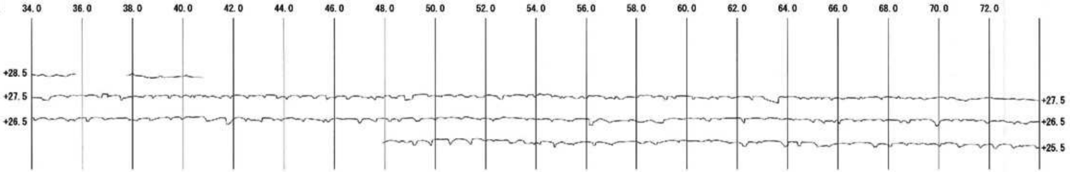
第41図　広瀬川護岸石垣立面写真

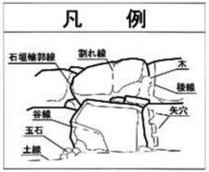
立面図（1）



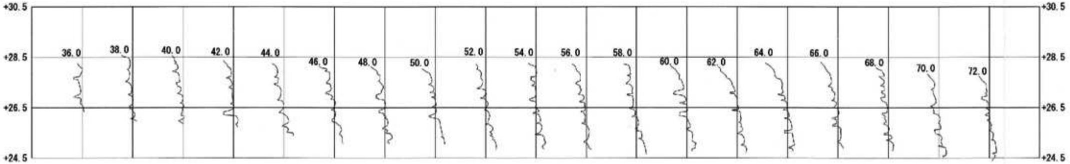


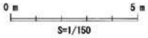
縦断図



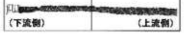


横断図

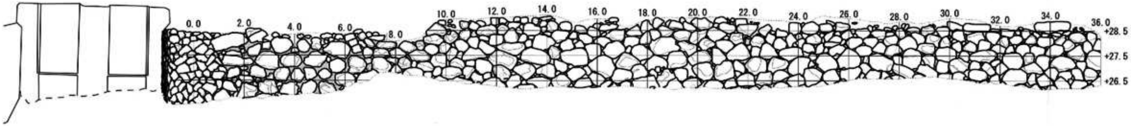




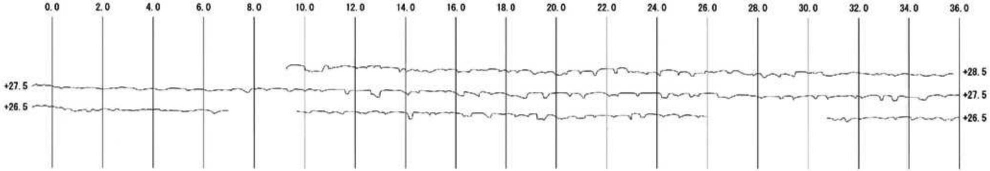
第42図　広瀬川護岸石垣立面図・縦横断図１（1/150）

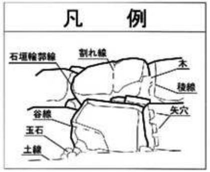


立面図（2）

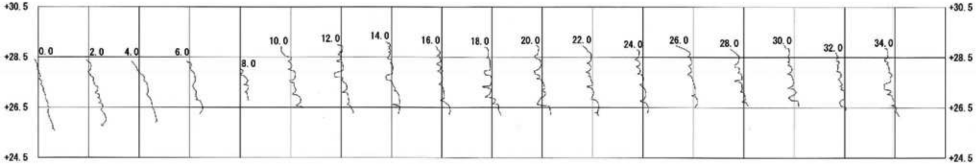


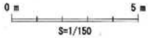
縦断図





横断図





第43図　広瀬川護岸石垣立面図・縦横断図２（1/150）

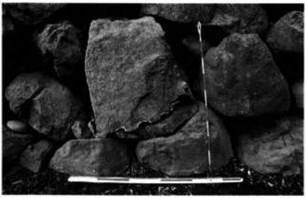
図化地点全景（北東から）

図化地点南端部（東から）

矢穴を伴う石材（東から）

矢穴を伴う石材（東から）

矢穴を伴う石材（東から）


矢穴を伴う石材（東から）

円形の穴を伴う石材（東から）

調査地点南端の隧道の門（東から）

第44図　広瀬川護岸石垣写真

引用・参考文献

伊丹市文化財保存協会 『伊丹の民具　伊丹の酒造り道具』 伊丹市文化財調査報告書第８集　1978

岩井宏實・工藤員功ほか 『絵引　民具の事典』 河出書房新社　2008

小長谷正治・川口宏海 「伊丹郷町の酒造業」『関西近世考古学研究』Ⅳ　関西近世考古学研究会　1996

仙台市教育委員会 「天賞酒造に係わる文化財調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第304集　2006

仙台市教育委員会 『仙台城９』 仙台市文化財調査報告書第349集　2009

仙台市教育委員会 『仙台城10』 仙台市文化財調査報告書第374集　2010

伊達邦宗 『伊達家史叢談』巻之五　1921 （今野印刷㈱復刻本　2001）

坪井利弘 『日本の瓦屋根』 理工学社　1976

南部杜氏編纂委員会編 『南部杜氏』 岩手県石鳥谷町　1983

兵庫県立考古博物館・伊丹市立博物館 『遺跡が語る兵庫の酒づくり　　酒の考古学』 図録　2008

柚木　学 『新装版　酒造りの歴史』 雄山閣　2005

報告書抄録

ふりがな	せんだいじょうあと
書名	仙台城跡11
副書名	－平成22年度　調査報告書－
巻次	11
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第395集
編著者名	佐藤　洋・村上芳成
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980-8671　仙台市青葉区二日町1-1　TEL 022-214-8544
発行年月日	2011年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
せんだいじょうあと 仙台城跡 ぞうしゅやしきあと 造酒屋敷跡 ［第26次調査］	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおばくかわうちちない 青葉区川内地内	04100	01033	38°15′06″	140°51′38″	2009.7.1 ～ 2009.11.12	420㎡	重要遺跡の遺構確認調査
せんだいじょうあと 仙台城跡 ひろせがわごがんいしがき 広瀬川護岸石垣	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおばくかわうちおいまわし 青葉区川内追廻 ちない 地内	04100	01033	38°15′06″	140°51′51″	2009.12.16 ～ 2010.1.7	約240㎡ （立面） ［図化］	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仙台城跡	城館跡	江戸時代	建物跡・礎石跡 石　列・カマド跡 炉　跡・石組溝跡	陶磁器 土師質土器 瓦質土器 瓦 石製品 金属製品 木製品	第26次調査では、造酒屋敷に伴うと考えられる建物跡や石列、カマド跡、炉跡、石組溝跡などを検出した。また、近代以降の溝跡、土坑を検出した。
		明治時代	溝　跡 土　坑		

要約

仙台城は、初代仙台藩主伊達政宗によって造営された城である。慶長5年（1600）に城の縄張りが開始され、翌年から普請に着手、工事は慶長7年（1602）に一応の完成をみたとされている。築城当初は「山城」である本丸を中心とする城郭であったが、政宗の死後、二代藩主忠宗が山麓部に二の丸の造営を開始する。寛永年間以降はこの二の丸が藩政の中心となり、三の丸・勘定所・重臣武家屋敷などが一体となって城域を形成していた。

造酒屋敷は清水門の南側に位置し、伊達政宗が親しい徳川家重臣柳生宗矩の紹介で、慶長13（1608）年に大和国から優れた南都流の酒造技術を導入するため、又右衛門という技術者を招き、仙台城内の一角に屋敷地を与えた場所にあたる。また、出身地にちなんだ「榧森」の苗字を名乗ることを許し、榧森家は「御酒屋」として藩内で消費する酒を造った。第26次調査では礎石建物跡3棟を検出した。3棟のうち1棟には、内部に蒸米用のカマド跡や炉跡が伴うことが明らかになり、酒屋の建物跡と推定された。口径が約80cmの備前大甕が出土し、酒甕の可能性がある。かんざし、小柄、柄鏡、鋏、碁石等屋敷内の暮らしぶり示す遺物が出土した。

仙台市文化財調査報告書第395集

仙　台　城　跡　11

— 平成22年度　調査報告書 —

2011年3月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区二日町1－1
文化財課　TEL 022（214）8894

印刷　株式会社　建設プレス
仙台市青葉区折立三丁目2－10
TEL 022（302）0771